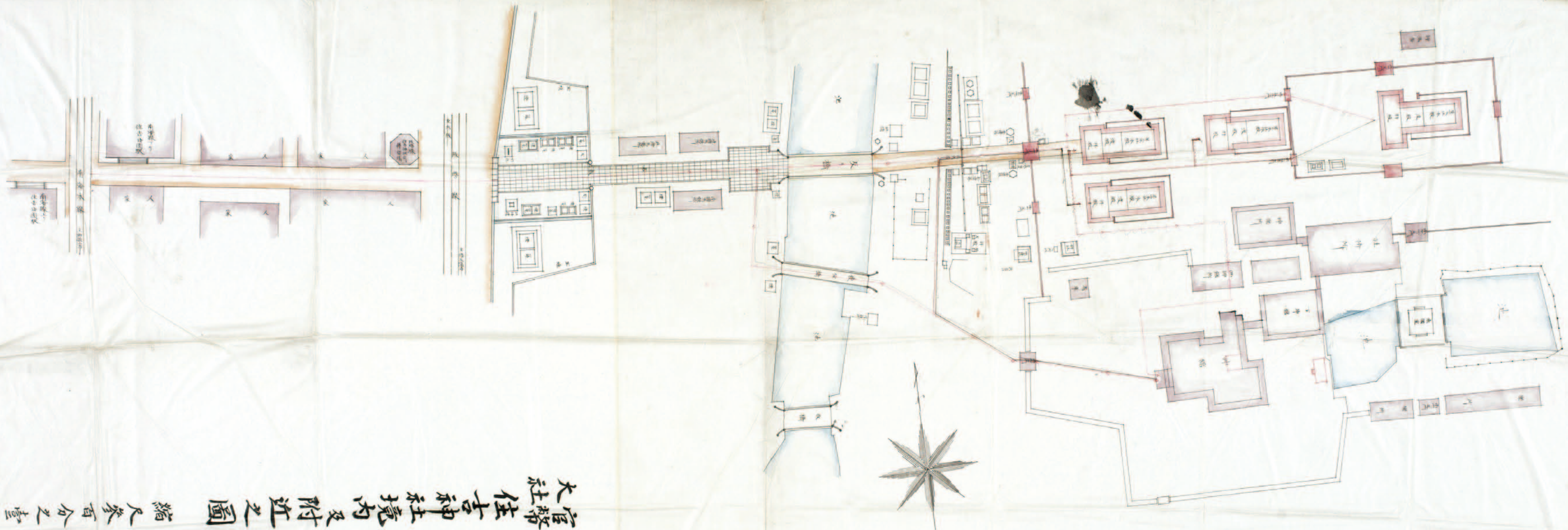


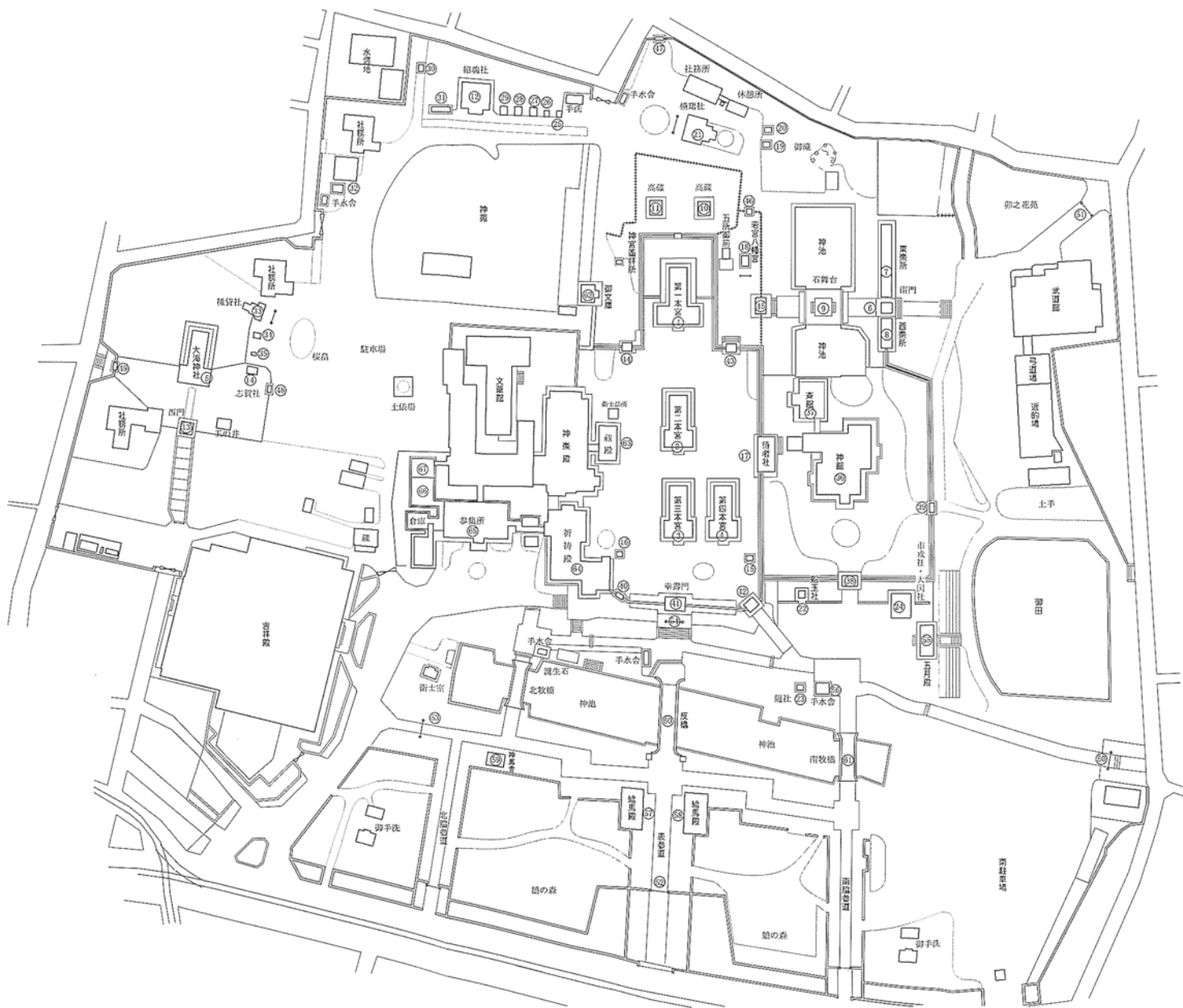
明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社宮略図及明細書



関西大学なにわ大阪研究センター

官幣大社 住吉神社境内及附近之圖 縮尺參百分之壹





0 50 100 m



番号	建造物名称	番号	建造物名称
①	第一本宮	⑤⑥	神館
②	第二本宮	⑤⑦	斎館
③	第三本宮	⑤⑧	神館西門
④	第四本宮	⑤⑨	神館南門
⑤	大海神社	④⑩	幸祿門
⑥	南門	④⑪	幸寿門
⑦	東楽所	④⑫	幸福門
⑧	西楽所	④⑬	南瑞籬門
⑨	石舞台	④⑭	北瑞籬門
⑩	南高蔵	④⑮	南中門
⑪	北高蔵	④⑯	東薬医門
⑫	招魂社本殿	④⑰	東門
⑬	大海神社西門	④⑱	大海神社南小門
⑭	志賀社	④⑲	大海神社北小門
⑮	橋社	⑤⑰	南大鳥居
⑯	鉦社	⑤⑱	東大鳥居
⑰	侍者社	⑤⑲	西大鳥居
⑱	若宮八幡宮	⑤⑳	北大鳥居
⑲	立間社	⑤㉑	角鳥居
⑳	貴船社	⑤㉒	五月殿
㉑	楠珊社	⑤㉓	南手水舎
㉒	船玉社	⑤㉔	北絵馬殿
㉓	龍社(御井殿社)	⑤㉕	南絵馬殿
㉔	市戎社・大國社	⑤㉖	神馬舎
㉕	新宮社	⑥⑰	反橋
㉖	八所社	⑥⑱	南牧橋(平橋)
㉗	今主社	⑥㉑	御文庫
㉘	斯主社	⑥㉒	藏殿
㉙	薄墨社	⑥㉓	祈禱殿
㉚	后土社	⑥㉔	参集所
㉛	五社	⑥㉕	連歌所
㉜	星宮	⑥㉖	宮司室
㉝	種貸社		
㉞	児安社		
㉟	海士子社		

『住吉社歴史的建造物調査報告書(本文編)』(2008年)から引用

〈目次〉

口絵 「官幣大社住吉神社境内及附近之図」

現在の境内図

「明治貳拾八年十一月十五日

現今建物官営社営略図及明細書」について

・
・
・
・
・
・
・
・

1

「明治貳拾八年十一月十五日

現今建物官営社営略図及明細書」

・
・
・
・
・
・
・
・

5

表紙写真「住吉神社境内」(住吉大社所蔵)
裏表紙写真「反橋」(住吉大社所蔵)

「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社營略図及明細書」について

橋寺知子

ここに翻刻した文書は、「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社營略図及明細書」と題された大阪市住吉区・住吉大社の建築に関する記録文書である。この文書には、明治二十八年（一九〇五）当時、境内に存在した建造物の正面図、側面図、平面図等が略図で示され、建造物の来歴、修理や建替えの年月や内容等が付記されている。また、本宮本殿のみならず、末社の建物から神楽所や各種の門、鳥居、蔵、木柵に至るまで、境内の工作物の多くが書き留められている。しかし、表紙の左下に欠損があり、その作成者あるいは作成機関は明らかではない。

古代以来の長い歴史をもつ住吉大社だが、明治期には廃仏毀釈による神宮寺の破却、境内地の近代公園化、それに伴う境内面積の大幅な減少など、大きな変化に見舞われた。また明治期には二回の遷宮を伴う修理が行われており、建物や工作物は変化し、神社空間にも「近代化」が進んだ。「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社營略図及明細書」は、その二回の大修理の間に作成されたものである。住吉大社にはさまざまな歴史資料が保管されているが、実は明治中期の社務日誌や建築関係書類等の所蔵は少なく、この文書はその空白期を埋める資料となり得る。

住吉大社の建築に関しては、住吉大社歴史的建造物調査委員会編著『住吉大社歴史的建造物調査報告書』（平成二十一年十月）が出版されている。この報告書は、第四十九回式年遷宮（平成二十一年）に際し、取りまとめられたもので、住吉大社の歴史的建造物について詳細に論じられている。だが明治期の建造物の状況については、上述の通り、住吉大社所蔵の資料では詳細がわからない部分があるため、概要を示すにとどまる部分

が見られる。

上記報告書に関わる調査結果の一部を発表したものに、水田丞「住吉大社末社招魂社（旧住吉神宮寺護摩堂）の復原」（平成二十二年）日本建築学会近畿支部研究発表会研究報告集、計画系九一七～九二〇ページ、二〇一〇年）がある。境内にあった神宮寺は、明治期に消滅したが、遺構は移築・転用されていることが知られている。この研究は、住吉大社末社招魂社として現存する旧神宮寺護摩堂を調査し、復原を試みたものである。直接、近代の住吉大社の建築を取り扱うものではないが、明治期の住吉大社では、施設面で大きな変化が起こっていたことがわかる。

「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社營略図及明細書」と、住吉大社に残るその前後の時期の資料を比較検討することで、いままで空白期となっていた明治期の住吉大社の建築および境内の様子を連続的に把握する一助になることが期待される。

○明治期の修営と本文書の作成時期

『住吉大社歴史的建造物調査報告書』によると、明治期には建造物の修理や屋根の葺替えなどの実施に伴い、二度の遷宮が行われている。まず一度目は明治十年代で、明治十年六月に第一本宮の仮遷宮が実施され、修理が行われた。同年十二月には、最も破損が甚だしかった第四本宮の仮遷宮が行われた。修理や屋根の葺替えを行い、明治十一年五月に第一・第四本宮、翌十二年三月に第二・第三本宮の正遷宮が行われている。二度目の遷宮は明治三十年代で、第一本宮の棟札の記載によると、前回の遷宮から二十年目の明治三十一年に屋根の葺替えが依頼されたが、許可を得るのに二年を要し、明治三十四年に着手・落成したことが分かる。第二本宮以下の修繕は

先に延ばされ、明治三十九年から四十年にかけて完成した。

「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官
営社営略図及明細書」は、この二回の遷宮を
伴う大規模な修繕工事の間に作成されてお
り、作成年を考えれば、明治三十年代の明治
期二回目の大規模修繕の計画をいよいよ具
体化しようとする頃に作成されたものと推
測できる。

○書きとめられた建物や工作物

「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官
営社営略図及明細書」には、第一本宮から始
まって主な社殿、それらに付属する垣や土塀、
付属建物、鳥居や門、そして末社や蔵、橋な
どの工作物も含め、一〇一件の物件が列挙さ
れている。本宮では、本殿、拝殿、渡殿は、
別々の一件と数えての一〇一件である。一件
ごとに、基本的に正面図と側面図、簡単な平
面図が作成され、建坪や高さ等の記載がある。
全ての物件ではないが、建立時期、修理時期、
修理内容の記載、そしてその資金を寄付した
団体等が記されている。明治十年から十二年
にかけての大修理以後の小規模な修理につ
いての言及もところどころ見られ、近代の住
吉大社の造営史を詳しくみる上で、新たな知
見をあたえてくれるだろう。

細かな工作物は省略して、記載されている
主な建造物名称を列举すると、次のようなも
のが取り上げられている。

第一之本宮

第二之本宮（本殿正面図は見当たらない）

第三之本宮

第四之本宮

第一之本宮瑞籬南四足門、北四足門

仮社務所、仮社務処西薬医門

高倉

東神饌所

神楽所

神輿庫

文庫



第三本宮および第四本宮（現況）



第一本宮本殿（現況）



第一本宮拝殿（現況）

神馬屋
 蓮池北側絵馬掛所
 楽所（右方、左方）
 皇典研究所・講社取扱所
 絵馬掛所（南、北）
 角鳥居
 反橋、便宜橋
 西大鳥居、東大鳥居、南大鳥居、北大鳥居
 摂社大海神社
 摂社大海神社鳥居
 摂社志賀神社
 摂社船玉神社
 摂社若宮神社
 末社斯主社
 末社児安社
 末社楯社
 末社八所神社
 末社鉾社
 神饌所（侍者社か？）
 末社市社
 末社新宮社
 末社海士子社
 末社龍社
 末社今主社
 末社后土社
 神宮遥拝所
 末社長岡社
 末社貴船社
 末社苗見社
 末社誕生石
 末社五所御前
 招魂社

（門や籬、塀などは省略）

これらの建造物・工作物は、それぞれ丁寧に記されているものの、境内のどこに位置しているのか示した図はない。実は、明治中期の境内の様子は、前述の報告書『住吉大社歴史の建造物調査報告書』でもあまり明らかではない。同書には住吉大社所蔵の絵図や指図など、境内の様子がわかる資料の紹介がある



若宮八幡宮と南中門（現況）



御文庫（現況）



角鳥居と幸壽門（現況）

が、そのうち明治期に作成されたものは四点で、明治十四年以前に作成されたと判断できるものが三点、残る一点「摂津国坐官幣大社住吉神社之図」は、明治十六年の境内図である。明治中期以降の境内図は見当たらない。便宜的に、現在の境内配置図に記された建造物と対応させてみると、配置図にリストアップされている六十七件のうち、少なくとも四十二件の記載が確認できた。大正期から昭和期にかけて、住吉大社の境内は大きく変化しており、明治二十八年の記録を現在の境内配置図と比較するのは妥当とは言えないのだが、この翻刻にある一〇一件の建造物・工作物の姿図や記述を確認しながら、その前後の境内図、さらに既往研究での知見を合わせて検討していくことで、明治期の住吉大社の境内の様子が明らかになることが期待できる。

○「官幣大社住吉神社境内及附近之圖」

(口絵)

関西大学なにわ大阪研究センターが「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社営略図及明細書」を入手した際、文書の綴りとともに、一枚の境内の配置図が含まれていた。和紙に着色の配置図で、「官幣大社住吉神社境内及附近之圖」と題され、縮尺三百分の一で、第一本宮付近から南海本線住吉公園駅付近まで、境内の主要な建物や工作物、参道などが描かれている。この配置図には作成年月の記入がないが、記述内容から、「明治貳拾八年十一月十五日 現今建物官営社営略図及明細書」の付図とは考えられない。それより後の作図と推察される。

配置図の記述内容をもう少し詳細に見る。南海本線住吉公園駅と阪堺線の住吉神社前停留所が描かれている。南海本線は明治十八年、阪堺線は明治四十三年の開業であるので、この配置図は明治末以降の様子を表したものと判断できる。境内に関しては、四つの本宮より南側しか記されていないが、大正三年に新築された社務所や大正四年新築の神館が本宮の南側に描かれている。社務所が現在

の位置、つまり本宮の北側に移築されるのは昭和五年であるので、この配置図は、大正中期以降昭和五年以前の様子を記したものと考えられる。

またこの配置図には、矢印付きの線などの書き込みがなされている。凡例には「御休憩所」や「舞樂台覽所」、「御参向道」、「御下向道」といった語が並んでいる。御休憩所は神館内中央の一番奥に設けられ、舞樂台覽所は、石舞台が望める神池の西側に設けられている。凡例での言葉遣いから、皇族、あるいは高位にあった人物の参詣に際しての計画図ではないかと推測される。



第一本宮東側の高蔵2棟（現況）



反橋（現況）

明治貳拾八年十一月十五日

現今建物官營社營略図及明細書

〈凡例〉

一、旧字体・俗字・異体字は新字体・正字に改めた。ただし、「全」のみ原文のまま表記した。

(例)

壹 ↓ 壹、廳 ↓ 庁、冫 ↓ 事、𠂔 ↓ 時、昏 ↓ 書
迄 ↓ 迄、尔 ↓ 爾、𣎵 ↓ 儘、冫 ↓ 宜、脩 ↓ 修
船 ↓ 船、畧 ↓ 略、メ ↓ シテ、𠂔 ↓ トモ

一、助詞に用いられる漢字は、小字で表記した。

一、判読不明な文字は、その字数に相当する数の□で表した。

一、文字に疑義があるものは、ルビで（ ）に推定される文字を入れた。

一、○は文の順序を訂正する記号として、必要に応じて原文のまま表記した。

一、読み易さを考慮して、適宜読点を補った。

一、段落・行替えなどはそのまま再現した。

一、朱字は『 』で表記した。

一、取消線については、黒線は一重線、朱線は二重線で表記した。

一、軽微な挿入文字は、そのまま文中に挿入した。

一、翻刻に際しての注記は、原文の頁末尾に【 】で表記した。

一、史料は便宜上、表紙・裏表紙を含めた通し番号を打った。

一、「通し番号」「建築物名」「建築形式」は、見出しとして右端に表記した。

(例)

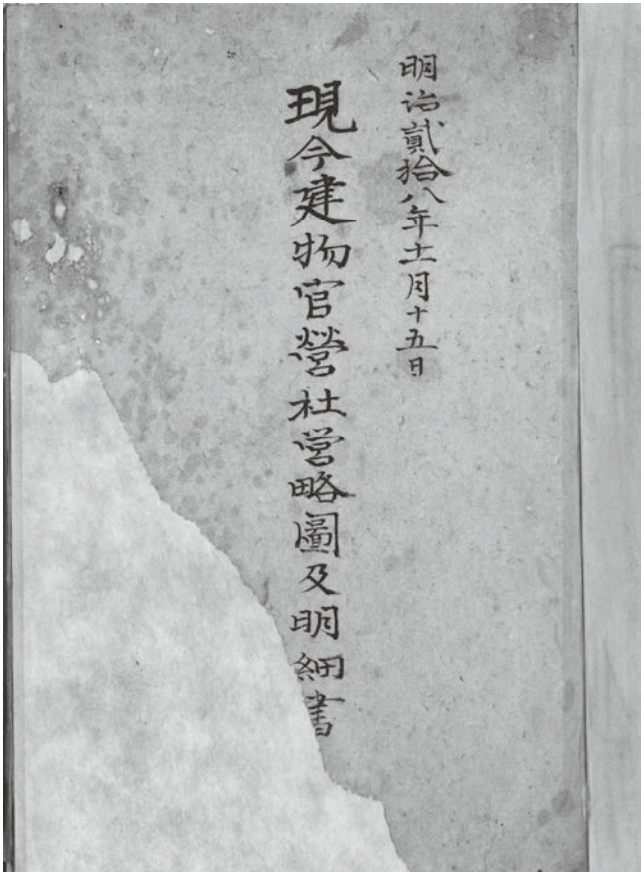
(通し番号)

「社名、建築物名、向き」

「建築形式（造り、破風、拝殿）、素材、塗装法」

(1)

(表紙)



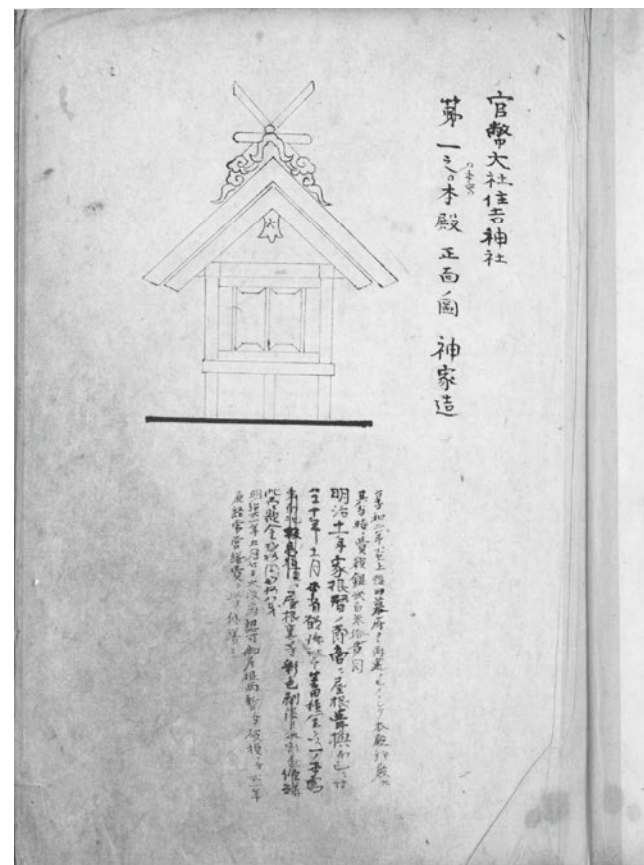
明治貳拾八年十一月十五日

現今建物官營社營略圖及明細書

(2)

官幣大社住吉神社

第一之本宮本殿 正面ノ図 神家造



享和二年炎上後旧幕府ヨリ再建ノモノニシテ本殿拝殿并
其当時ノ費額銀貳百参拾貫目

明治十一年家根替ノ節菅二屋根葺換^而已ニ付

全十年十一月本省願濟、社費蓄積金ヲ以一ノ本宮

東南北板忠垣并干屋根裏等彩色剥落ノ処彩色修繕

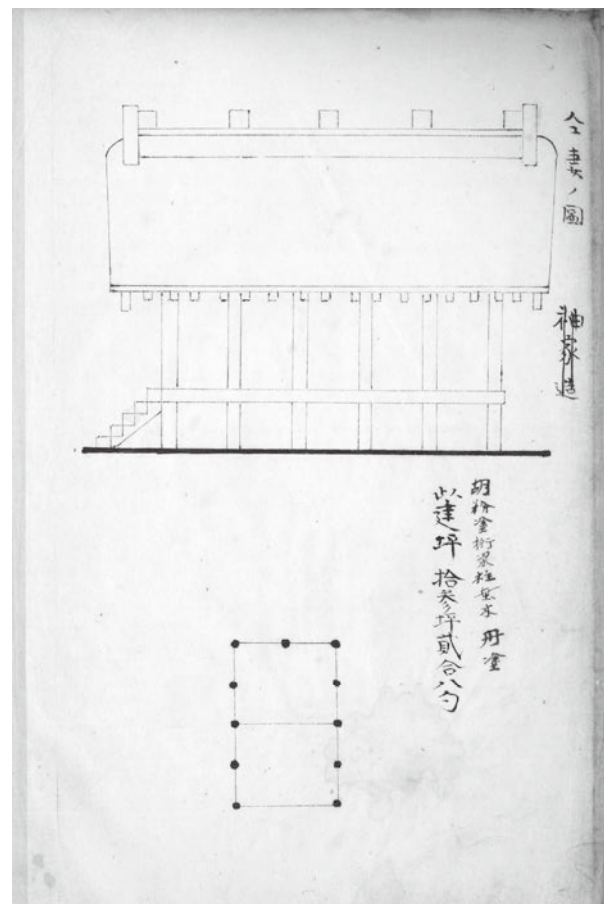
此費額金貳拾円貳拾八錢

明治卅一年五月七日大阪府認可、御屋根両暫付破損ニ付卅一年
度經常営繕費ヲ以テ修繕ス

(3)

全 妻ノ図

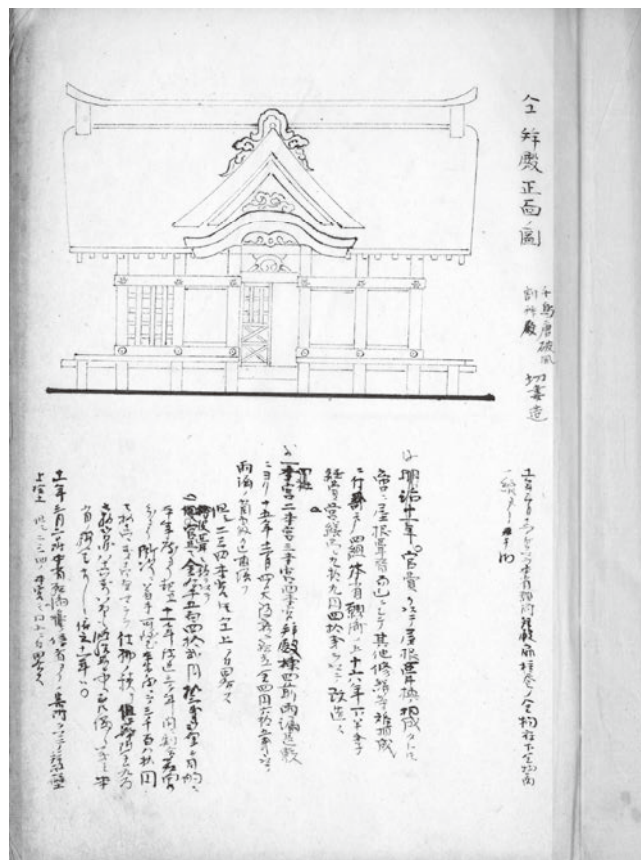
神家造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



此建坪 拾参坪貳合八勺

(4)

全拝殿 正面ノ図
切妻造、千鳥唐破風、割拝殿



十一年三月十三日付ヲ以テ本省願済、拝殿扉柱卷ノ金物府下金物商
一統ヨリ惣テ納^(カ)

後明治十年○官費ヲ以テ屋根葺換相成タレトモ

甍ニ屋根葺替^而ニシテ其他修繕等難相成

ニ付、部戸四組本省願済ノ上、十六年下半季

經費當繕費九拾九円四拾錢ヲ以テ改造ス

四社

前一本宮二本宮三本宮四本宮拝殿棟四前雨漏甚敷

ニヨリ十五年十二月四日大阪府へ願立、金四円六拾五錢ヲ以テ

雨漏ノ箇処^而取繕フ

但シ二三本宮トモ全上ニ付略ス

檜皮葺之積ヲ以テ

但シ官費金九千五百四拾貳円拾三錢貳厘ヲ目的ニ

本年度ヨリ起工十一年度迄三ヶ年間ニ割合、若宮

分ヨリ漸次ニ着手可致、尤本年度ニテ三千百八拾円

七拾壹錢壹厘マテヲ仕払ノ積リ、但シ寄附金九百

七拾貳円八十六錢八厘も修繕費中へ差備候義と本

省ノ指^(カ)令有之、依之十一年ハ○

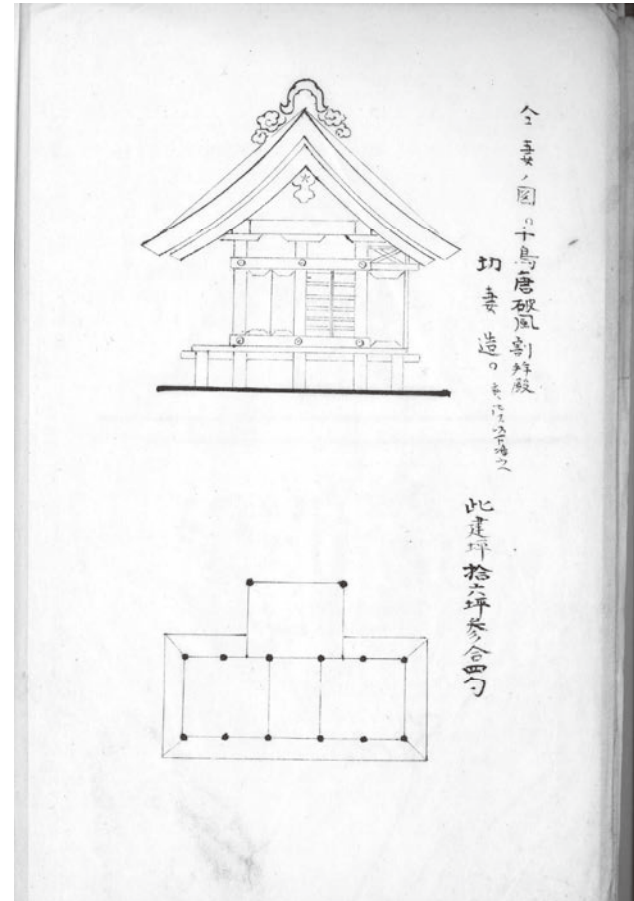
十一年三月二日附本省願済ヲ以テ信者ヨリノ寄附ヲ以テ拝殿壁
上塗、但シ二三本宮モ同上ニ付略ス

(5)

全妻ノ図

切妻造、千鳥唐破風、割拝殿

表ニ記入、以下准之



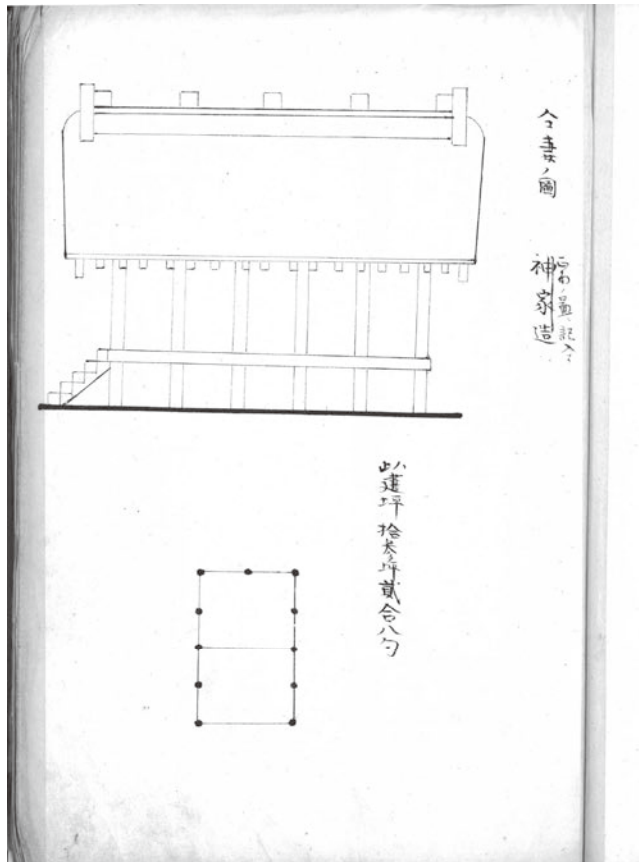
此建坪 拾六坪参合四勺

【この後に落丁あり。「第一本宮拝殿の廊下図」「第二本宮本殿の正面図」が抜けたものか。】

(6)

全妻ノ図

正面ノ図ニ記入ス
神家造



此建坪 拾参坪貳合八勺

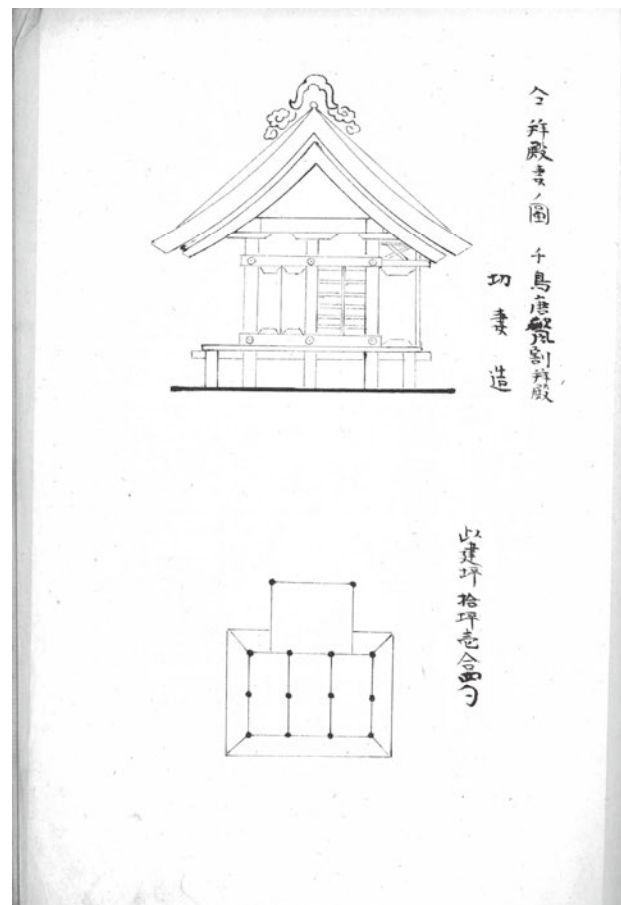
(7)

全拝殿 正面ノ図



(8)

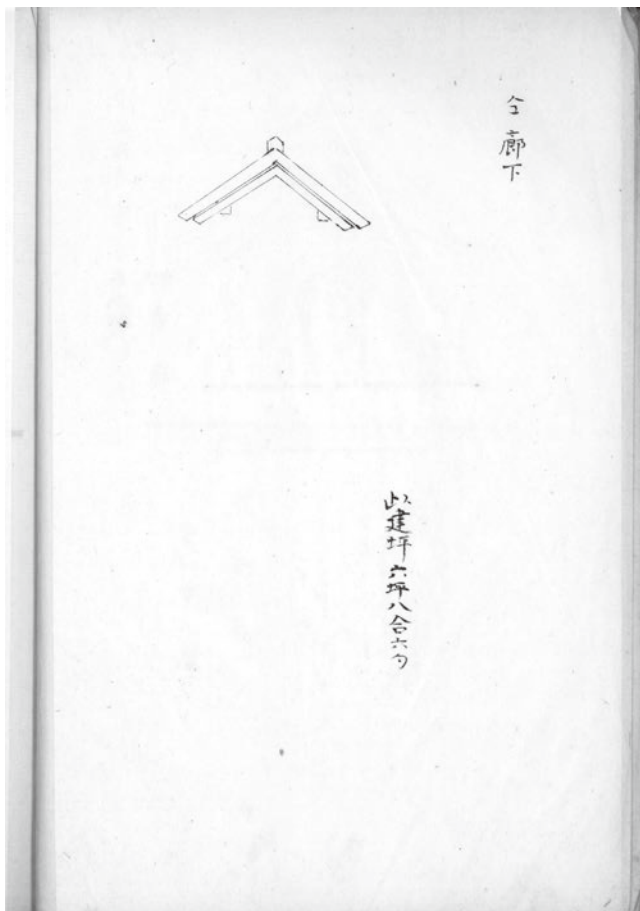
全拝殿 妻ノ図
切妻造、千鳥唐破風、割拝殿



此建坪 拾坪壹合四勺

(9)

全 廊下

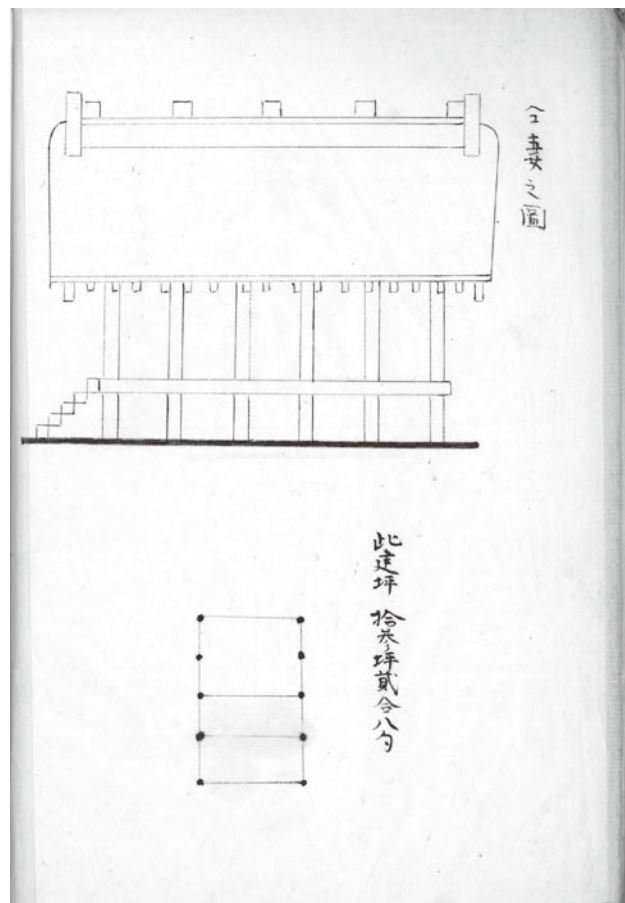


此建坪 六坪八合六勺

(10) 第三之本宮本殿 正面之図
神家造

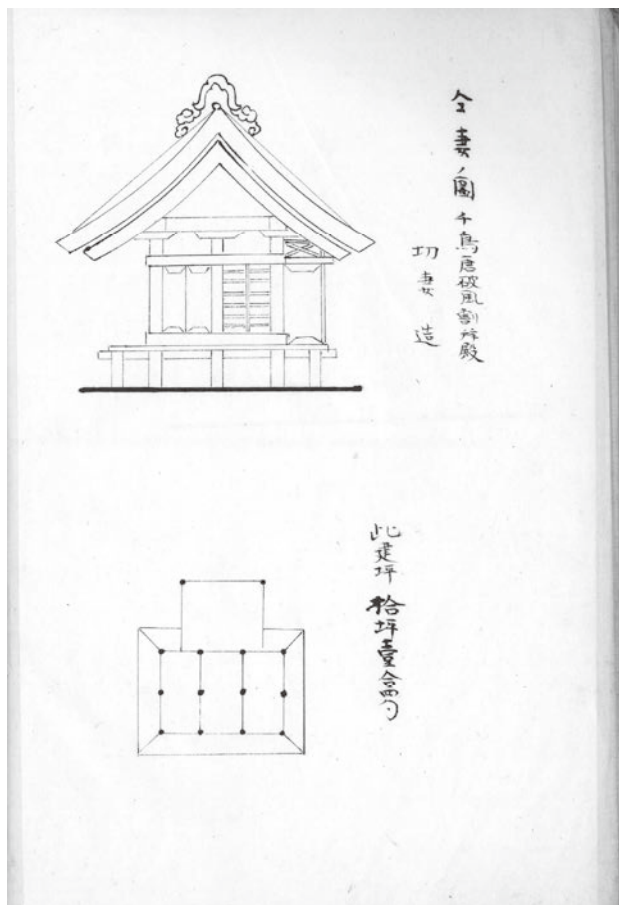


(11) 全 妻之図



此建坪 拾参坪貳合八勺

此建坪 拾坪壹合四勺

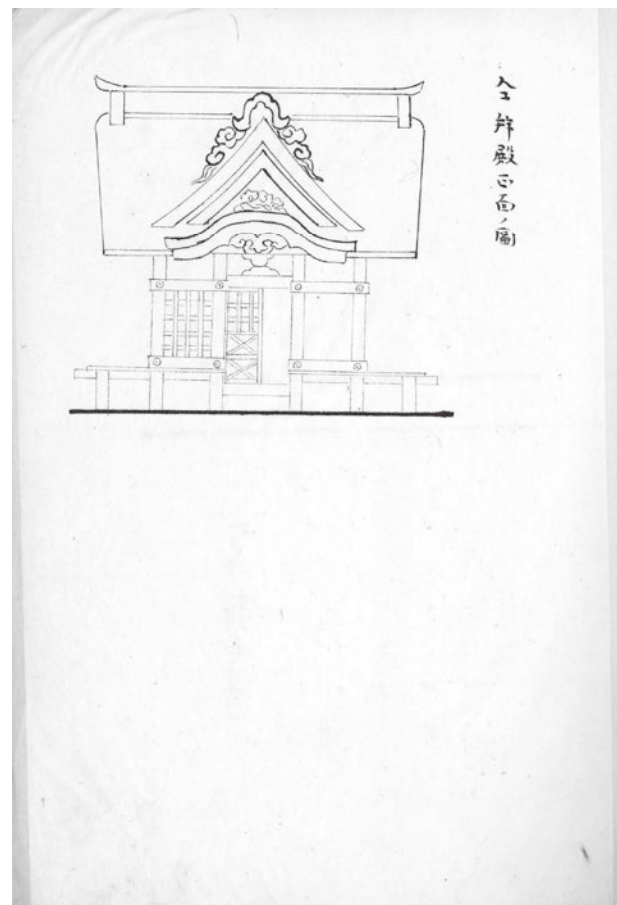


(13)

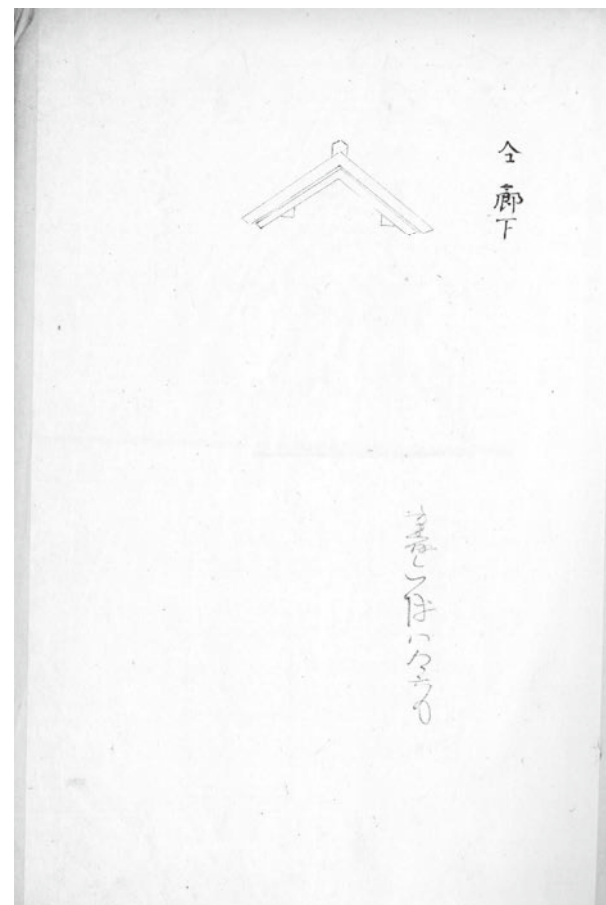
全妻ノ図
切妻造、千鳥唐破風、割坪殿

(12)

全拝殿 正面ノ図

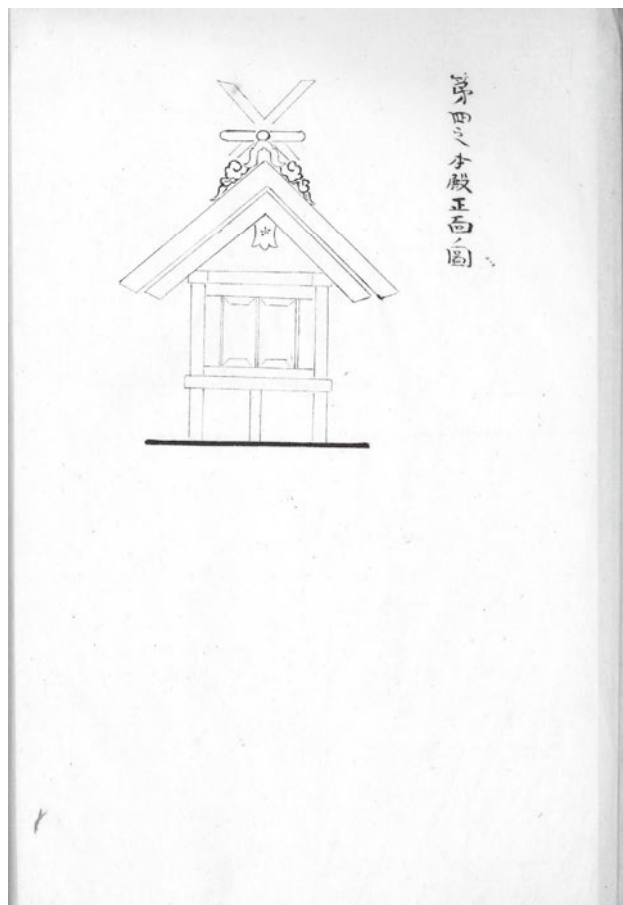


(14) 全廊下

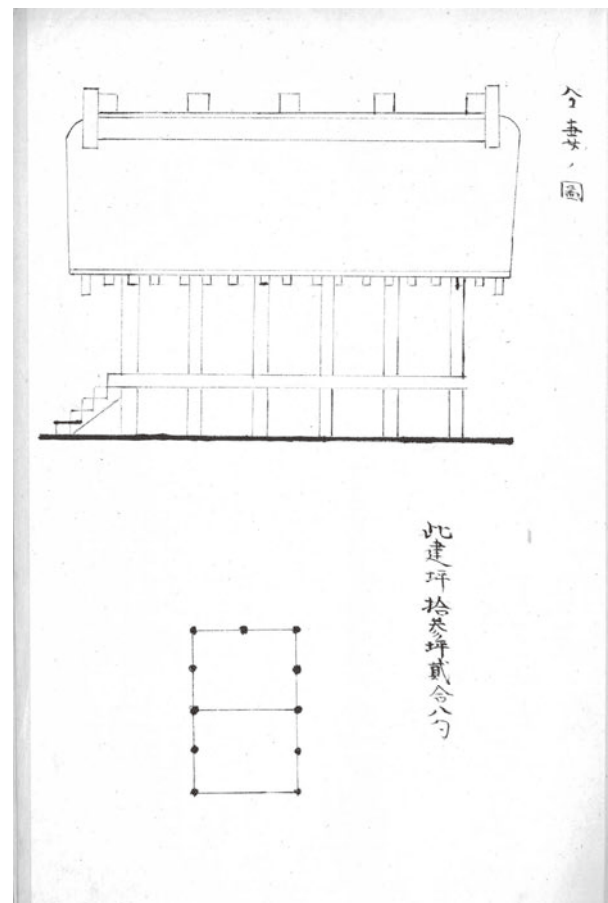


此建坪 六坪八合六勺

(15) 第四之本殿 正面ノ図

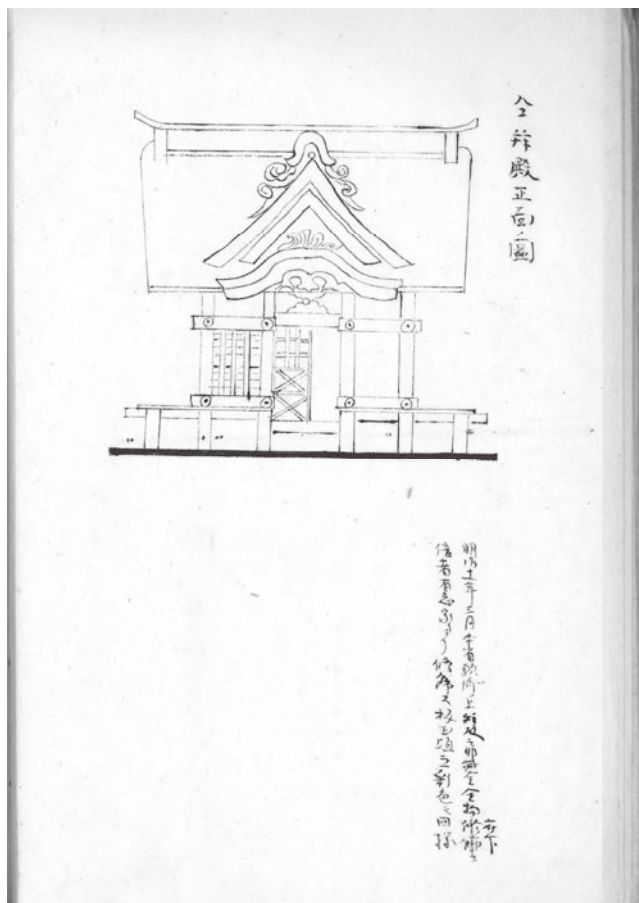


(16) 全妻ノ図



此建坪 拾参坪貳合八勺

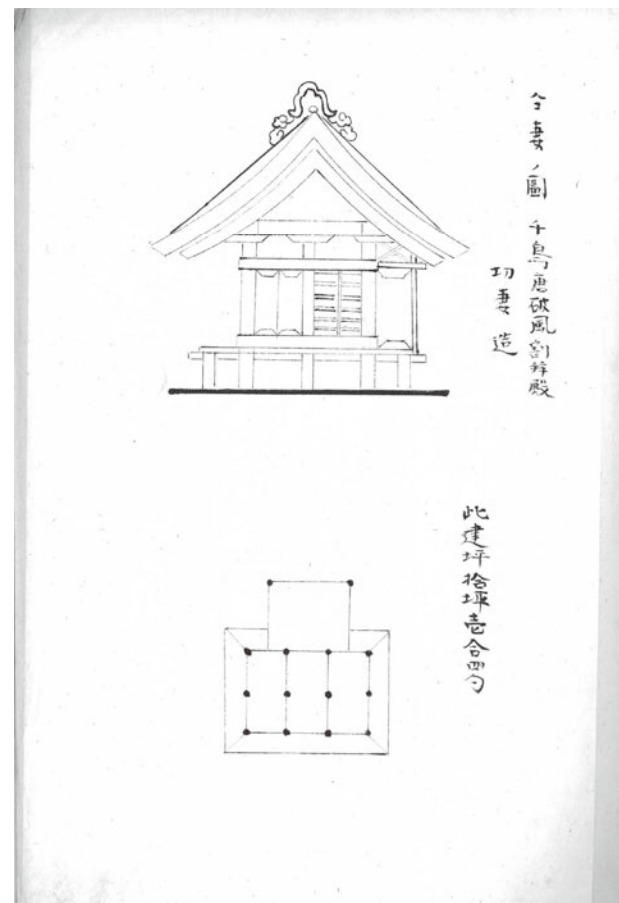
(17) 全拝殿 正面ノ図



明治十一年三月本省願濟ノ上拝殿之扉掛金金物修飾木
信者有志家ヨリ修飾ス、板玉垣之彩色モ同様

(18)

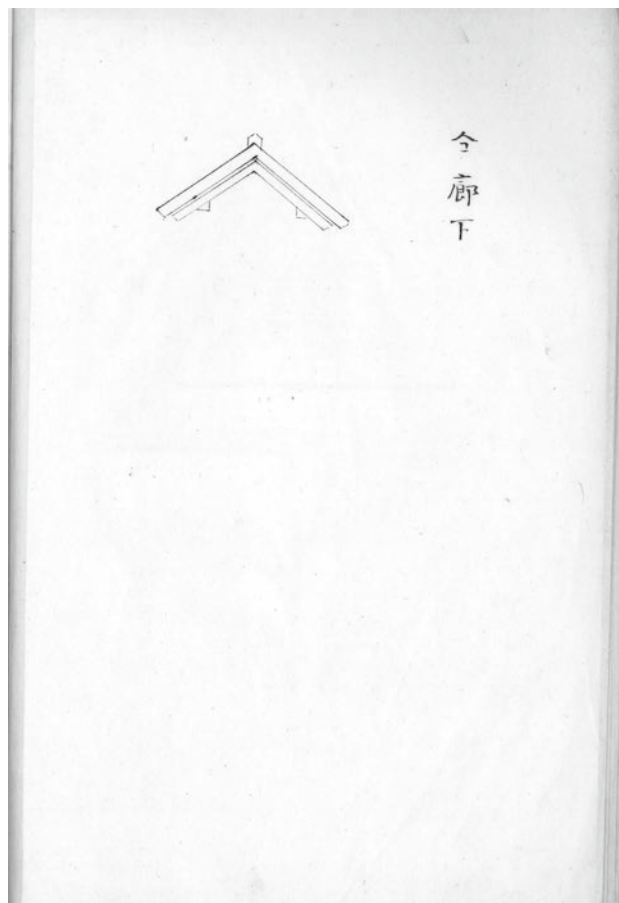
全 妻ノ図
切妻造、千鳥唐破風、割拝殿



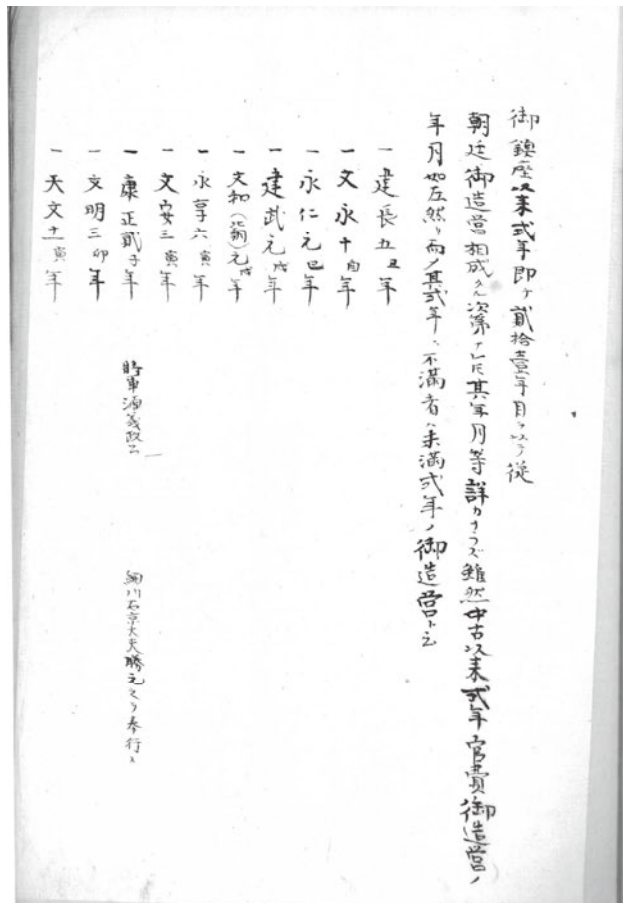
此建坪 拾坪壹合四勺

(19)

全 廊下



(20) 官費御造宮ノ年月(一)



御鑓座以来式年、即チ貳拾壹年目ヲ以テ從

朝廷御造宮相成タル次第ナレトモ其年月等詳カナラズ、雖然中古以來式年官費御造宮ノ年月如左、然リ而シテ其式年ニ不滿者ハ未滿式年ノ御造宮ト云

一建長五_丑年

一文永十_酉年

一永仁元_巳年

一建武元_戊年

一文和(北朝)元_戊年

一永享六_寅年

一文安三_寅年

一康正式_子年

一文明三_卯年

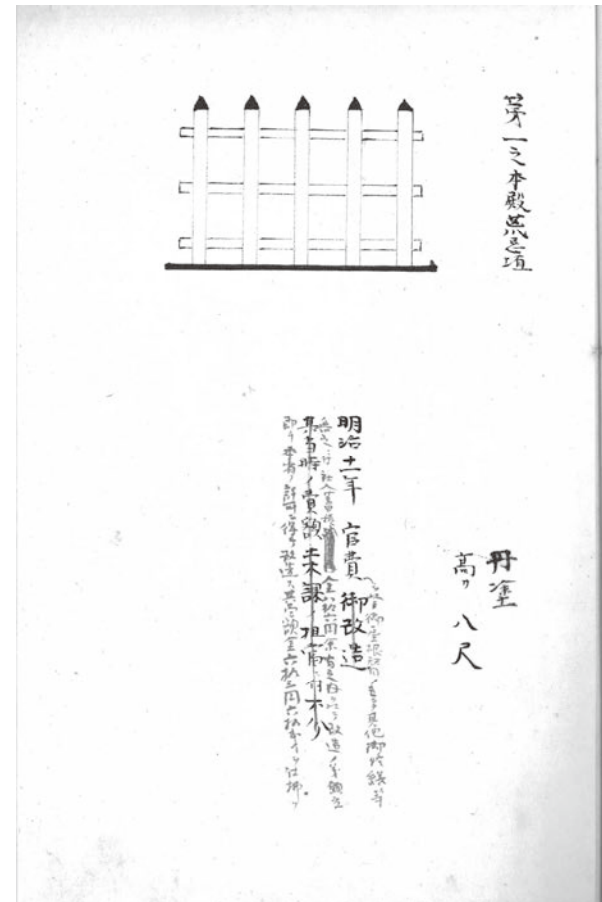
一天文十一_寅年

將軍源義政公 細川右京大夫勝元之ヲ奉行ス

(21) 官費御造營ノ年月 (二)

一 慶長十一年	將軍源家綱公	片桐東市正且元之ヲ奉行ス
一 元和四年	將軍源家綱公	石河伊豆守三好越後守等之ヲ奉行ス
一 承應三年	將軍源家綱公	石河土佐守之ヲ奉行ス
一 宝永五年	將軍源家綱公	秋元但馬守之ヲ奉行ス
一 延享四年	將軍源家綱公	將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二五畿内被免勸化御改造
一 寬政十一年	將軍源家綱公	將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二七ヶ国被免勸化御改造
一 文化元年	將軍源家綱公	將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二七ヶ国被免勸化御改造
一 天保七年	將軍源家綱公	將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二七ヶ国被免勸化御改造
一 明治十一年	將軍源家綱公	將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二七ヶ国被免勸化御改造

一 慶長十一年 内大臣豊臣秀頼公 片桐東市正且元之ヲ奉行ス
 一元和四年 將軍源秀忠公 石河伊豆守三好越後守等之ヲ奉行ス
 一 承應三年 將軍源家綱公 石河土佐守之ヲ奉行ス
 一 宝永五年 將軍源綱吉公 秋元但馬守之ヲ奉行ス
 爾後式年ノ御造無之、大破ニ及ビタル毎ニ御造營或ハ修繕相成タル年月ハ即チ如左
 一 延享四年 將軍源家重公ヨリ金千兩寄附、府内并二五畿内被免勸化御改造
 一 寬政十一年 將軍家齊公ノ時府内并二七ヶ国被免勸化御修覆
 一 文化元年 將軍家齊公ヨリ金千兩寄附、府内并二七ヶ国被免勸化御改造
 一 天保七年 諸国信者ノ寄附金ヲ以テ御修覆
 一 明治十一年 四社本殿及拝殿瑞籬境内周圍木柵ニ至ル迄、且撰社大海神社本殿并二拝殿
 神饌所等ノ屋根葺換ニ付、當繕費トシテ大阪府庁ヨリ金九千兩ヲ受取猶
 九七七一八十六錢八厘
 又諸方有志者ヨリ金六百兩寄附有之ヲ以テ四社本殿拝殿瑞籬、撰社大海神
 社神饌所等ノ屋根葺換、周圍木柵建換ニ相成、其當時ノ仕様目論見ハ府庁土木
 課ノ担当ニシテ悉知スル能ハス



高サ 八尺

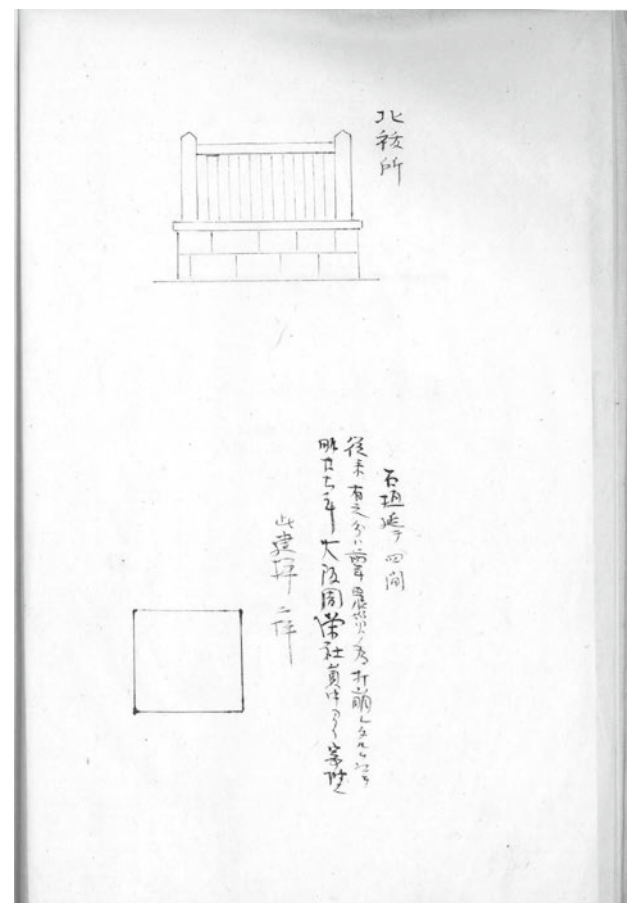
『ヲ以テ御屋根替ノミニテ其他御修繕等』

明治十一年 官費御改造

『無之ニ付社入蓄積残金兩金八拾六円余有之内ヲ以テ改造ノ義願立』

兼當時ノ費額土木課ノ担当ニ付不命

『即チ本省ノ許可ヲ得テ改造ス、其費額金六拾三円六拾錢ヲ仕払フ』



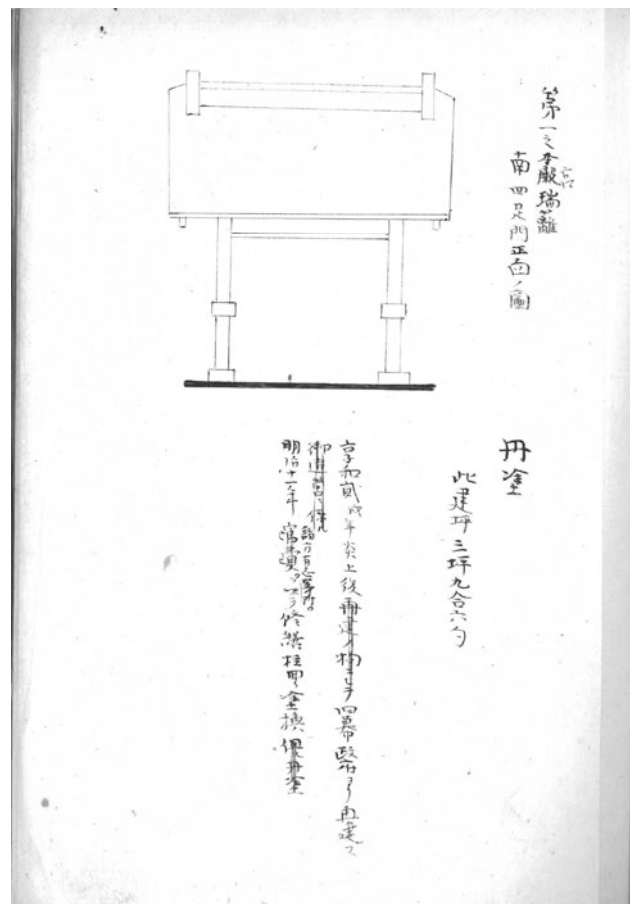
石垣延テ四間

従来有之分ハ前年震災ノ為打崩レタルヲ以テ
昨廿七年大阪周栄社員中ヨリ寄附ス

此建坪 三坪

(24)

第一之本殿瑞籬 南四足門 正面ノ図
宮
丹塗



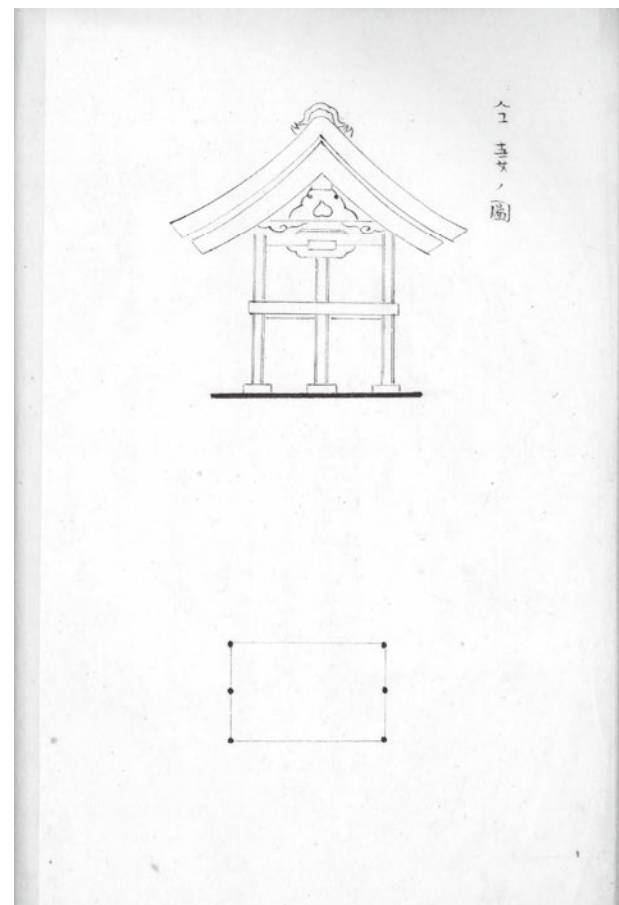
此建坪 三坪九合六勺

享和貳年炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府ヨリ再建ス
御造當主係小

明治十一年雷費諸方有志寄附ヲ以テ修繕柱回り塗換、但シ丹塗

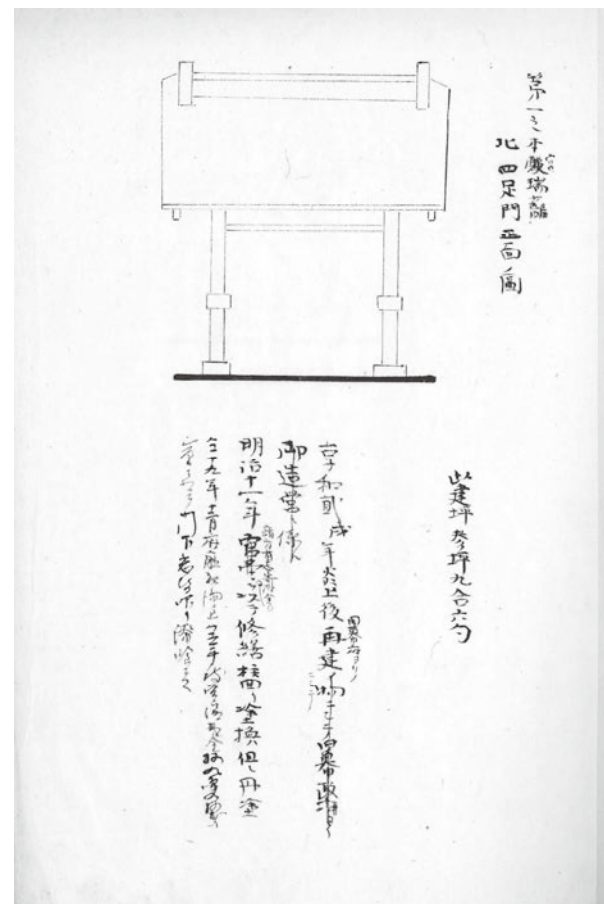
(25)

全妻ノ図



(26)

第一之本殿瑞籬 北四足門 正面ノ図



此建坪 参坪九合六勺

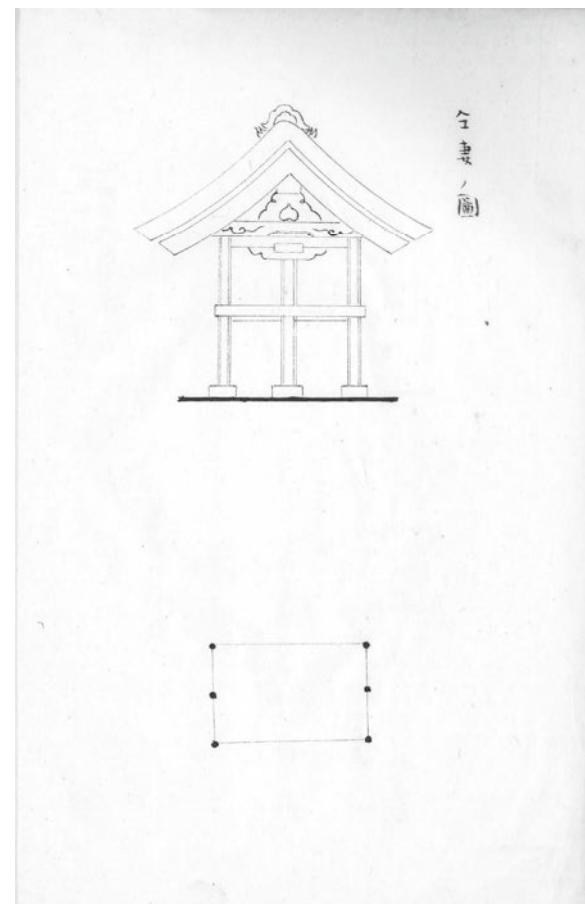
旧幕府ヨリノ
享和貳^戌年炎上後再建ノ物ナシ才旧幕政府ヨリ
ニシテ
御造當主係ル

諸方有志寄附金

明治十一年甬費ヲ以テ修繕、柱回り塗換、但シ丹塗
全十九年十二月府庁願済ノ上全年度営繕費金拾九円九拾銭
三厘ヲ以テ門下悉皆叩キ漆喰ニス

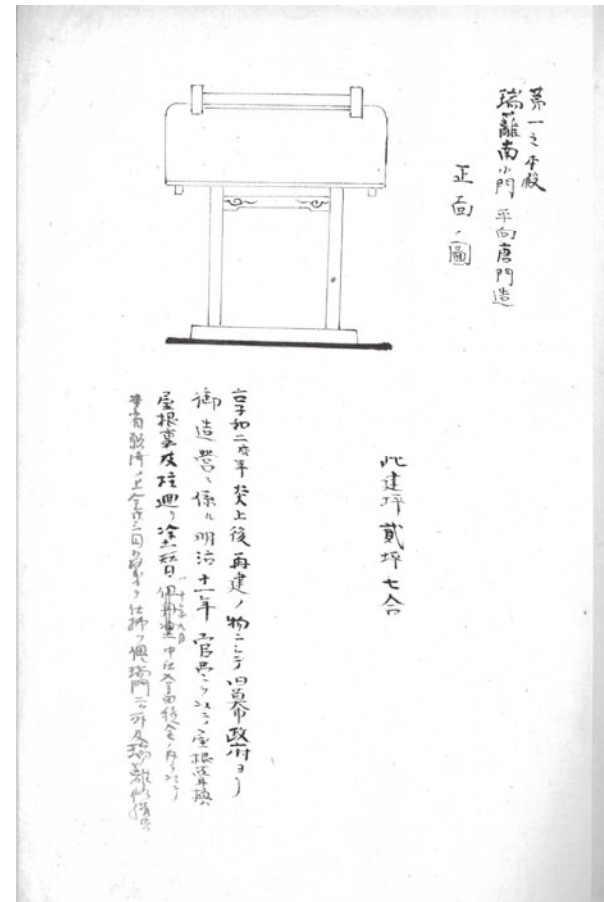
(27)

全妻ノ図



(28)

第一之本殿瑞籬 南小門 正面ノ図
平向唐門造



此建坪 貳坪七合

享和二年^戊炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル、明治十一年官費ヲ以テ屋根葺換

『八十年九月』

屋根裏及柱廻リ塗替、但丹塗『中社入蓄積金ノ内ヲ以テ』

『本省願濟ノ上金廿三円五拾錢ヲ仕払フ、但シ瑞門ニヶ所及瑞籬修繕共』

(29)

全妻ノ図

全妻ノ図



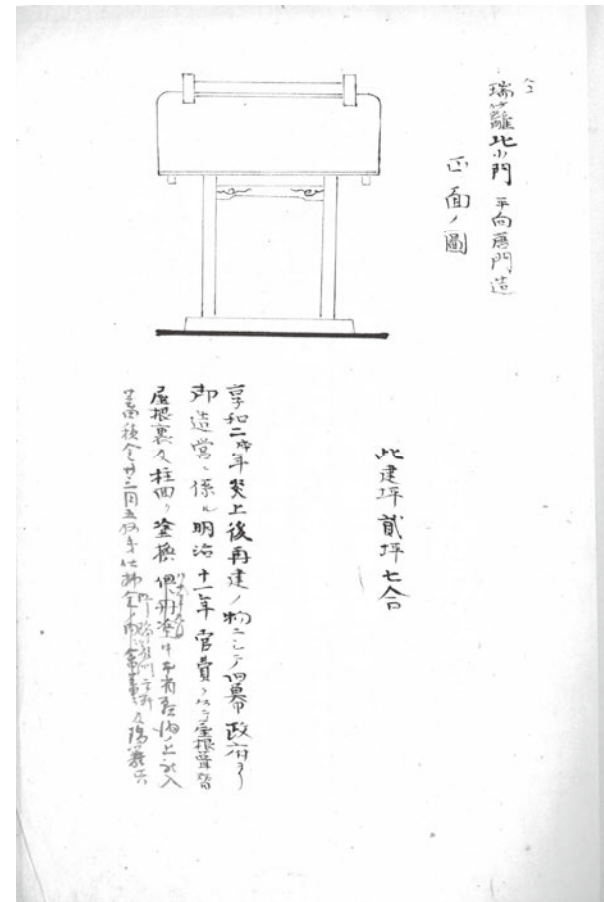
同平向



同平面

(30)

全瑞籬 北小門 正面ノ図
平向唐門造



此建坪 貳坪七合

享和二年^戊炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル、明治十一年官費ヲ以テ屋根葺替

『六十一年九月』

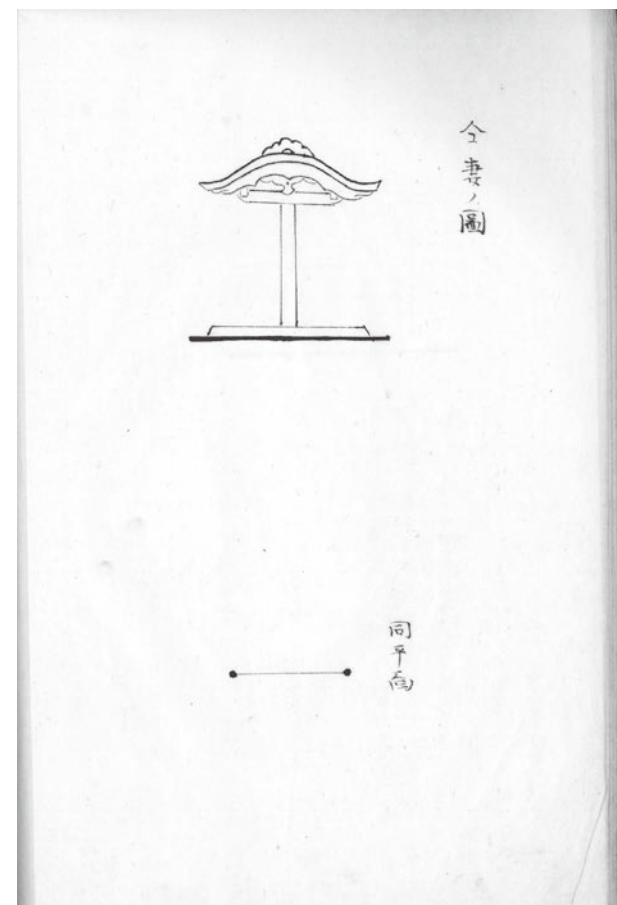
屋根裏及柱回り塗換、但し丹塗『中本省願済ノ上柱入』

『但し瑞籬門ニケ所』

『蓄積金廿三円五拾錢支払金ノ内十五金葺木及瑞籬共』

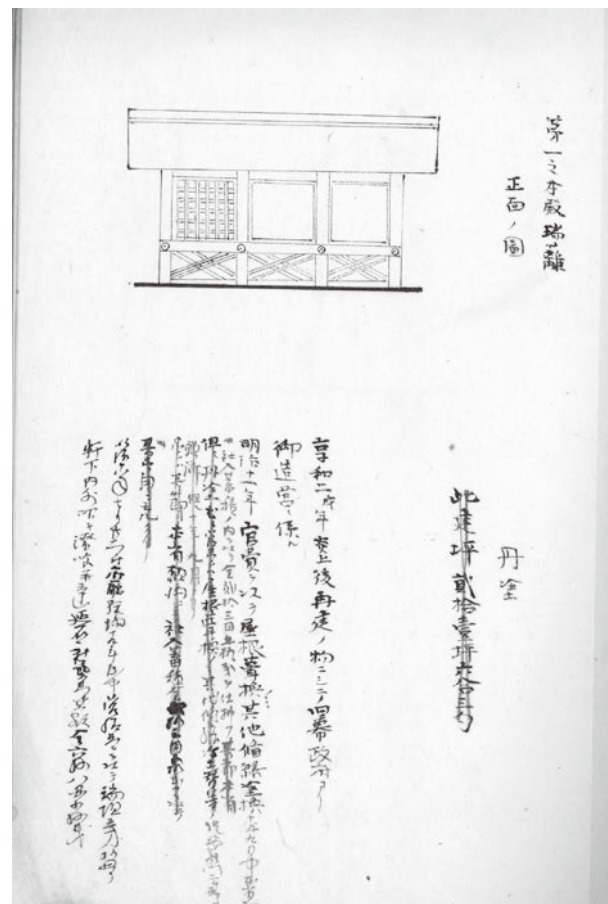
(31)

全妻ノ図



同平面

(32)
第一之本殿瑞籬 正面ノ図
丹塗



此建坪 式拾壹坪木金三石

享和二年^戊炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル

『ノミ』

明治十一年官費ヲ以テ屋根葺換、其他修繕塗換『十年九月中本省願済』

『□社入蓄積ノ内ヲ以テ金貳拾三圓五拾錢ヲ支払フ其節本省』

但シ丹塗、尤モ官費ハ屋根葺換ノミ、其他修繕塗替等ノ『但シ瑞籬門ニケ所共』

『願済』但シ十年九月十』

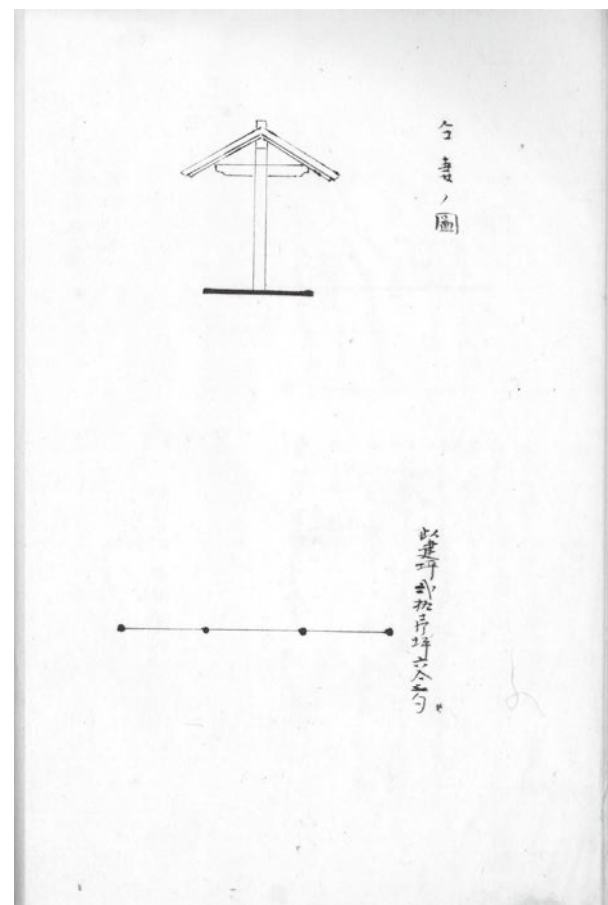
費ハ其節本省願済ニテ社入蓄積金貳拾三圓五拾錢ヲ以テ

其費用ニ充テ』

明治十八年七月廿二日付府庁願済、十九年度中営繕費ヲ以テ瑞垣三方相廻リ
軒下内外叩キ漆喰并□延石新築費、其額金六拾八圓五拾錢

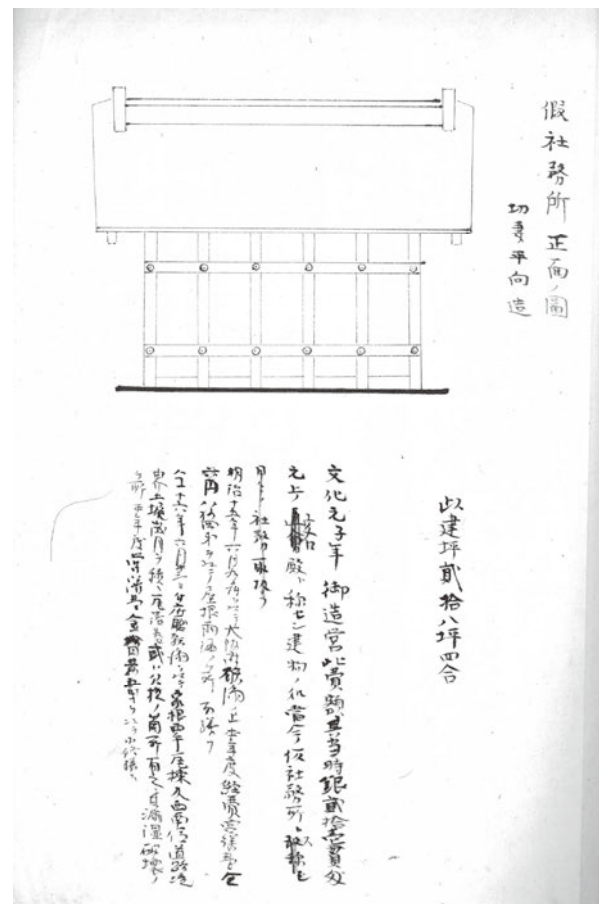
(33)

全妻ノ図



此建坪 式拾壹坪六合三勺

(34)
假社務所 正面ノ図
切妻平向造



此建坪 貳拾八坪四合

文化元年御造宮、此費額其當時銀貳拾貳圓

客

元上ノ直余殿ト称セシ建物ノ処當今假社務所ト改稱シ

ス

申々ノ社務取扱フ

明治十五年六月九日附ヲ以テ大阪府願濟ノ上本年度經費營繕費金

六円八拾四錢ヲ以テ屋根雨漏ノケ所取繕フ

全十六年六月十三日付府庁願濟ヲ以テ家根西手瓦棟及西南側道路境

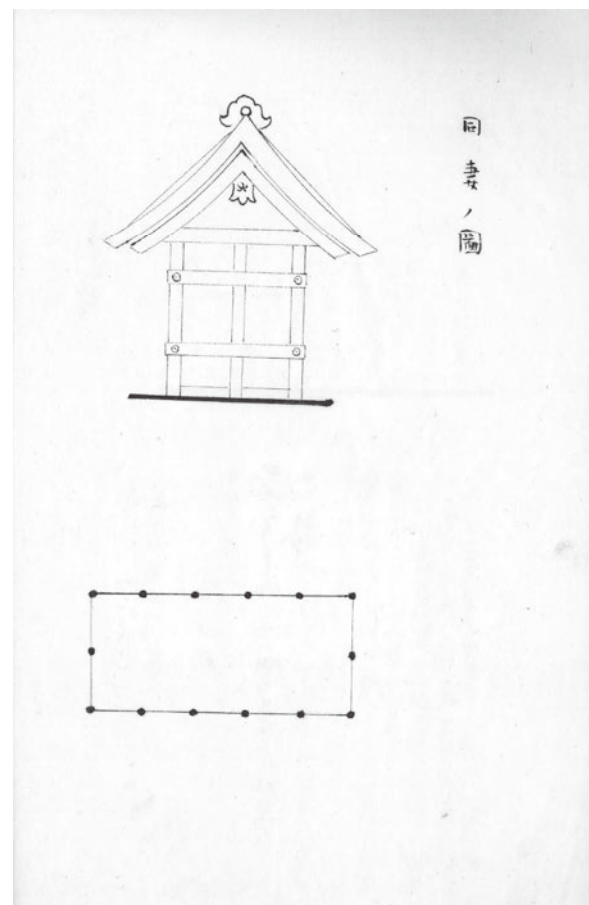
界土堀、歳月ヲ積ミ瓦落失ハセ、或ハ欠損ノ箇所有之、其漏湿破壊ノ

ケ所本年度營繕費金拾円五拾五錢ヲ以テ小修繕ス

(35)

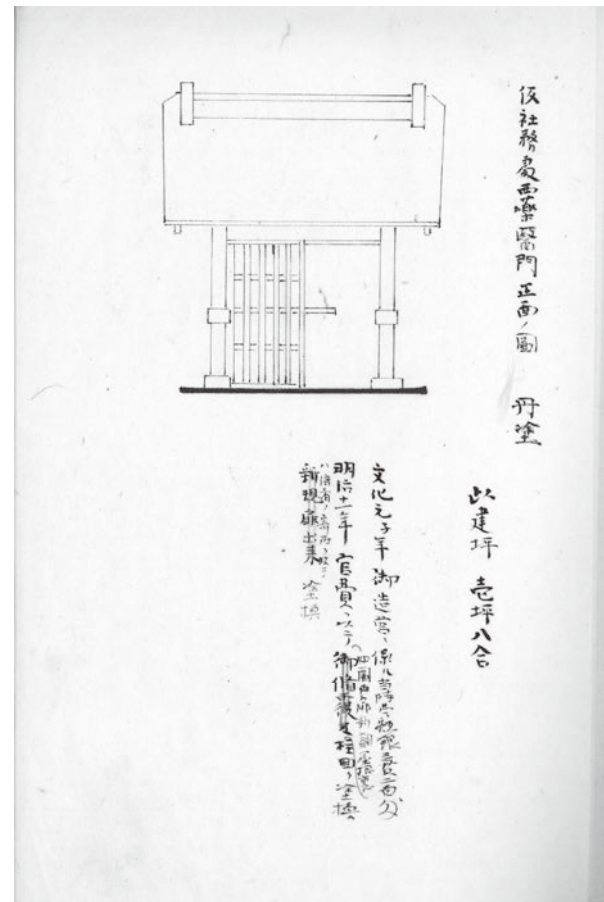
同妻ノ図

同妻ノ圖



(36)

仮社務処西薬医門 正面ノ図
丹塗



此建坪 老坪八合

文化元年御造営ニ係ル、当時費額銀三貫二百匁

如図両扉新調、屋根裏

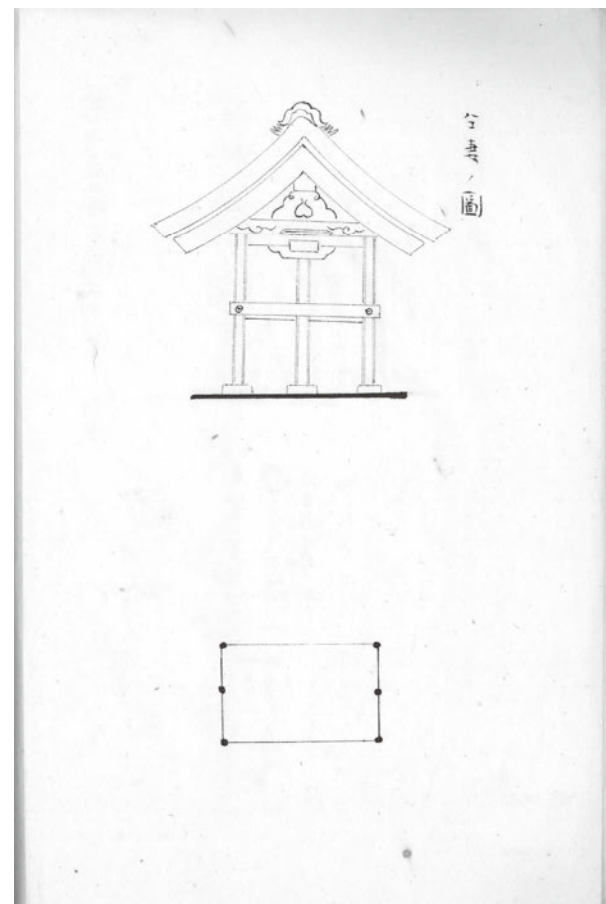
明治十一年官費ヲ以テ御修葺及柱回り塗換

ハ信者ノ寄附ヲ以テ

新規扉出来塗換

(37)

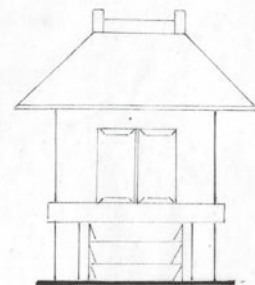
全妻ノ図



(38)

高
宝庫 正面ノ図
小棟造、白木

高
寶庫 正面ノ図
小棟造 白木



此建坪九坪七合九ツ

享和二年炎上後再建ノ物ニシテ既ニ文化元年
將軍源家齊公ヨリ金千両寄附、府内及七ヶ国被免
勸化タルトキノ造営ニ係ル、其當時ノ費額銀拾五貫
匁、從來当社境内南方平橋ノ東辺路傍ニ有之、然ルニ
社務所ヨリ距離遠ク、且柵外ニテ窃盜ノ防禦難行届、
故二年末空虛ノ儘ナリシモ、嚴然タル倉庫ニ付、明治十四年
三月廿三日付本省伺済ノ上、去ル十三年七月以来ノ蓄積
繕費ノ内ヲ以テ之ニ相充、既ニ當時仮社務所ノ南裏手ヘ
移転、其費額金四拾九円五拾銭

此建坪 九坪七合九ツ

享和二年炎上後再建ノ物ニシテ既ニ文化元年

將軍源家齊公ヨリ金千両寄附、府内及七ヶ国被免

勸化タルトキノ造営ニ係ル、其當時ノ費額銀拾五貫

匁、從來当社境内南方平橋ノ東辺路傍ニ有之、然ルニ

社務所ヨリ距離遠ク、且柵外ニテ窃盜ノ防禦難行届、

故二年末空虛ノ儘ナリシモ、嚴然タル倉庫ニ付、明治十四年

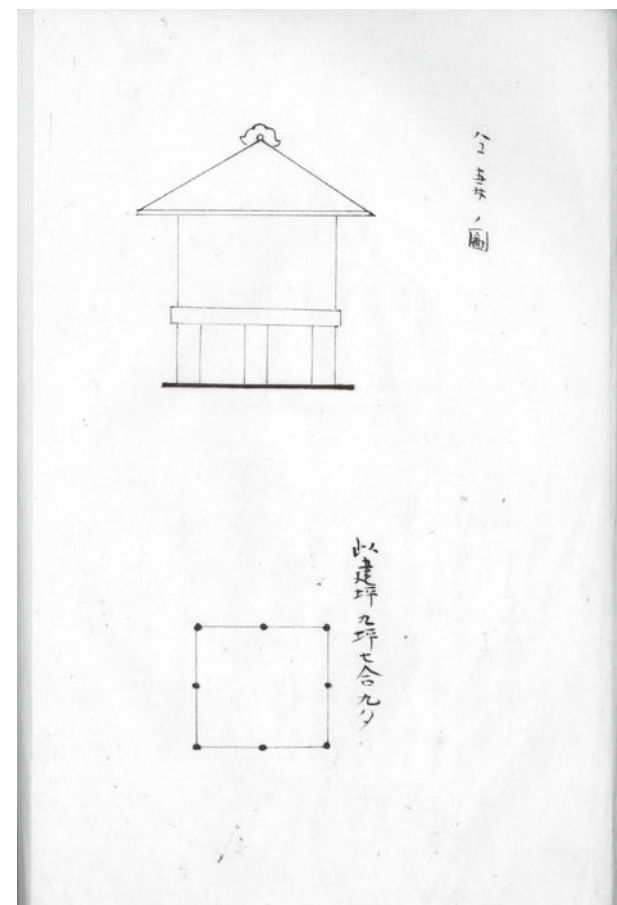
三月廿三日付本省伺済ノ上、去ル十三年七月以来ノ蓄積

繕費ノ内ヲ以テ之ニ相充、既ニ當時仮社務所ノ南裏手ヘ

移転、其費額金四拾九円五拾銭

(39)

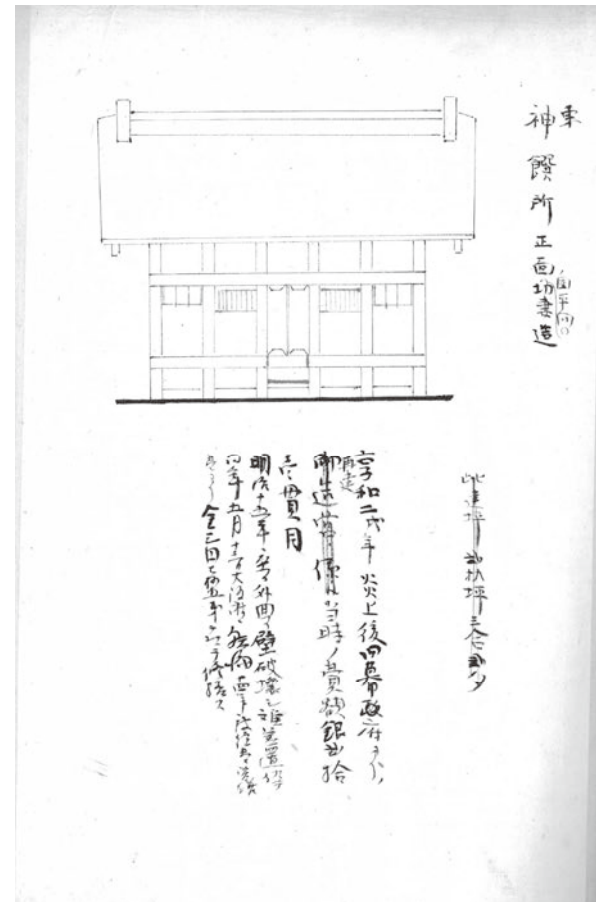
全妻ノ図



此建坪 九坪七合九勺

(40)

東神饌所 正面ノ図
平向切妻造



此建坪 式拾坪三合式

享和二年^戊炎上後旧幕政府ヨリノ

再建

御造常主係ル、当時ノ費額銀式拾

弍貫目

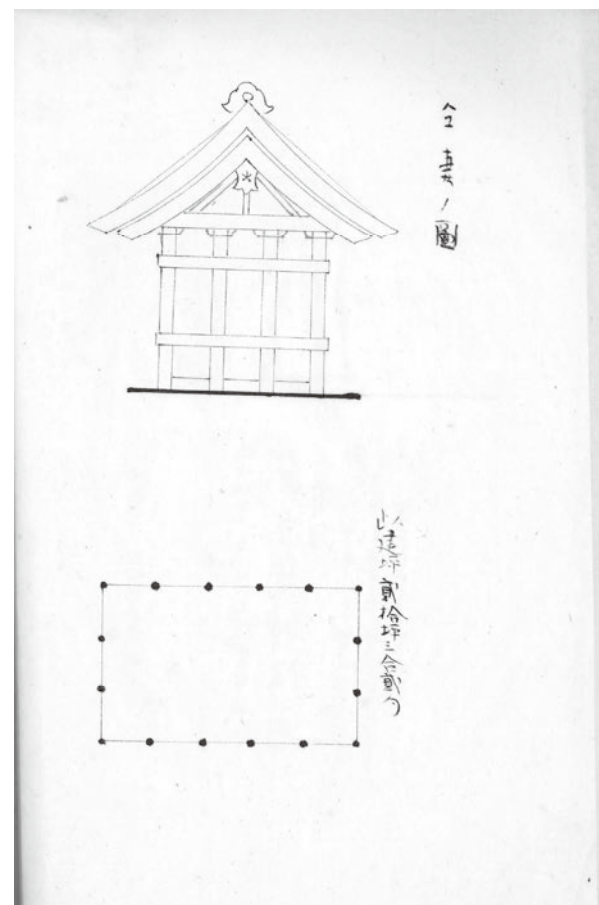
明治十五年ニ至リ外回リ壁破壊シ難差置、仍テ

同年五月十三日大阪府ニ願濟、十四年度経費當繕

費ヨリ金三円七拾五錢ヲ以テ修繕ス

(41)

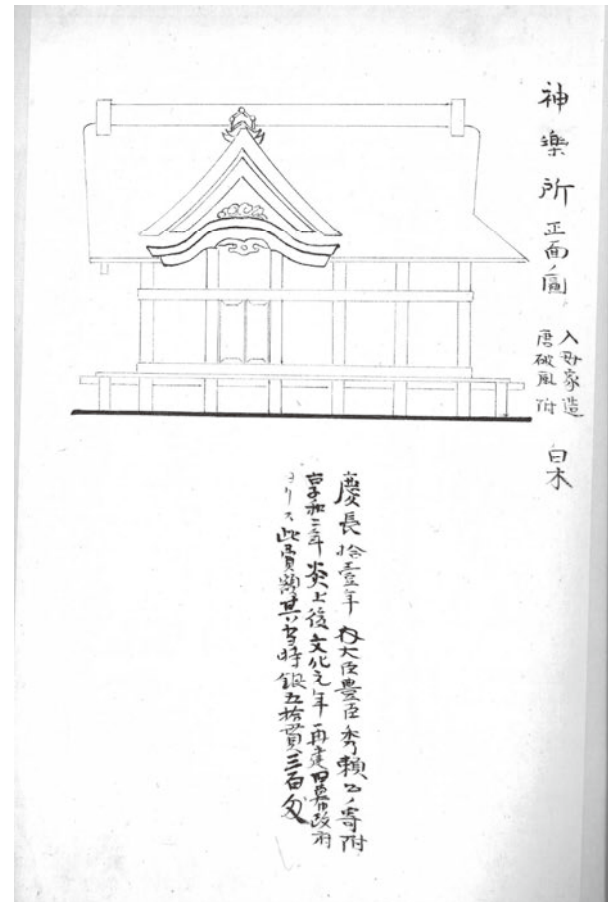
全妻ノ図



此建坪 式拾坪三合式勾

(42)

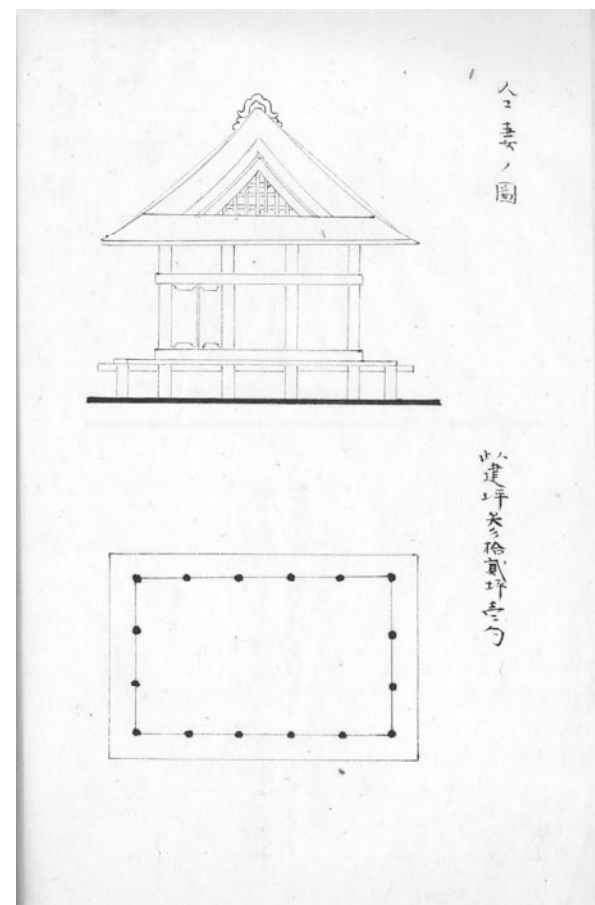
神樂所 正面ノ図
入母家造、唐破風附、白木



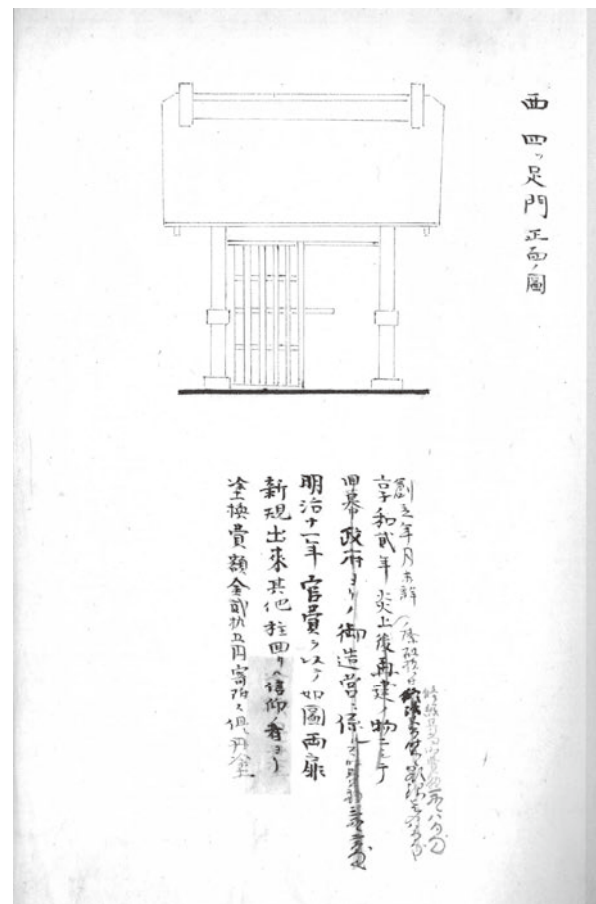
慶長拾壹年内大臣豊臣秀頼公ノ寄附
享和二年炎上後文化元年再建、旧幕政府
ヨリス、此費額其当時銀五拾貫三百匁

(43)

全妻ノ図

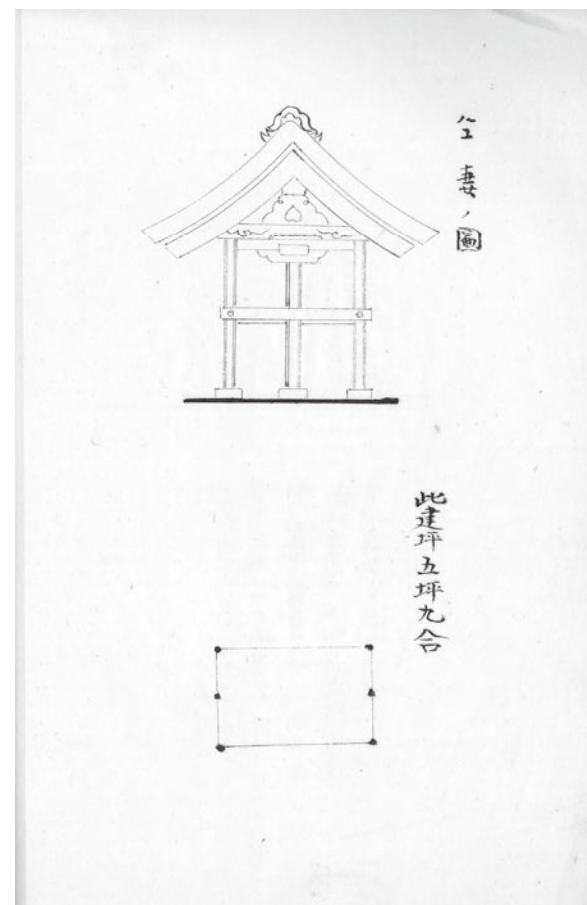


此建坪 参拾貳坪壹勺

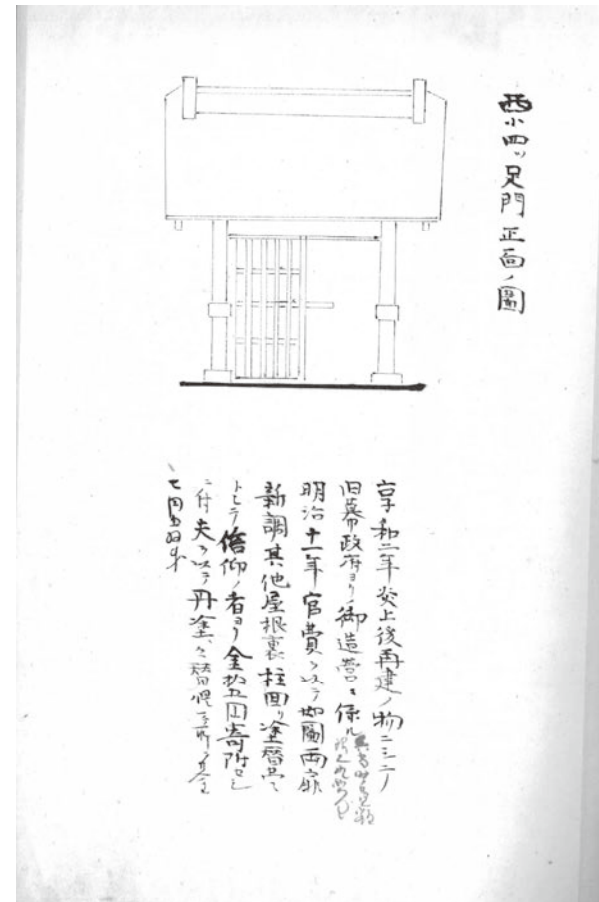


(45)

全妻ノ図



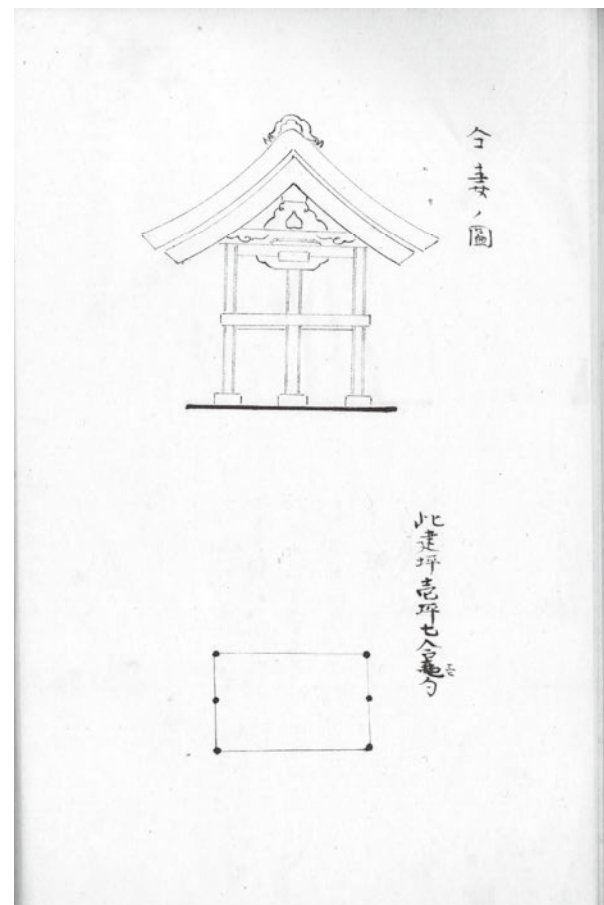
此建坪 五坪九合



享和二年炎上後再建ノ物ニシテ
旧幕政府ヨリノ御造営ニ係ル『其当時ノ費額銀三貫貳百匁』
明治十一年官費ヲ以テ如図兩扉
新調、其他屋根裏柱回り塗替費
トシテ信仰ノ者ヨリ金拾五円寄附セシ
ニ付、夫ヲ以テ丹塗ニ々替、但シ一ヶ所ニ付金
七円五拾錢

(47)

全妻ノ図

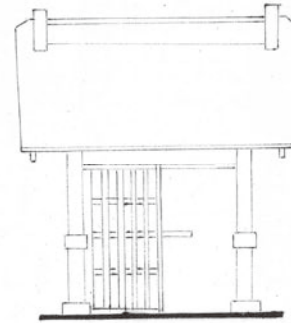


全妻ノ圖

此建坪
老坪七合老勾

此建坪
老坪七合老勾

西小四足門 正面ノ圖



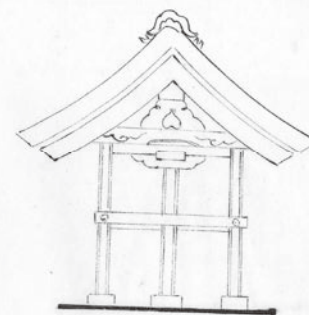
享和二年炎上後再建ノ物ニシテ
旧幕政府ヨリノ御造營ニ係ル
明治十一年官費ヲ以テ如図兩扉
新調其他屋根裏柱廻リ塗換費トシテ
信仰ノ者ヨリ金拾五円寄附セシニ付、夫ヲ
以丹塗ニ塗換、但シ一ヶ所ニ付金七円
外四ヶ所

享和二年炎上後再建ノ物ニシテ
旧幕政府ヨリノ御造營ニ係ル
明治十一年官費ヲ以テ如図兩扉
新調、其他屋根裏柱廻リ塗換費トシテ
信仰ノ者ヨリ金拾五円寄附セシニ付、夫ヲ
以丹塗ニ塗換、但シ一ヶ所ニ付金七円
五拾錢

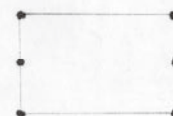
(49)

全妻ノ図

全妻ノ圖



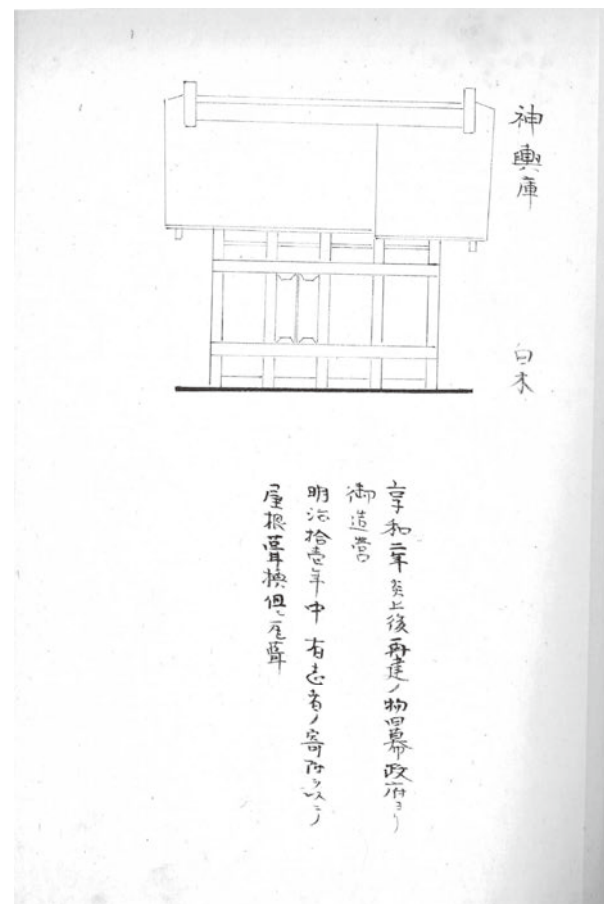
此建坪志坪七合



此建坪 志坪七合

(50)

神輿庫
白木

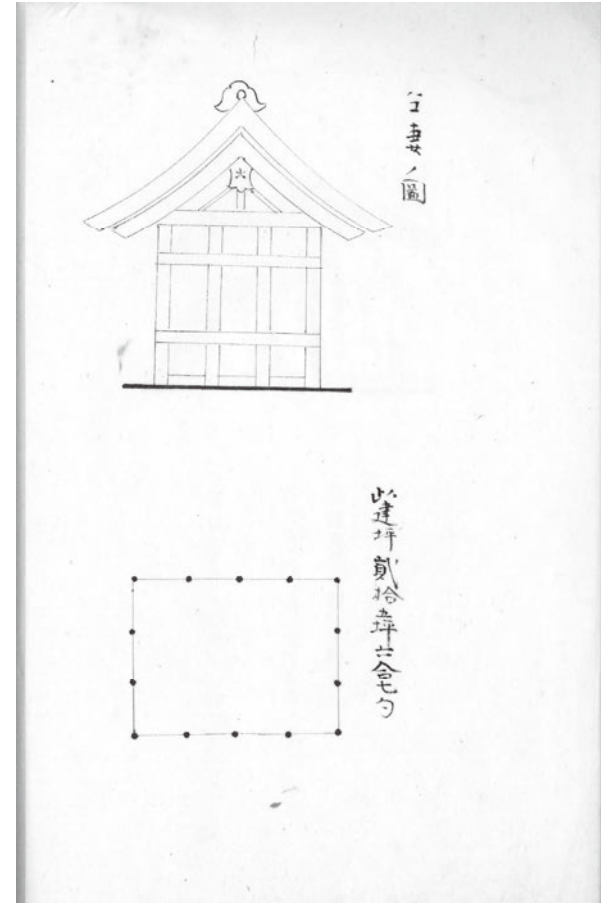


享和二年炎上後再建ノ物、旧幕政府ヨリ
御造營
明治拾壹年中有志者ノ寄附ヲ以テ
屋根葺換、但シ瓦葺



(52)
文庫 正面ノ図
小棟造

此建坪 貳拾五坪六合七勺

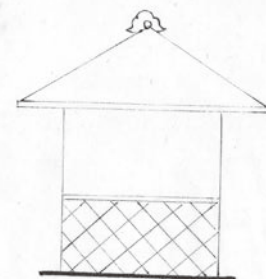


(51)
全妻ノ図

(53)

全妻ノ図

全妻ノ圖

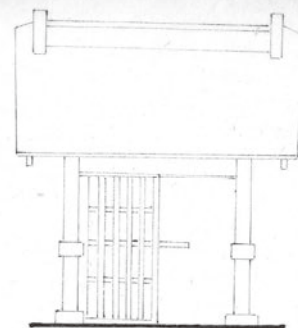


此建坪拾六坪六合



此建坪拾六坪六合

北四足門 正面ノ圖



享和二年炎上後再建ノ物ニシテ
旧幕政府ヨリノ造営ニ係ル
明治十一年官費ヲ以テ如圖西扉
新調 信仰有志者ヨリ寄附金貳拾五円
ヲ以テ屋根裏及柱回り塗換、但シ丹塗
明治十九年十二月府庁願済ノ上、同年度營繕費金
拾八円六拾六錢老厘ヲ以テ門下悉皆叩キ漆喰ニス

享和二年炎上後再建ノ物ニシテ

旧幕政府ヨリノ造営ニ係ル

明治十一年官費ヲ以テ如圖西扉

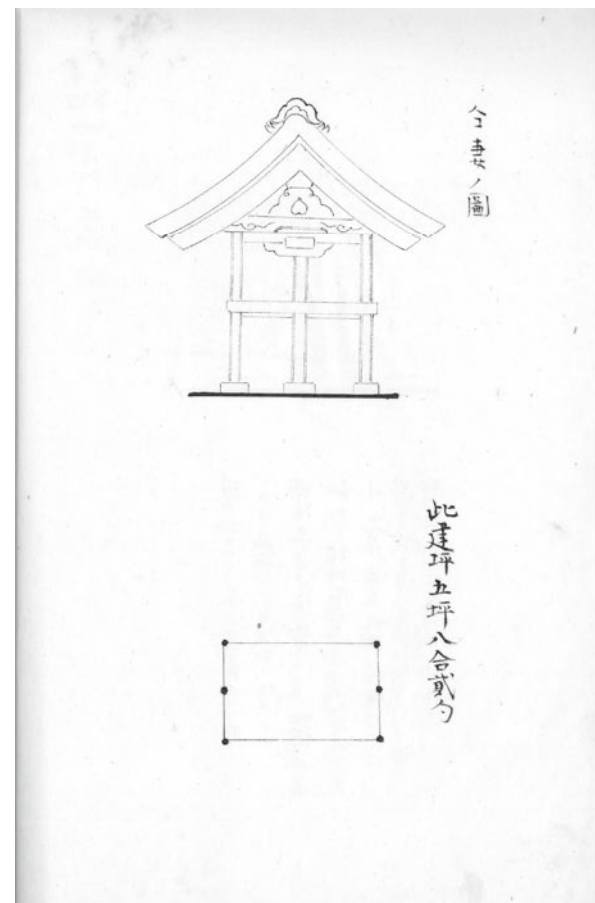
新調、信仰有志者ヨリ寄附金貳拾五円

ヲ以テ屋根裏及柱回り塗換、但シ丹塗

明治十九年十二月府庁願済ノ上、同年度營繕費金

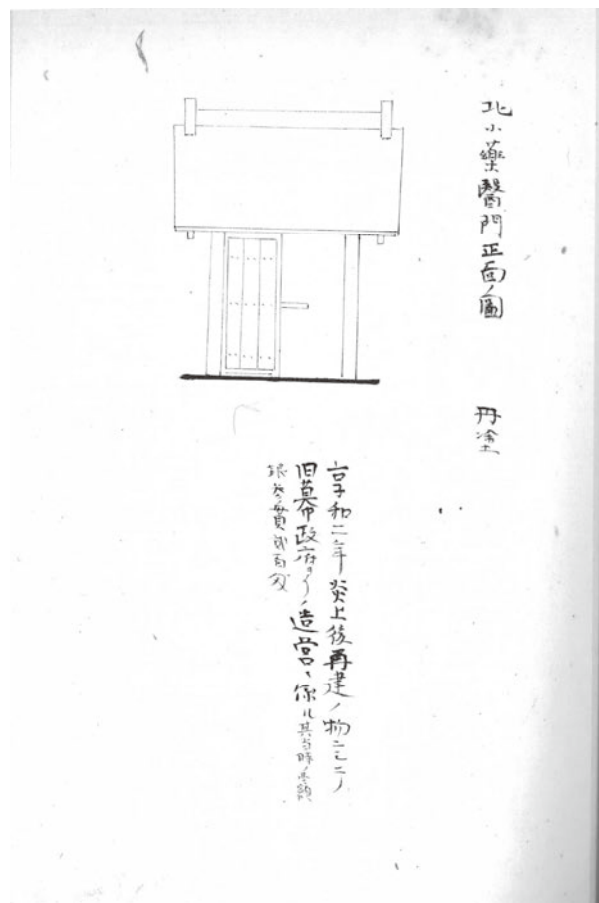
拾八円六拾六錢老厘ヲ以テ門下悉皆叩キ漆喰ニス

(55) 全妻ノ図



此建坪 五坪八合貳勺

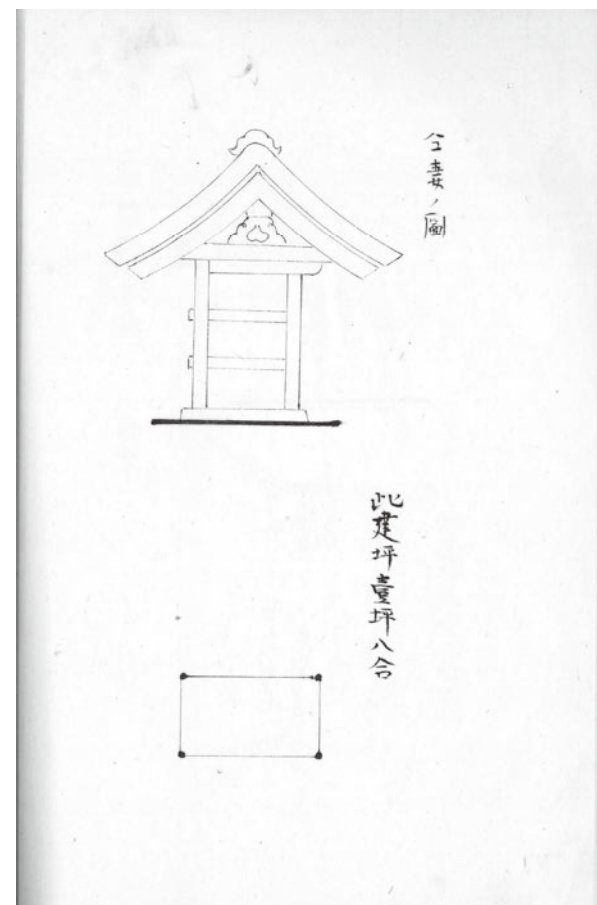
(56) 北小葉医門 正面ノ図
丹塗



享和二年炎上後再建ノ物ニシテ
旧幕府政府ヨリノ造営ニ係ル、其当時ノ費額
銀参貫貳百匁

(57)

全妻ノ図



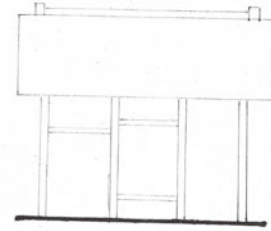
此建坪 壹坪八合

(58)

神馬屋 正面ノ図
平向造 白木

神馬屋 正面ノ圖
平向造

白木

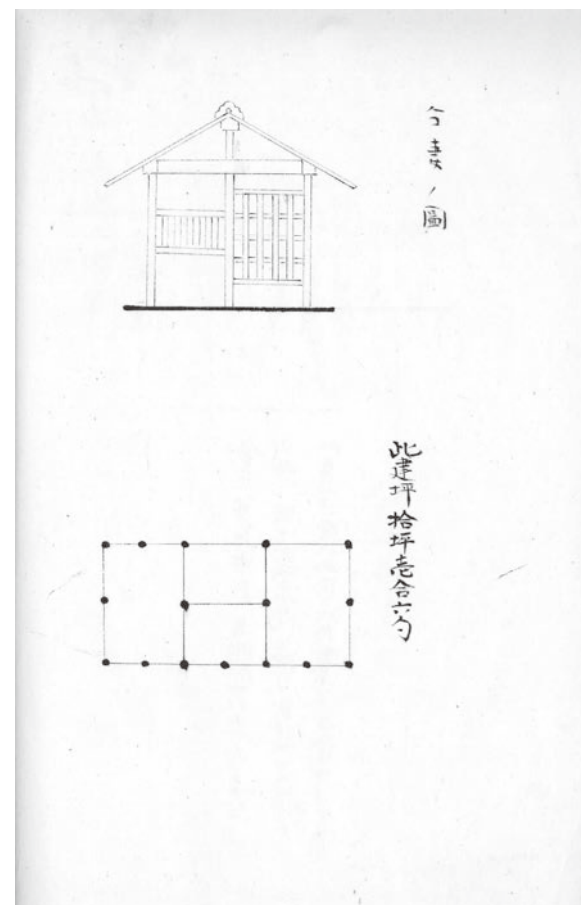


創立年月未詳 去明治廿六年十月十八日
府廳に願立大阪炭問屋中ヨリ貳坪五合ヲ増築ス
此費額金八拾円八拾貳銭ヲ全問屋中ヨリ支出ス

創立年月未詳、去明治廿六年十一月十八日ヲ以テ
府庁江願立、大阪炭問屋中ヨリ貳坪五合ヲ増築ス
此費額金八拾円八拾貳銭ヲ全問屋中ヨリ支出ス

(59)

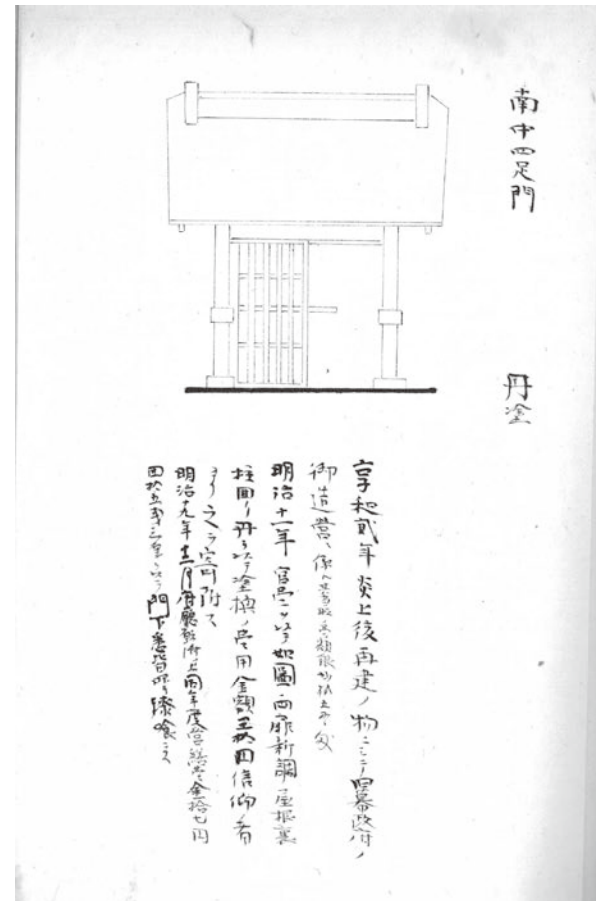
全妻ノ図



此建坪 拾坪壹合六勺

(60)

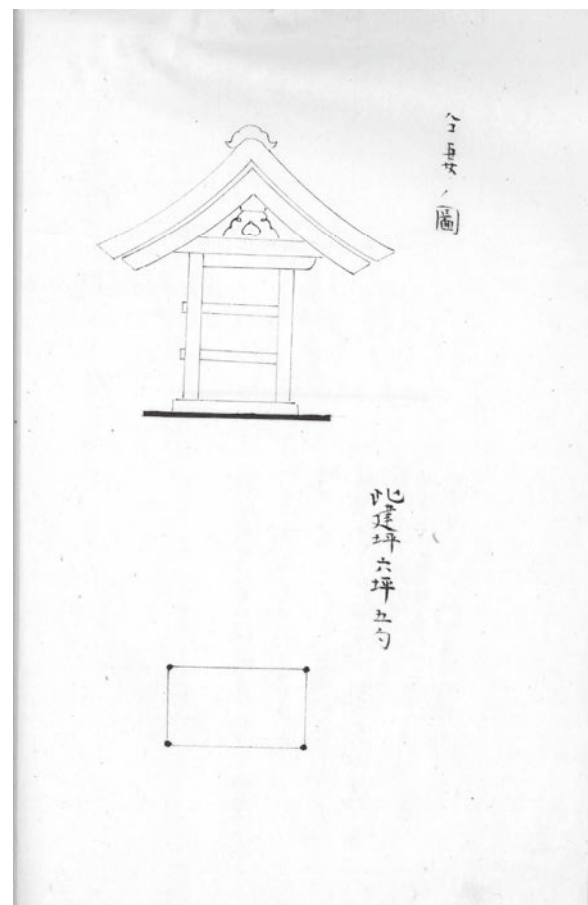
南中四足門
丹塗



享和貳年炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府ノ
御造営ニ係ル、其当時ノ費額銀貳拾五貫匁
明治十一年官費ヲ以テ如図両扉新調、屋根裏
柱回り丹ヲ以テ塗換ノ費用金額三拾匁、信仰ノ者
ヨリ之ヲ寄附ス
明治十九年十二月府庁願済ノ上、同年度営繕費金拾七匁
四拾五錢三厘ヲ以テ門下悉皆叩キ漆喰ニス

(61)

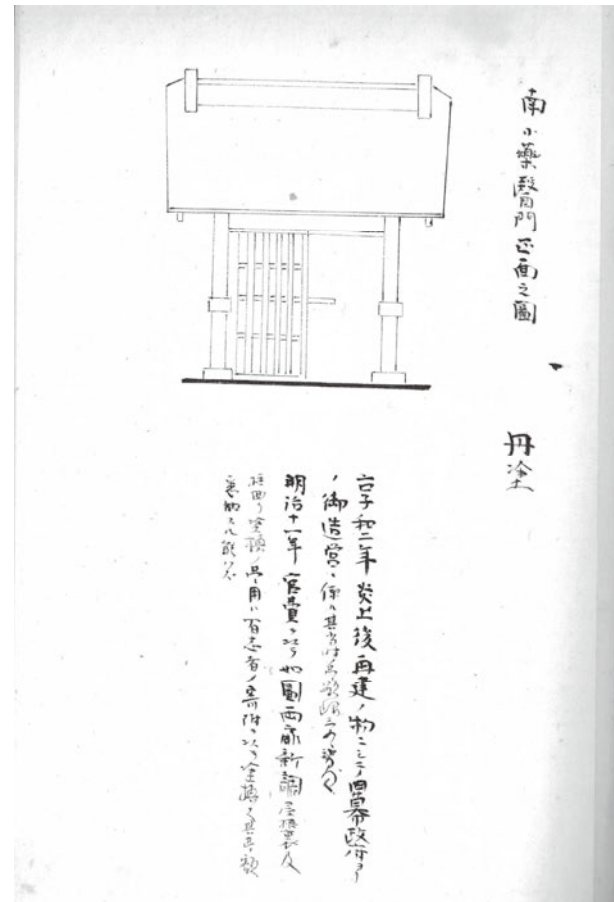
全妻ノ図



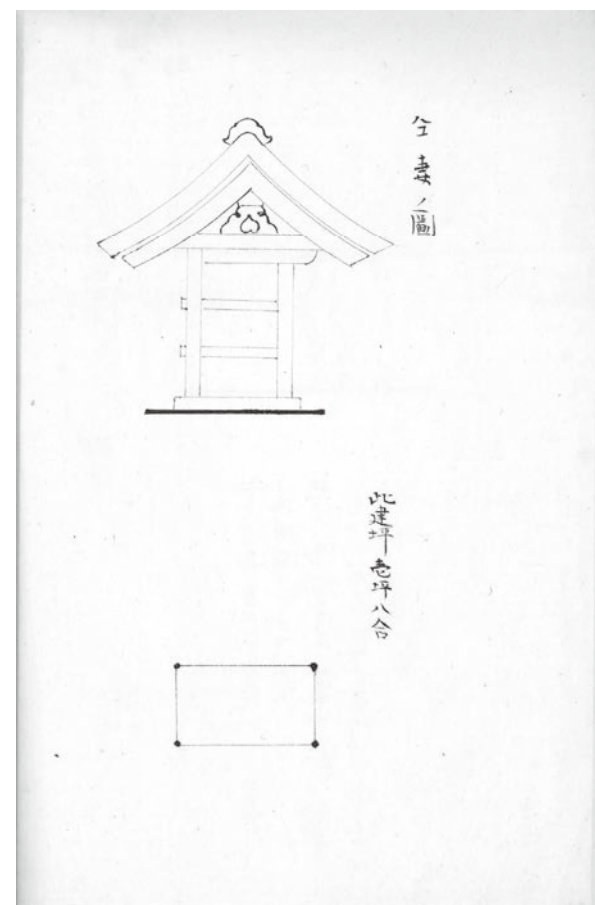
此建坪 六坪五勾

(62)

南小葉医門 正面之図
丹塗

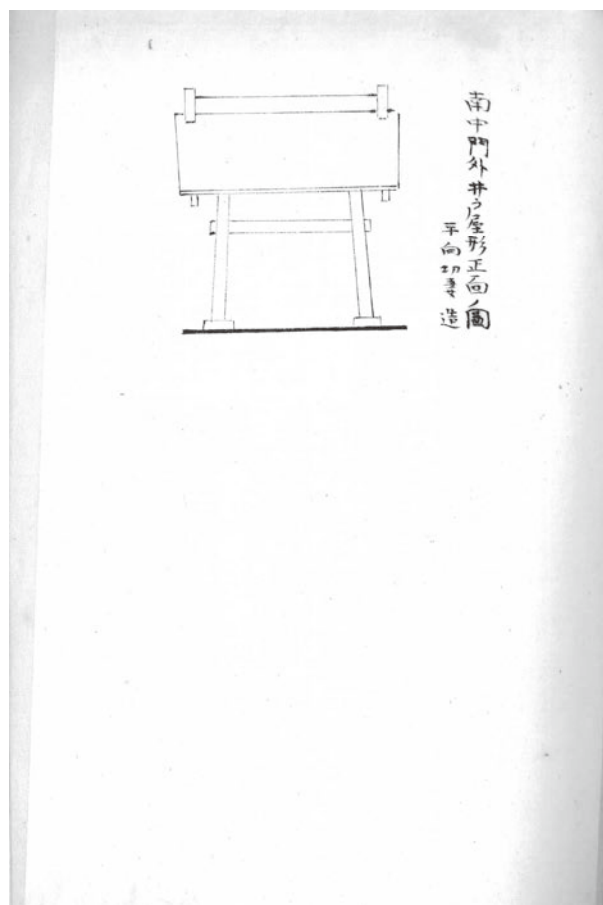


(63) 全妻ノ図

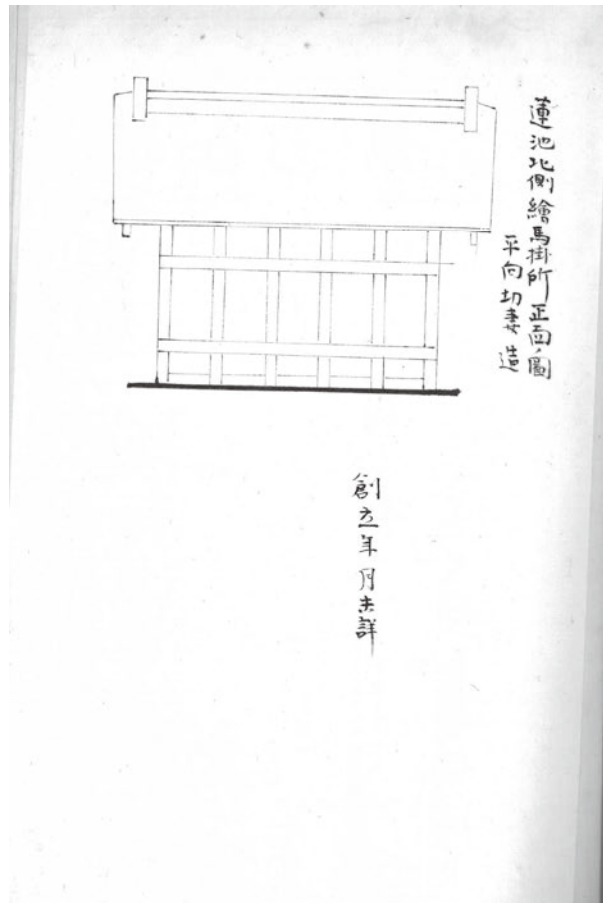


此建坪 老坪八合

(64) 南中門外井戸屋形正面ノ図
平向切妻造



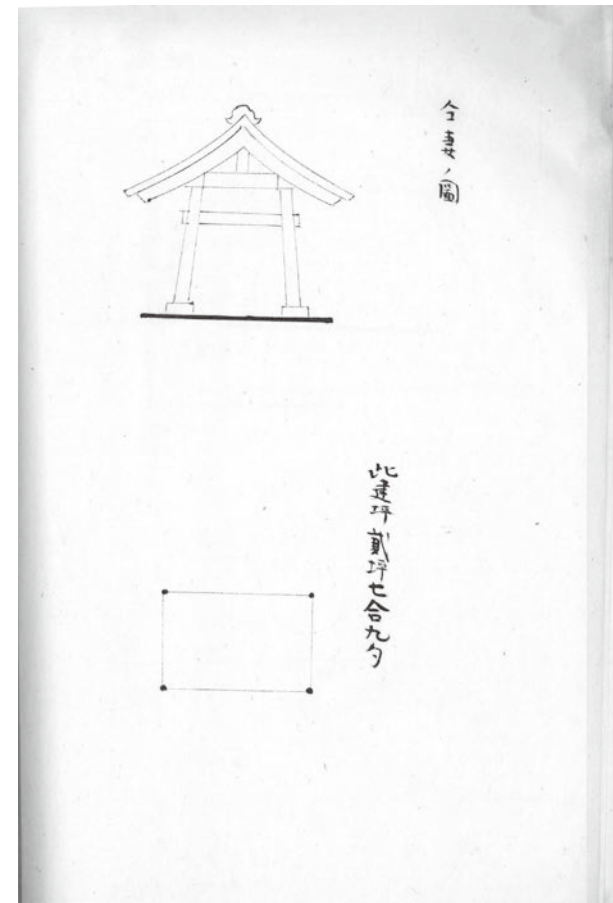
創立年月未詳



(66)

蓮池北側繪馬掛所 正面ノ図
平向切妻造

此建坪 式坪七合九勺

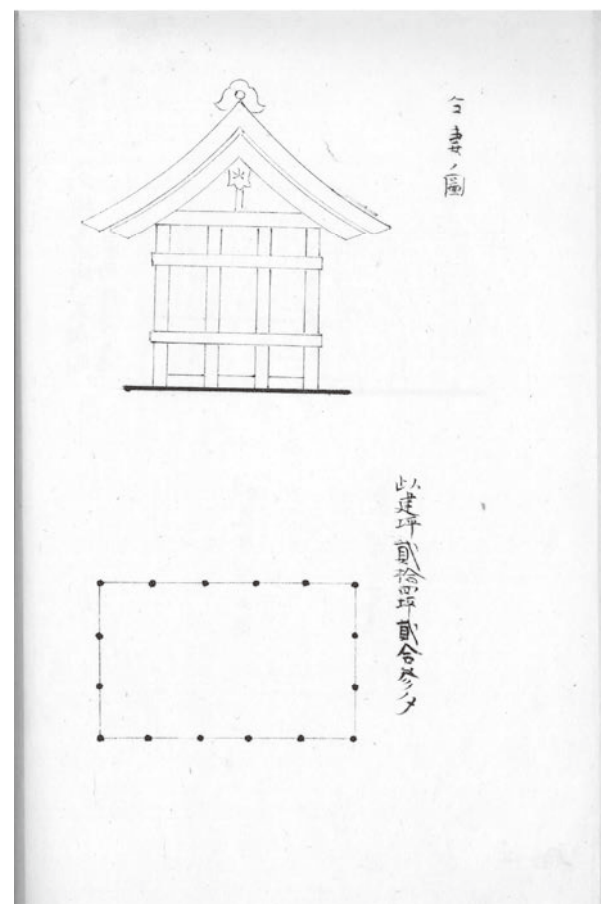


(65)

全妻ノ図

(67)

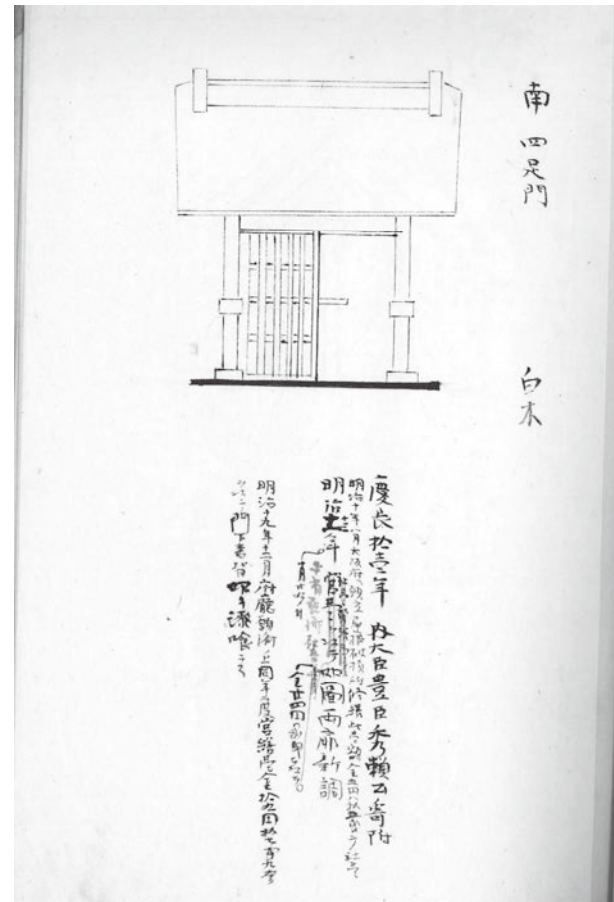
全妻ノ図



此建坪 貳拾四坪貳合参勺

(68)

南四足門
白木



慶長拾老年内大臣豊臣秀頼公ノ寄附

明治十年八月大阪府へ願立、屋根破損所修繕、此費額金五円八拾五錢二厘社費

社費當繕費ヲ以

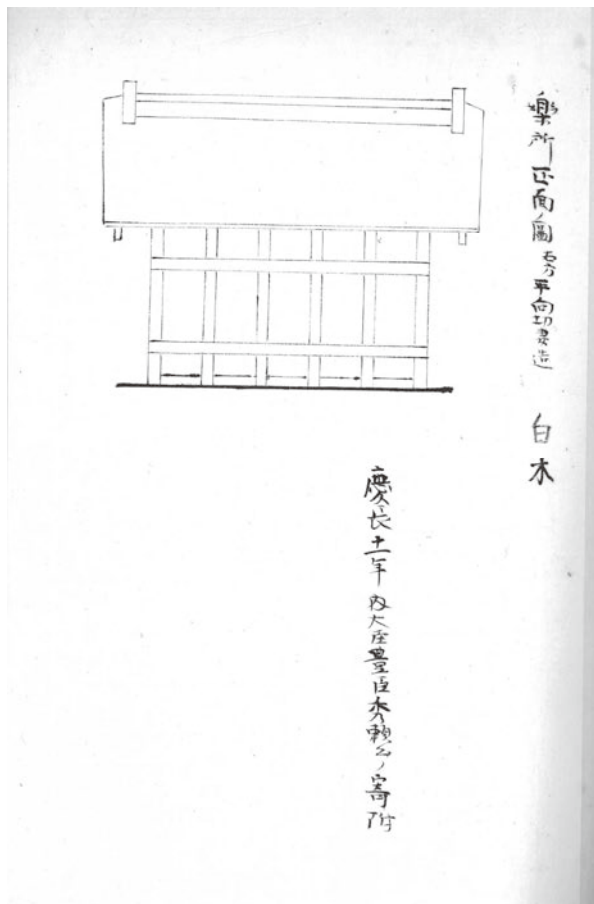
明治十三年十月廿九日付書費ヲ以テ。如図両扉新調

『本省願濟社費ヲ以テ』金廿四円貳錢ヲ以テ○

明治十九年十二月府庁願濟上、同年度繕費金拾九円拾七錢九厘

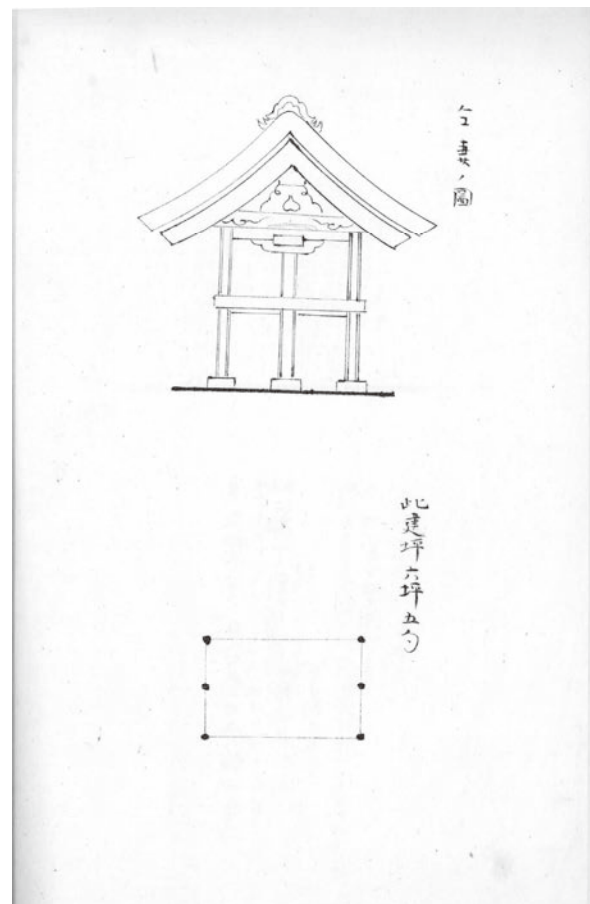
ヲ以テ門下悉皆叩キ漆喰ニス

慶長十一年内大臣豊臣秀頼公ノ寄附



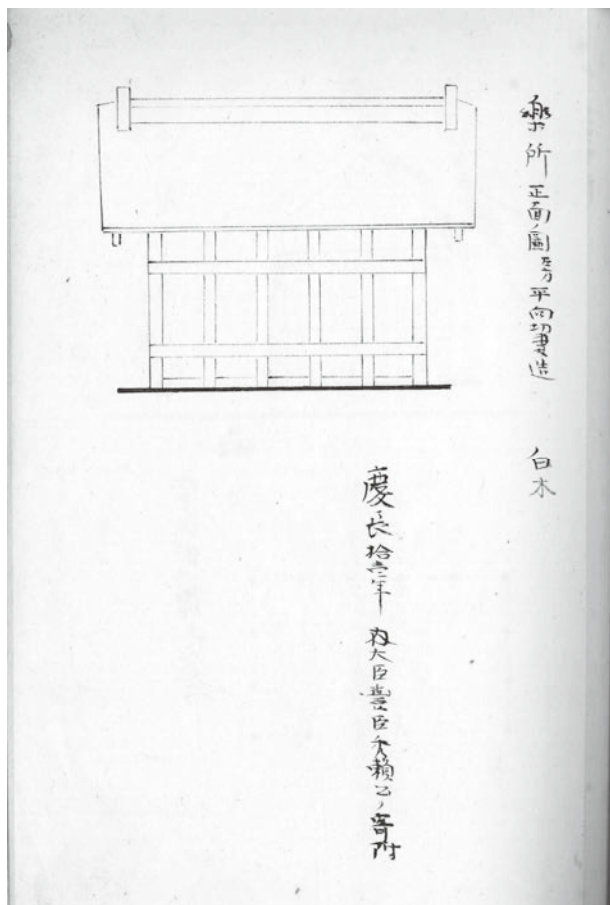
(70)
楽所 正面ノ図 右方
平向切妻造、白木

此建坪 六坪五勺



(69)
全妻ノ図

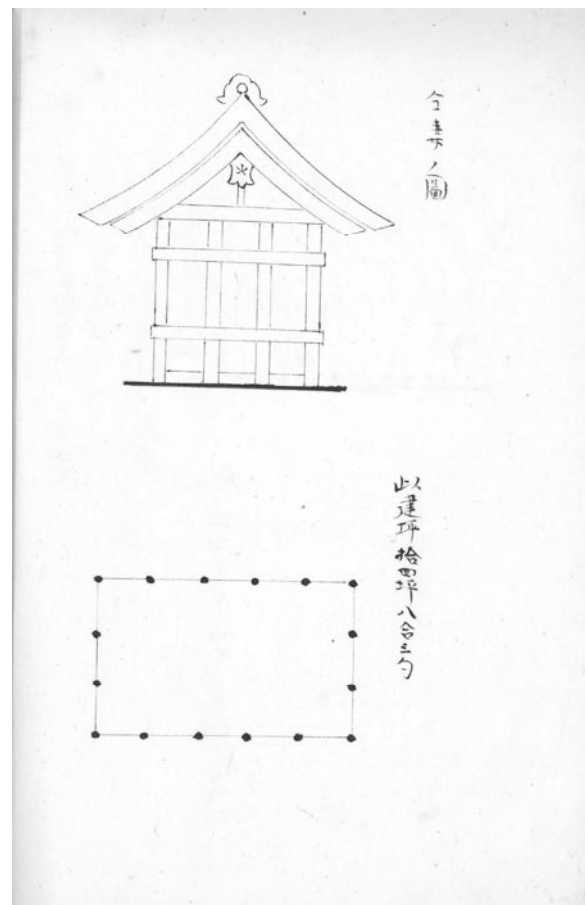
慶長拾壹年内大臣豊臣秀頼公ノ寄附



(72)

樂所 正面ノ図 左方
平向切妻造、白木

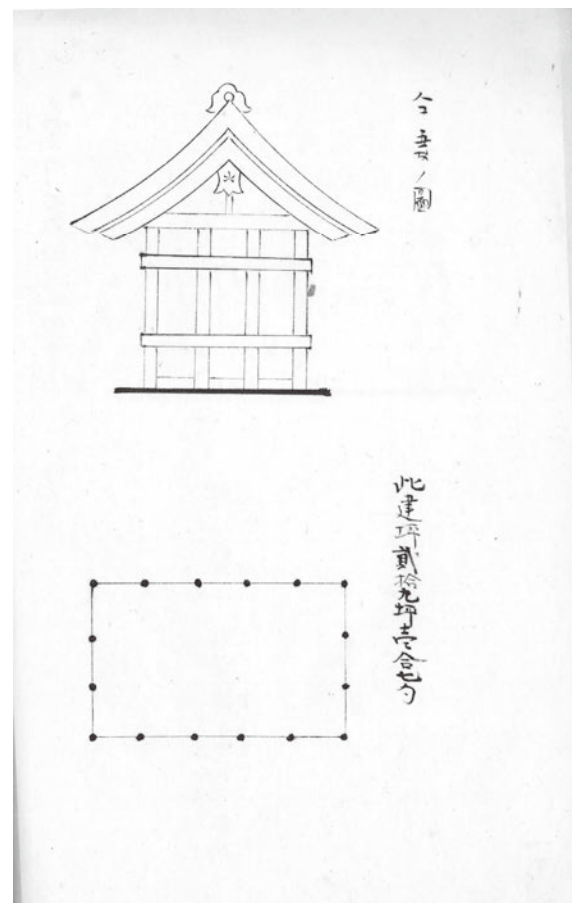
此建坪 拾四坪八合三勺



(71)

全妻ノ圖

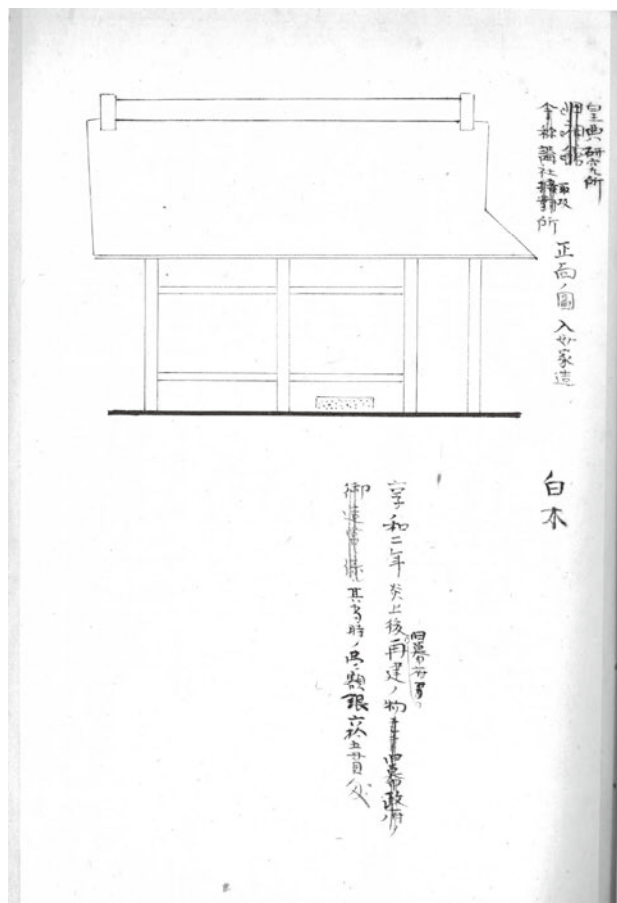
(73) 全 妻ノ図



此建坪 貳拾九坪七合七勺

(74) 皇典研究所 取扱
旧神館 今称講社接対所 正面ノ図

入母家造、白木



享和二年炎上後旧幕府ヨリ再建ノ物ナシテ旧幕政府ノ御造常ニ係ル、其当時ノ費額銀六拾五貫匁

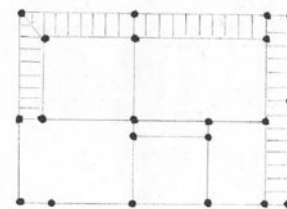
(75)

全妻ノ図

全妻ノ圖



此建坪四拾壹坪九合

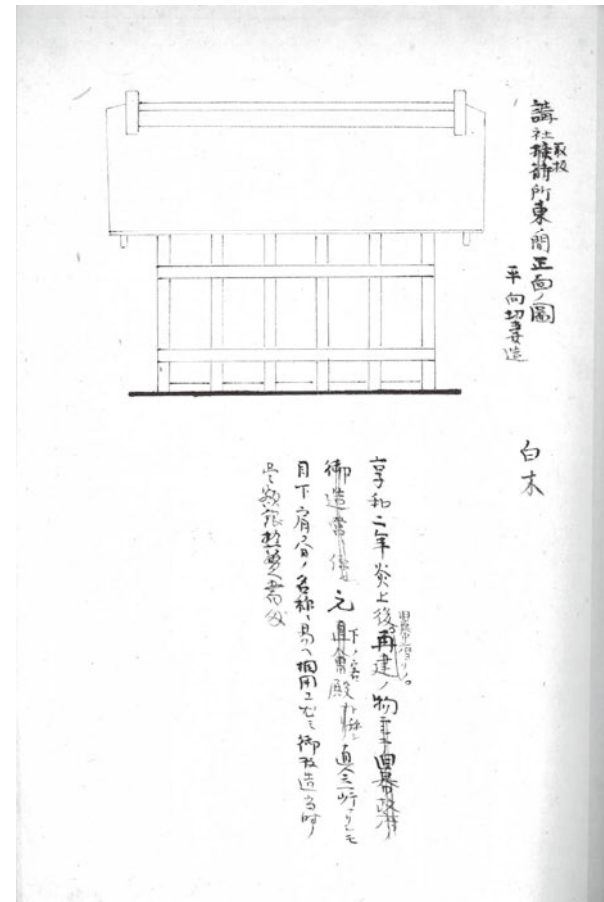


此建坪 四拾壹坪九合

(76)

取扱

講社接待所東ノ間 正面ノ図
平向切妻造、白木

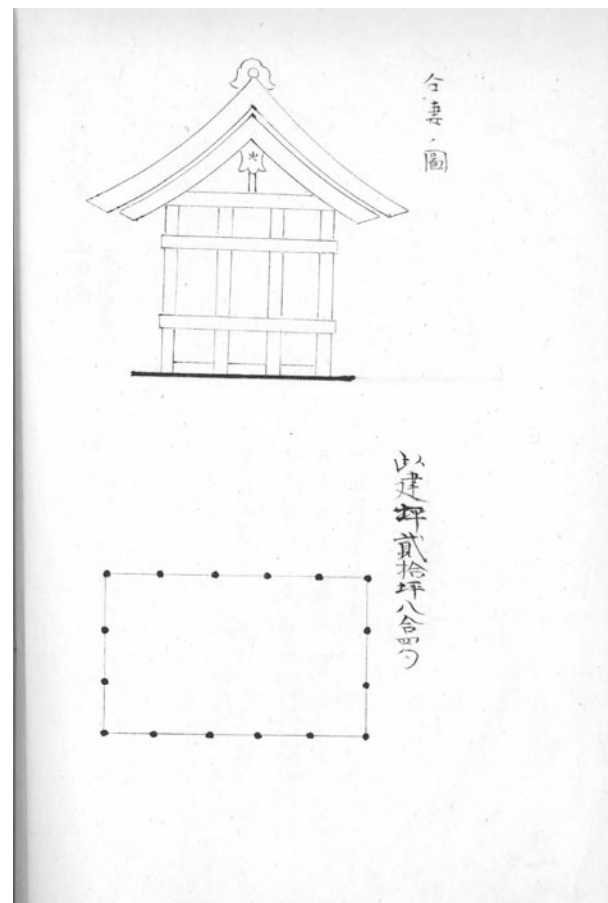


享和二年炎上後旧幕府ヨリノ再建ノ物ナシテ旧幕政府ノ

下ノ客 ト称シ

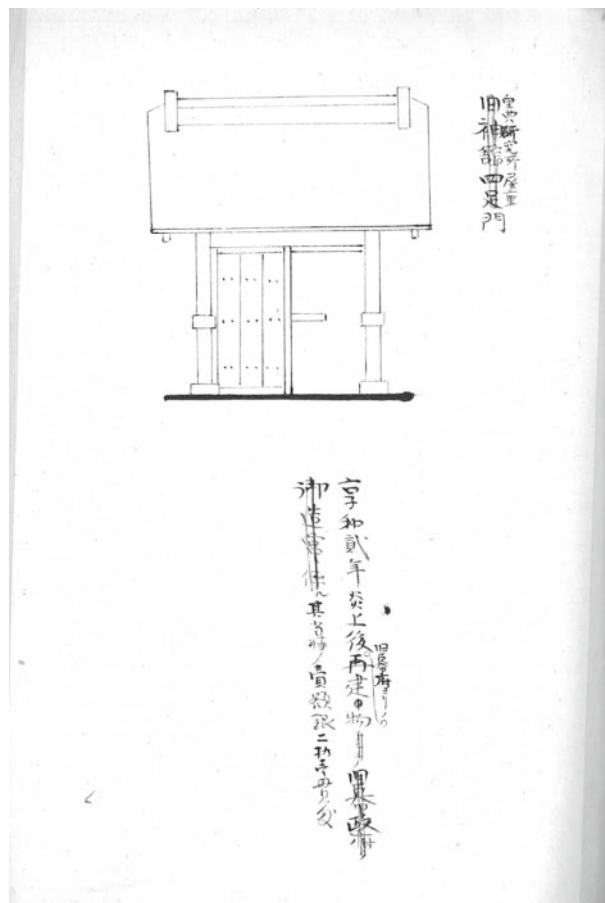
御造當ニ係ル、元直余殿ナリ、直会一所ナリシモ
目下肩書ノ名称ニ易ヘ相用ニ、尤モ御改造當時ノ
費額銀拾六貫五百匁

(77) 全妻ノ図



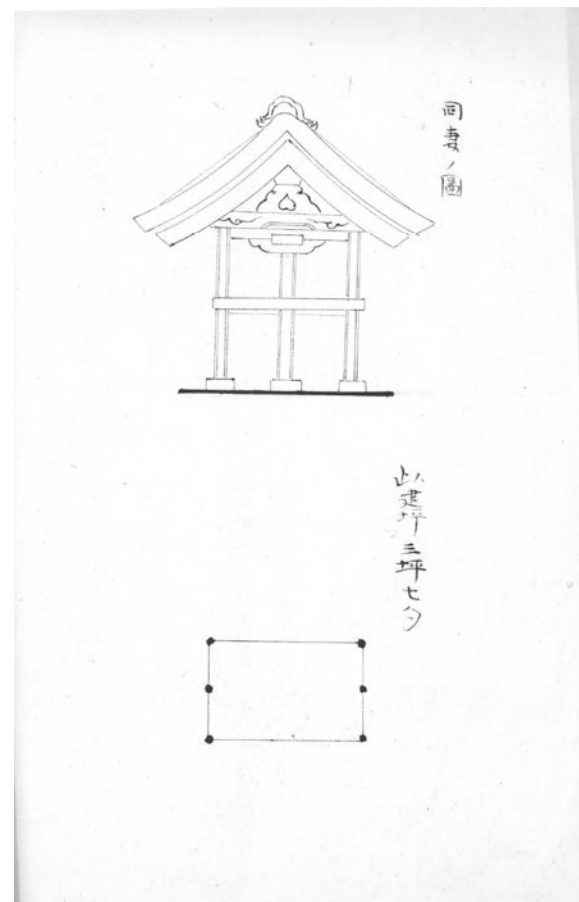
此建坪 貳拾坪八合四勺

(78) 皇典研究所屏重
旧神館四足門



享和貳年炎上後旧幕府ヨリノ再建ノ物ナシテ旧幕政府ノ
御造當主係ル、其当時ノ費額銀二拾壹貫匁

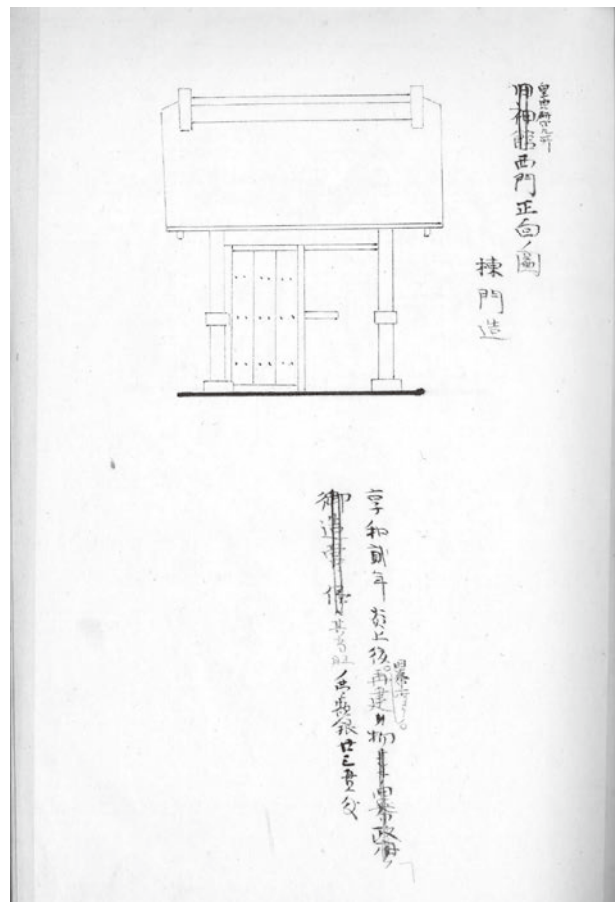
(79) 同妻ノ図



此建坪 三坪七勺

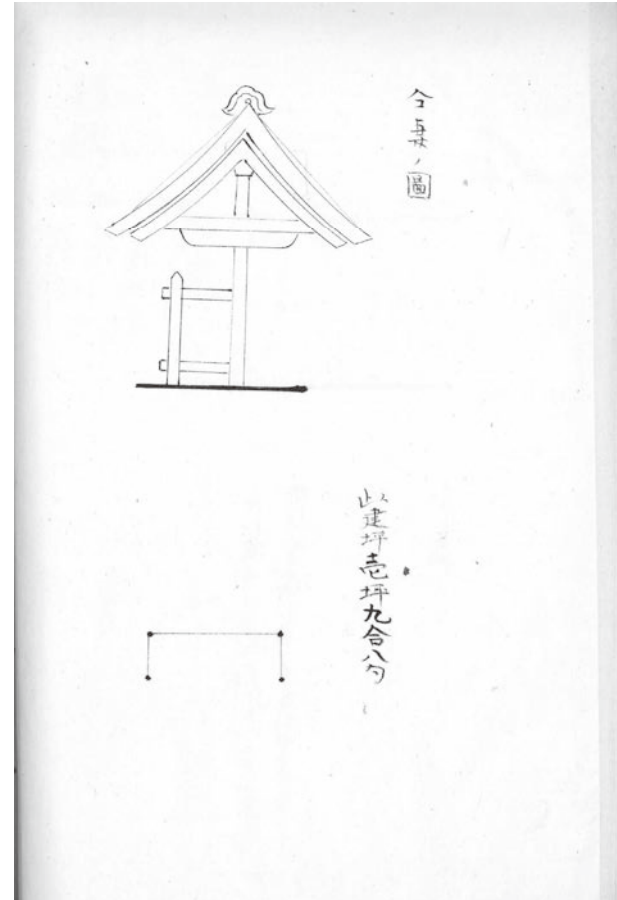
(80)

皇典研究所
旧神館西門 正面ノ図
棟門造



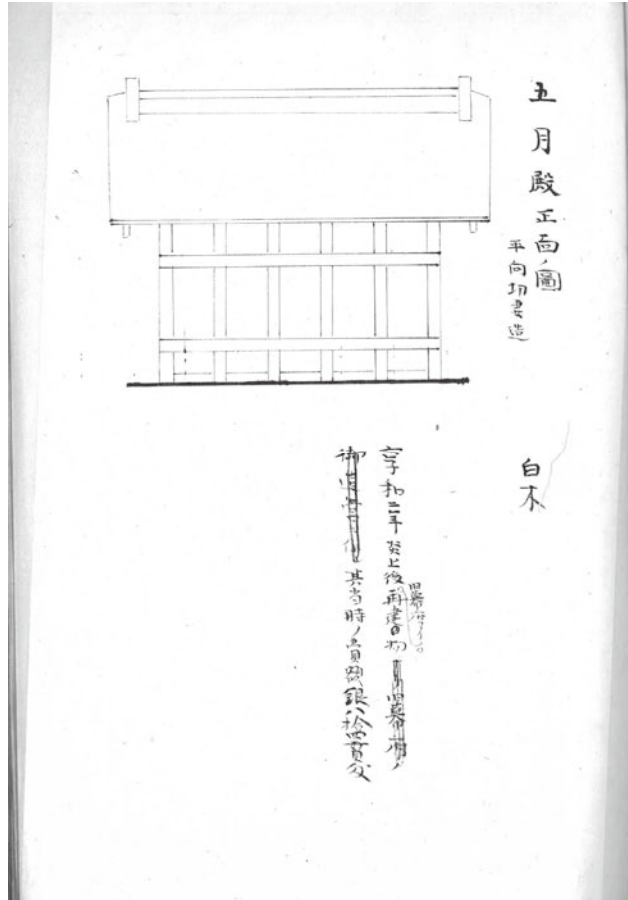
享和貳年炎上後旧幕府ヨリノ再建ノ物ナシテ旧幕政府ノ御造當ニ係ル、其当時ノ費額銀廿三貫匁

(81) 全 妻ノ図



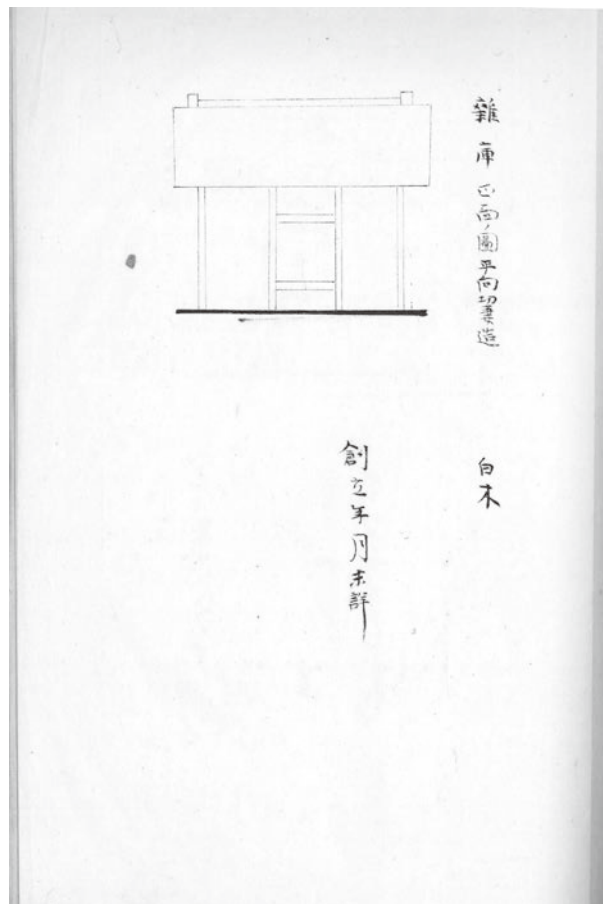
此建坪 志坪九合八勺

(82) 五月殿 正面ノ図
平向切妻造、白木



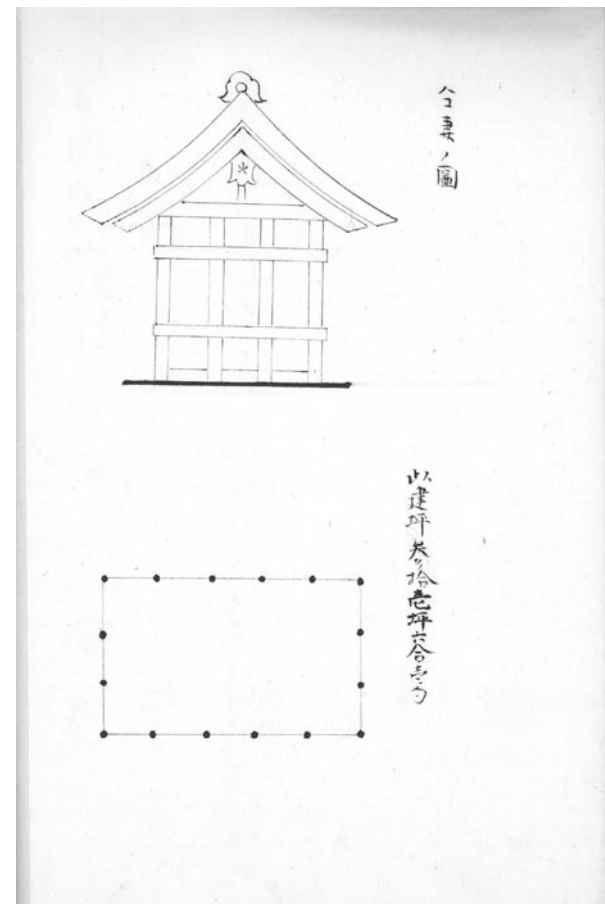
享和二年炎上後旧幕府ヨリノ再建ノ物ナシテ旧幕府ノ御造當ニ係ル、其當時ノ費額銀八拾四貫匁

創立年月未詳



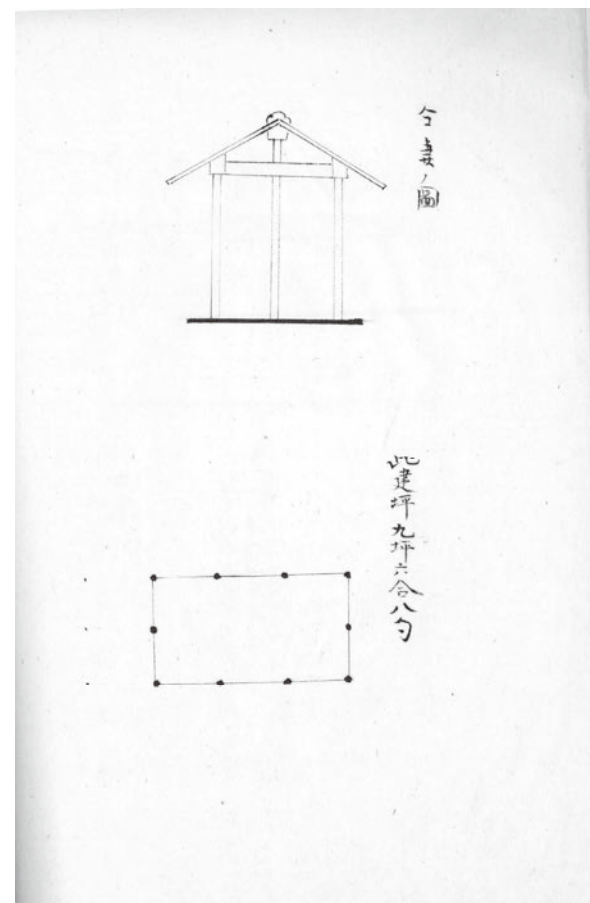
(84)
雑庫 正面ノ図
平向切妻造、白木

此建坪 参拾壹坪六合叁勺



(83)
全妻ノ図

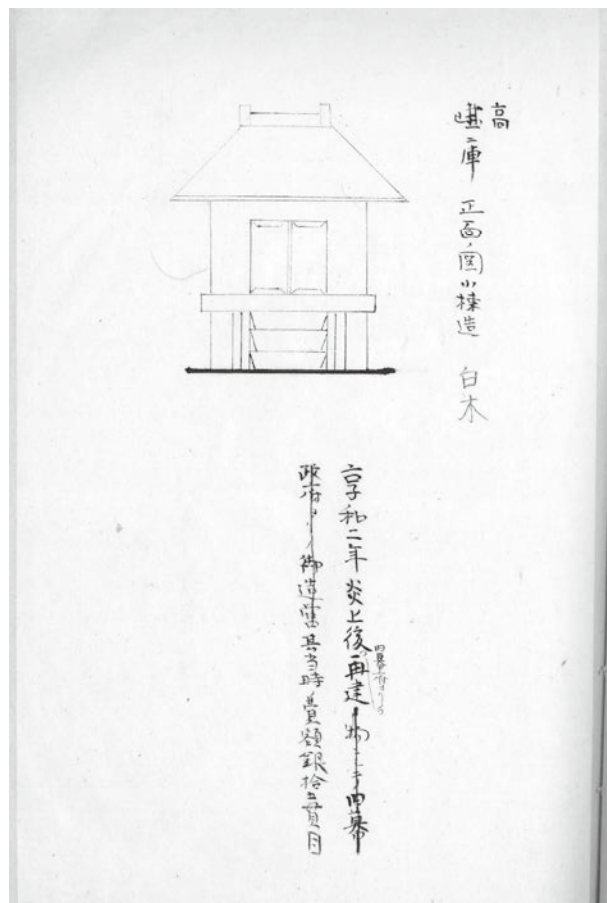
(85) 全妻ノ図



此建坪 九坪六合八勺

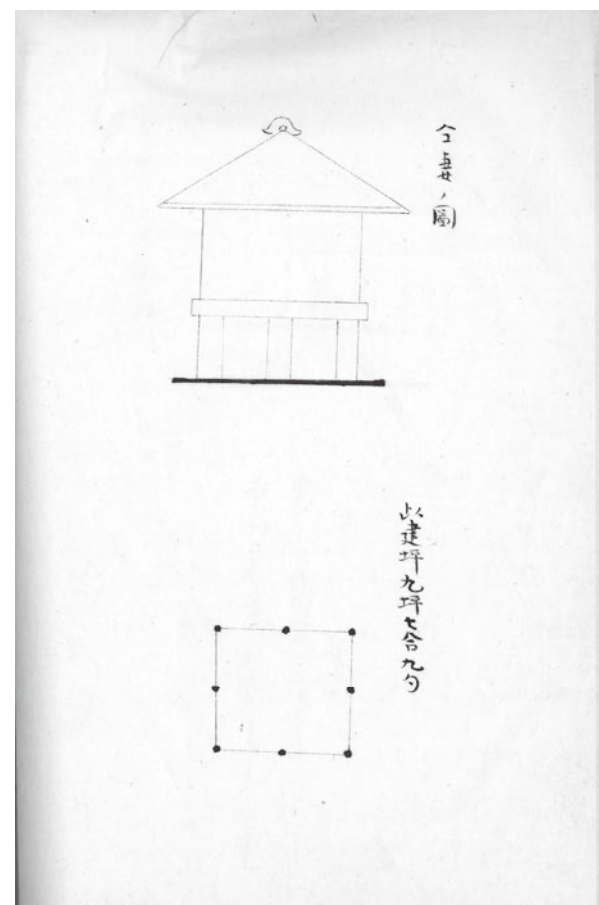
(86) 高 宝庫 正面ノ図

小棟造、白木



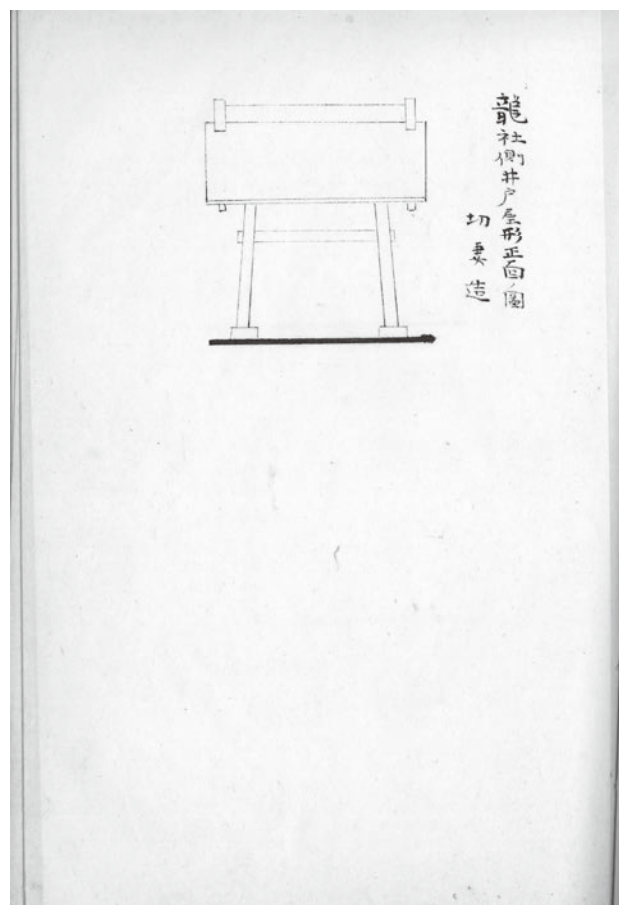
享和二年炎上後旧幕府ヨリノ再建ノ物ニシテ旧幕
政府ヨリノ御造常、其当時ノ費額銀拾五貫目

(87) 全妻ノ図

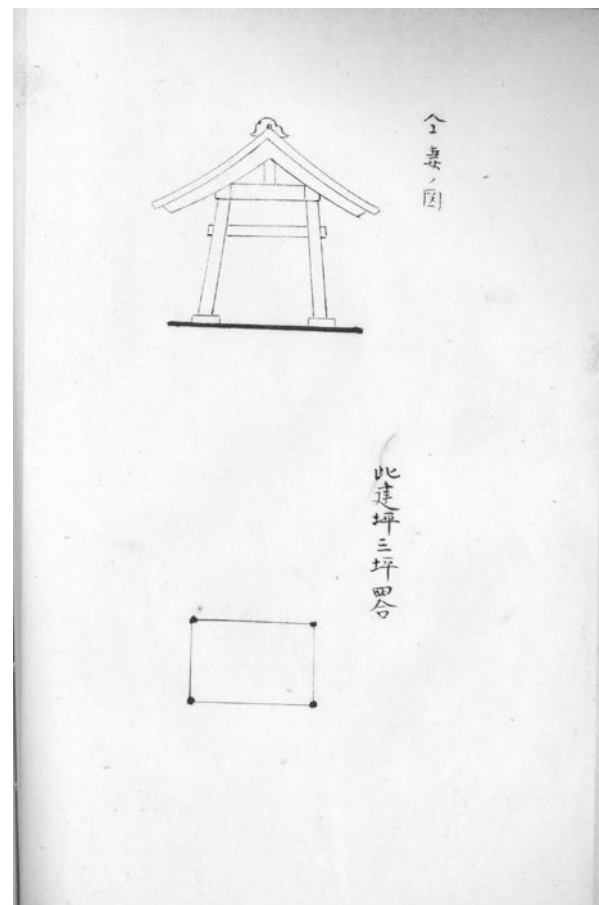


此建坪 九坪七合九勺

(88) 龍社側井戸屋形 正面ノ図
切妻造

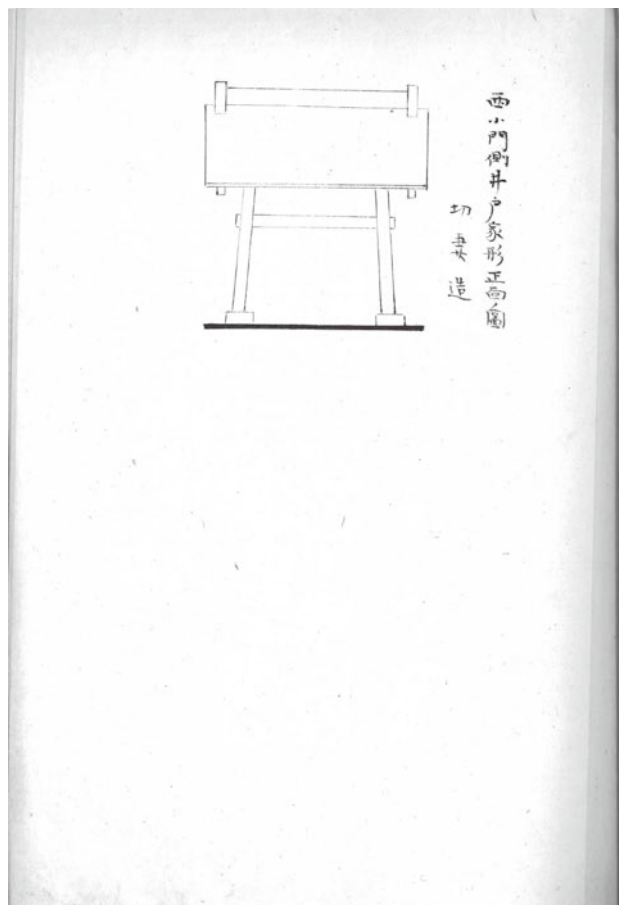


(89) 全妻ノ図

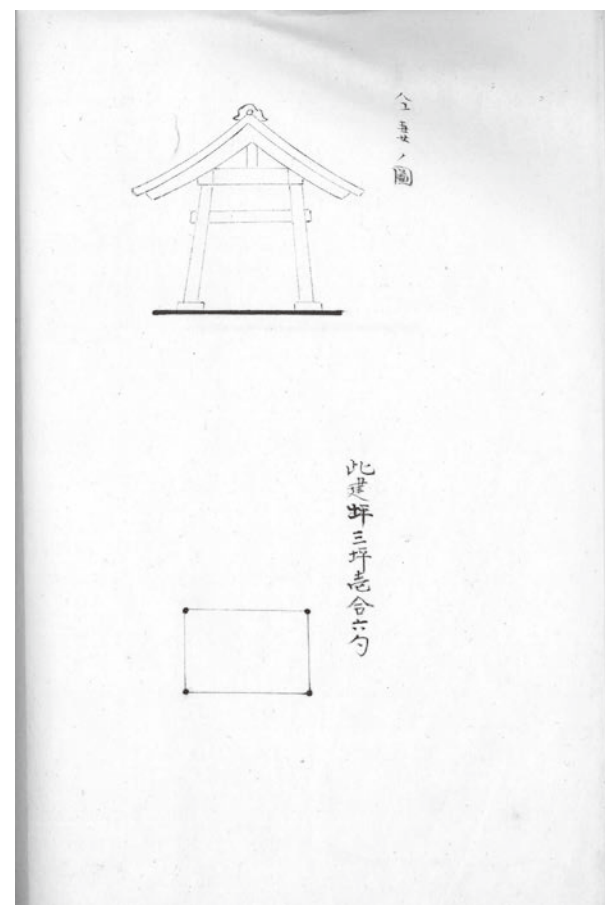


此建坪 三坪四合

(90) 西小門側井戸家形 正面ノ図
切妻造

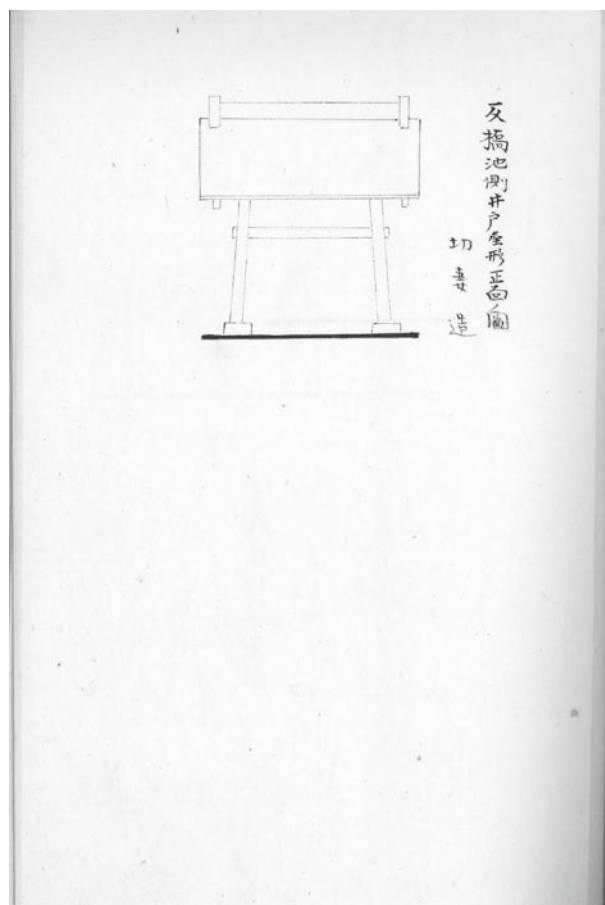


(91) 全妻ノ図

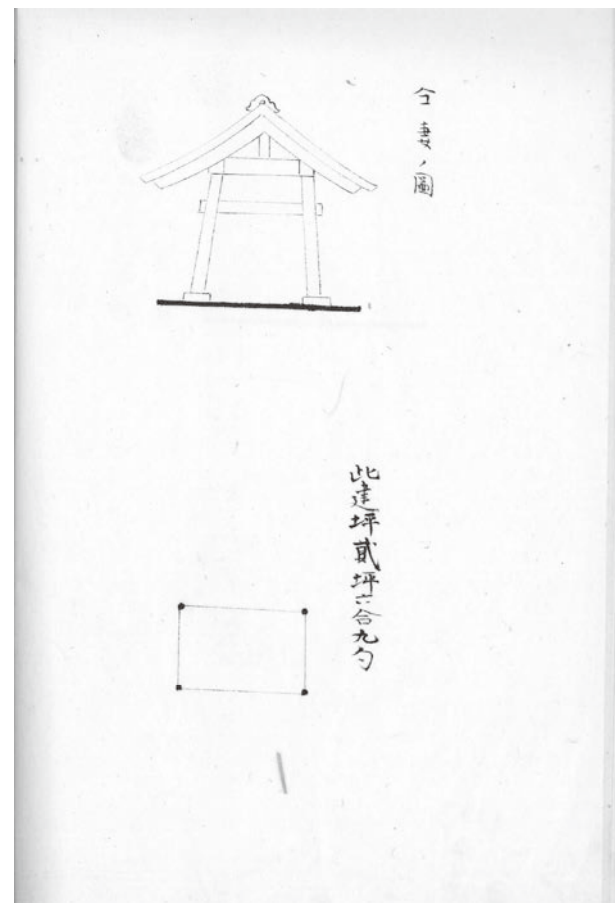


此建坪 三坪壹合六勺

(92) 反橋池側井戸屋形 正面ノ図
切妻造

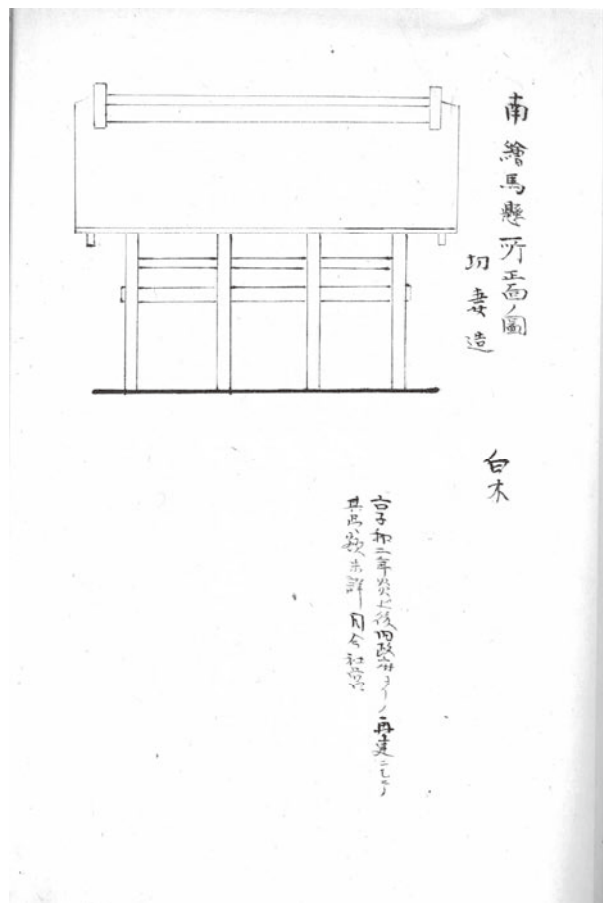


(93) 全妻ノ図



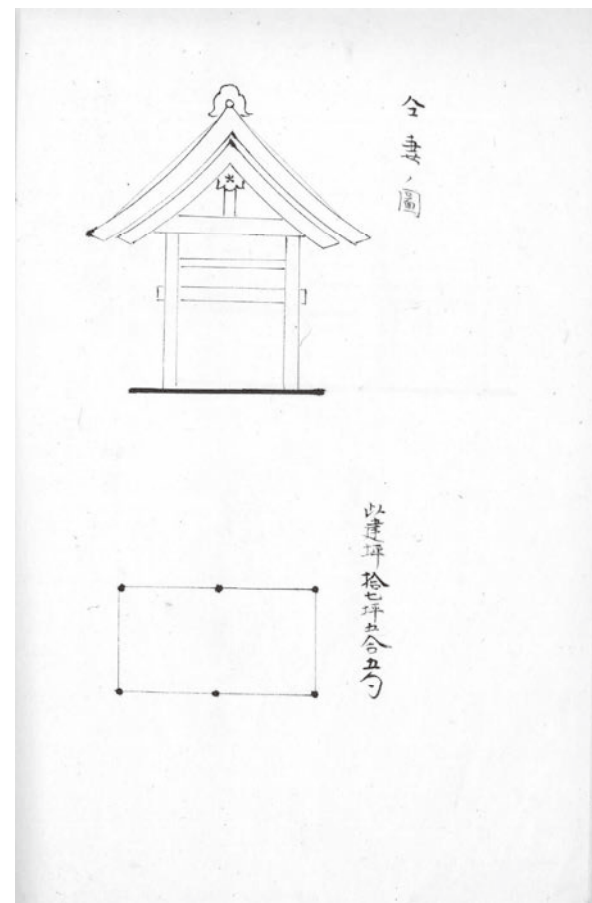
此建坪 貳坪六合九勺

(94) 南繪馬懸所 正面ノ図
切妻造、白木



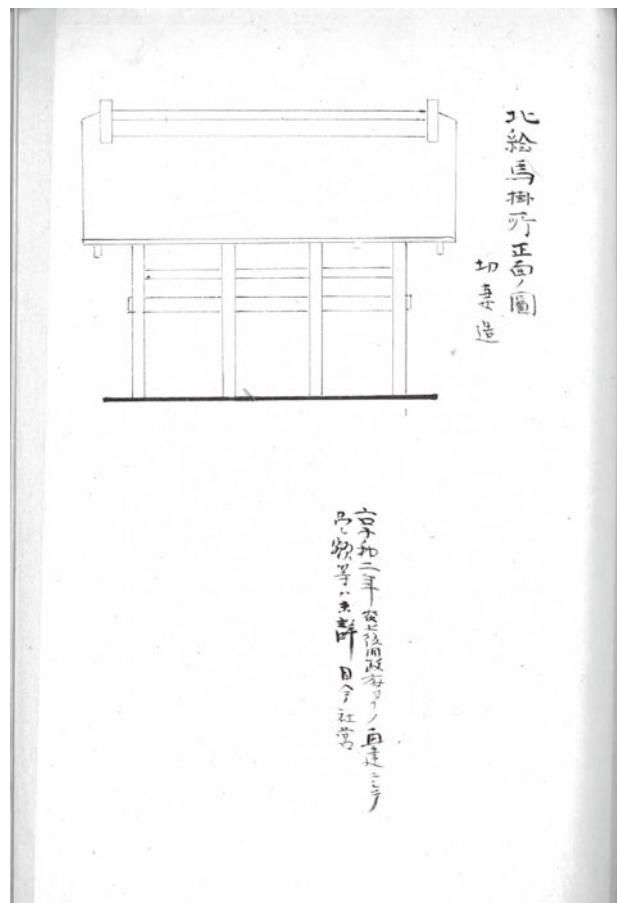
享和二年炎上後旧政府ヨリノ再建ニシテ
其費額未詳、目今社営

(95) 全妻ノ図



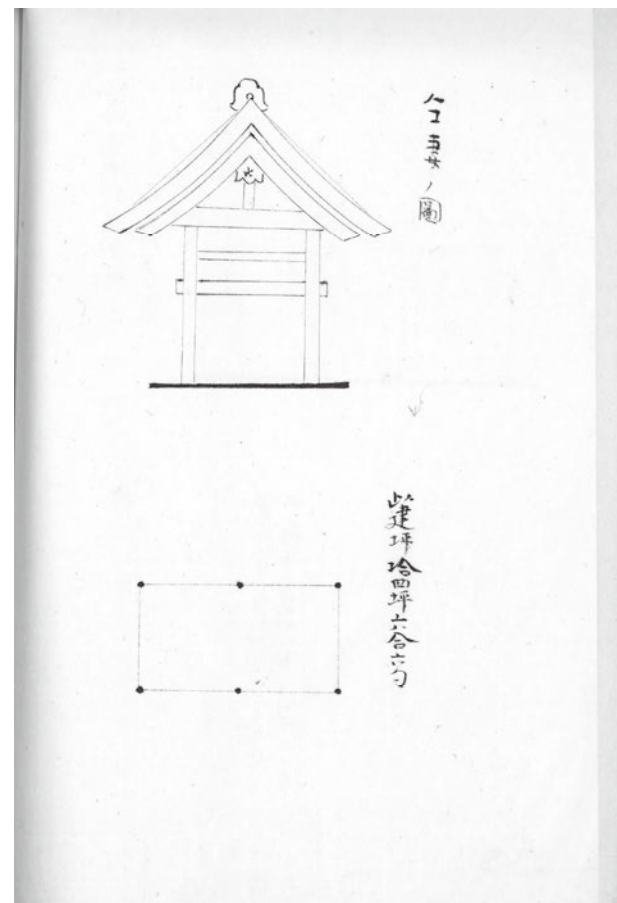
此建坪 拾七坪五合五勺

(96) 北絵馬掛所 正面ノ図
切妻造



享和二年 後旧政府ヨリノ再建ニシテ
費額等ハ未詳、目今社営

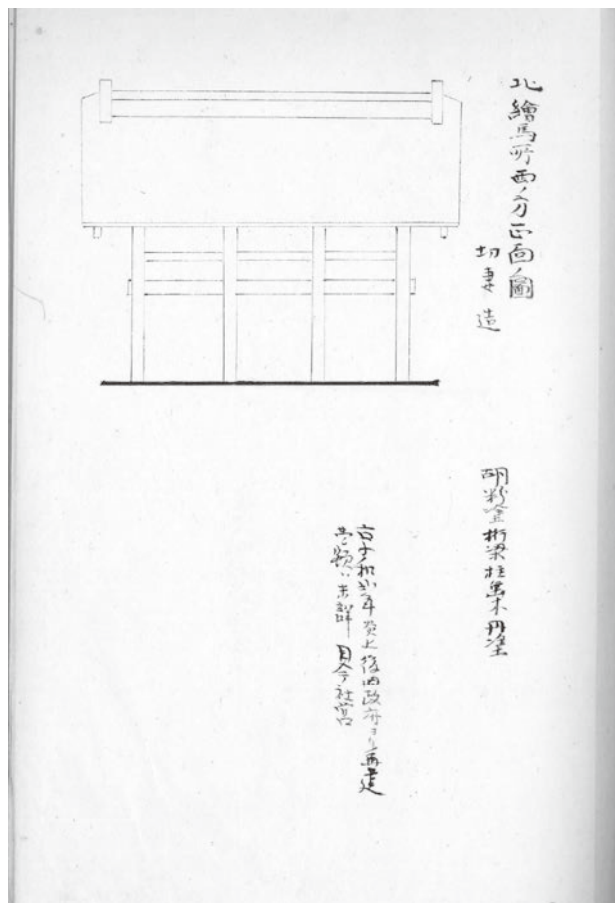
(97) 全 妻ノ図



此建坪 拾四坪六合六勺

(98) 北繪馬所西ノ方 正面ノ図

切妻造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



享和貳年炎上後旧政府ヨリノ再建
費額ハ未詳、目今社営

(99)

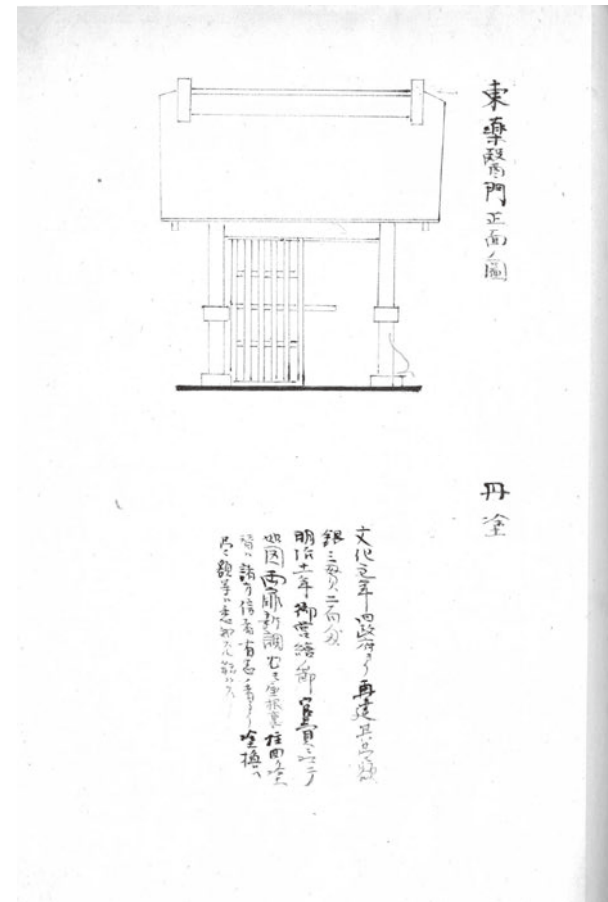
全妻ノ図



此建坪 拾七坪三合三勺

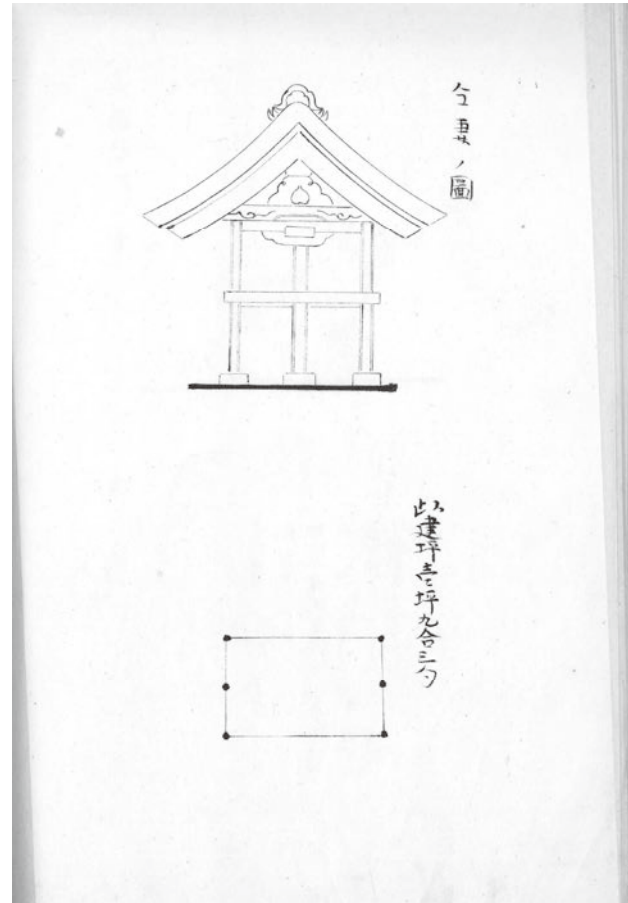
(100)

東藥医門 正面ノ図
丹塗



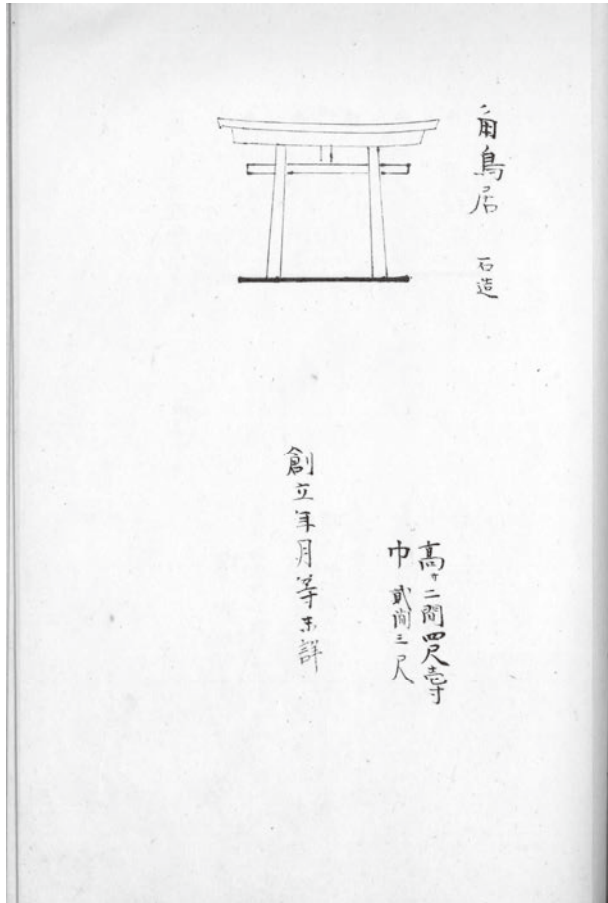
文化元年旧政府ヨリ再建、其費額
銀三貫二百匁
明治十一年御宮繕ノ節官費ヲ以テ
如図両扉新調、尤モ屋根裏柱回り塗
替ハ諸方信者有志ノ者ヨリ塗換ヘ
費額等ハ悉知スル能ハス

(101) 全妻ノ図



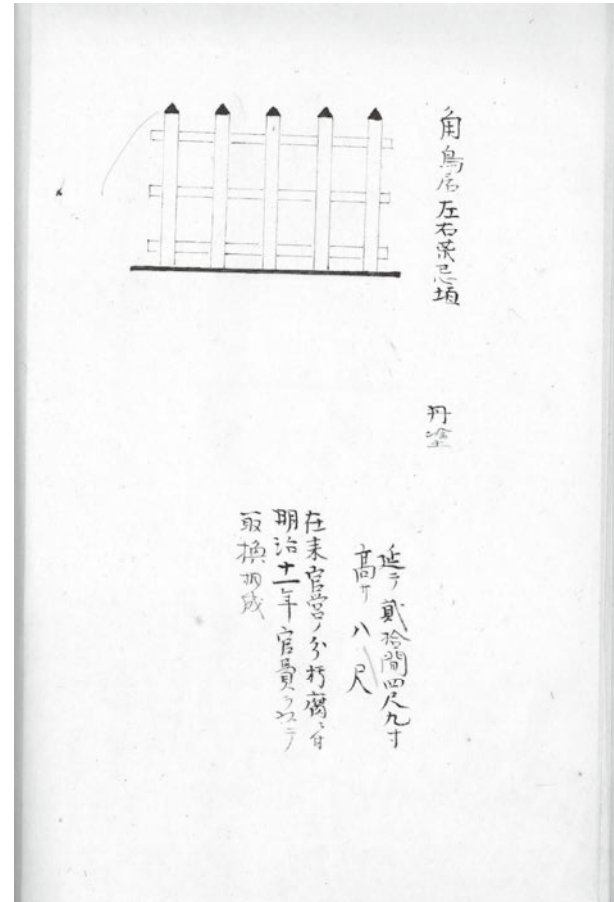
此建坪 九合三勺

(102) 角鳥居 石造



高サ 二間四尺壹寸
巾 貳間三尺
創立年月等未詳

角鳥居左右荒忌垣
丹塗



延テ貳拾間四尺九寸
高サ 八尺

在来官營ノ分朽腐ニ付
明治十一年官費ヲ以テ
取換相成

反橋



長サ 拾壹間
巾 三間五尺
高サ 前間五尺五分
最初豊太閣ノ寄附シ者トシテ大阪船大工職ヨリ
度々架換ヘ其年月等未詳最近架換ハ
明治十一年四月而シテ其費額ハ悉知セスト雖モ、右費用ハ
悉皆大阪船造職業一同ヨリ之ヲ寄附ス

長サ 拾壹間

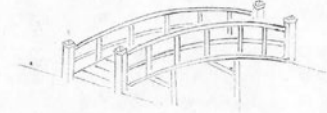
巾 三間五尺

高サ 貳間五尺五分

最初豊太閣ノ寄附セシ者ナレドモ、爾来大阪船大工職ヨリ
度々架換ヘ、其年月等未詳、最近架換ハ

明治十一年四月、而シテ其費額ハ悉知セスト雖モ、右費用ハ
悉皆大阪船造職業一同ヨリ之ヲ寄附ス

便宜橋

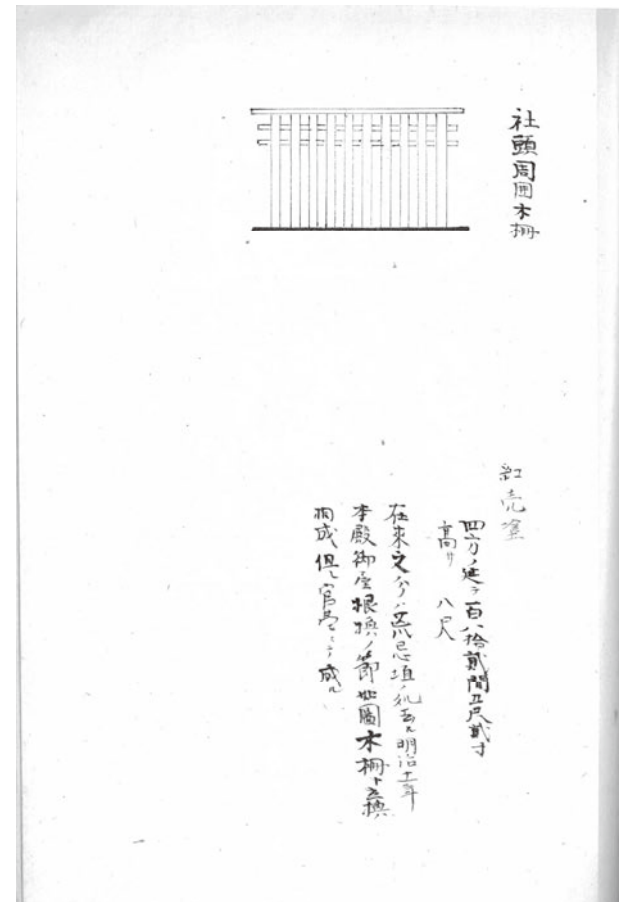


長サ拾壹間
巾七間七寸

明治六年反橋修繕ノ節全橋古木材ヲ以テ
葺替人ノ便利ヲ謀リ架置タル処、荏苒其儘ニ
相成、漸々汚腐ニ属シ候ニ付、当府平民太田永次郎
外拾五名ノ者共ヨリ架換願出、既ニ本省ノ許可ヲ
得テ架換ス、其費額悉知スル能ハス、維時
明治十一年四月二日ナリ

長サ拾壹間
巾七間七寸

明治六年反橋修繕ノ節全橋古木材ヲ以テ
参拝人ノ便利ヲ謀リ架置タル処、荏苒其儘ニ
相成、漸々汚腐ニ属シ候ニ付、当府平民太田永次郎
外拾五名ノ者共ヨリ架換願出、既ニ本省ノ許可ヲ
得テ架換ス、其費額悉知スル能ハス、維時
明治十一年四月二日ナリ

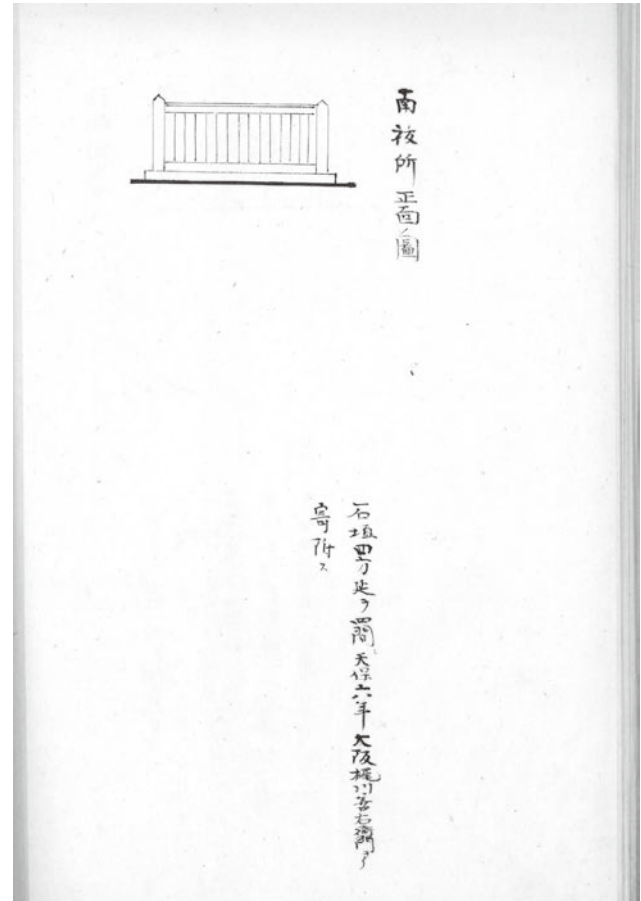


四方延テ百八拾貳間五尺貳寸
高サ 八尺

在來之分ハ荒忌垣ノ処、去ル明治十一年
本殿御屋根換ノ節如図木柵ト立換
相成、但シ官費ニテ成ル

(107)

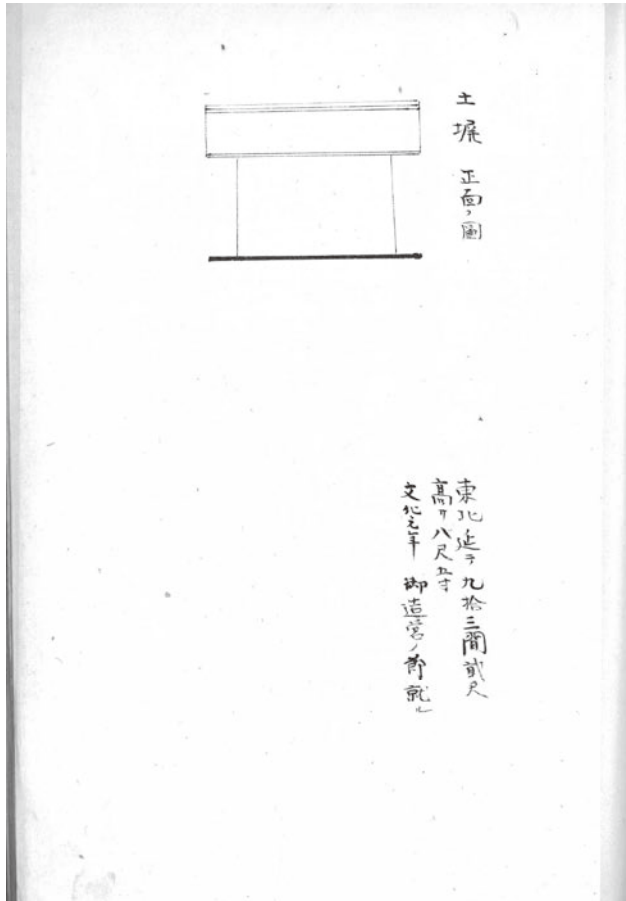
南祓所 正面ノ図



石垣四方延テ四間、天保六年大阪梶川善右衛門ヨリ
寄附ス

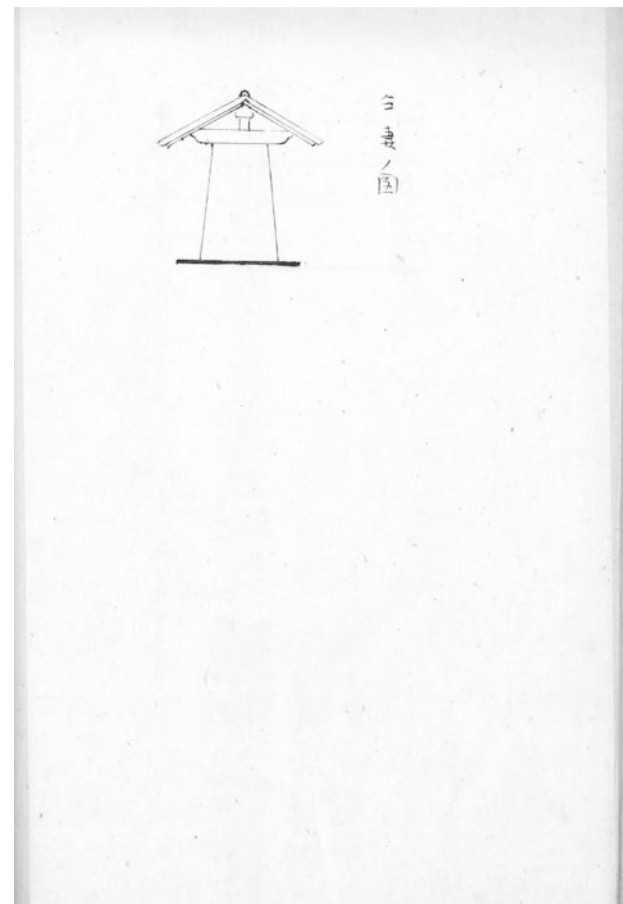
(108)

土塀 正面ノ図

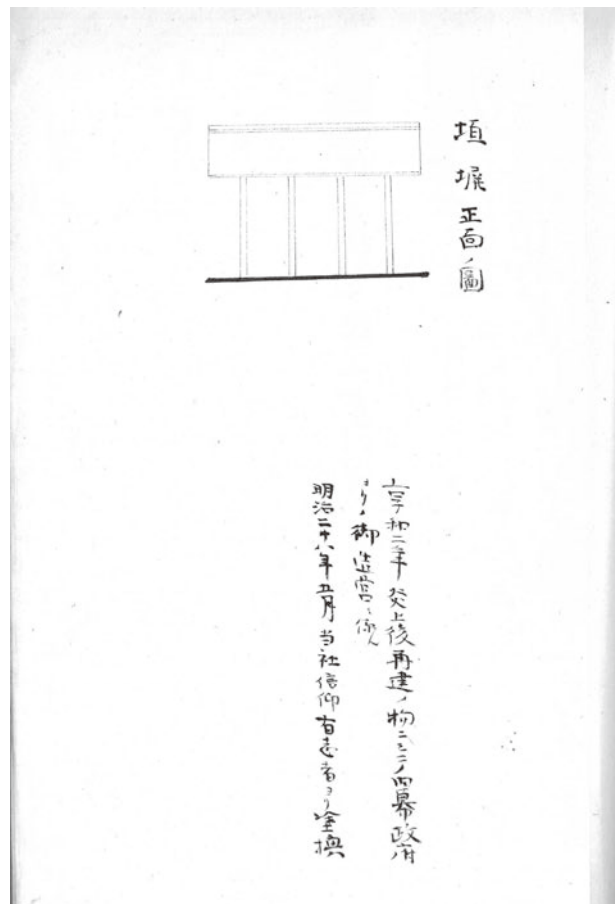


東北延テ九拾三間貳尺
高サ 八尺五寸
文化元年御造營ノ節就ル

(109) 全妻ノ図

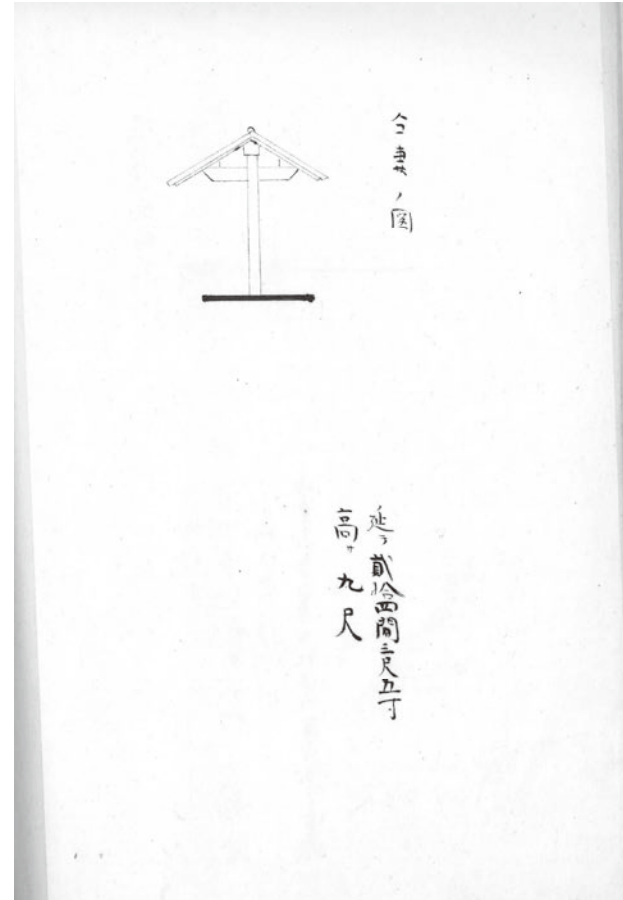


(110) 垣塀 正面ノ図



享和二年炎上後再建ノ物ニシテ旧幕政府
ヨリノ御造営ニ係ル
明治二十八年五月当社信仰有志者ヨリ塗換

(111) 全妻ノ図



延テ貳拾四間三尺五寸
高サ 九尺

(112) 西大鳥居
石造



高サ 四間三尺八寸
巾 三間五尺四寸
創立年月未詳

(113)
東大鳥居
石造



東大鳥居
石造

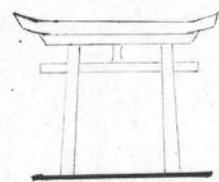
高サ 三間五尺七寸
巾 三間三尺七寸

創立年月未詳

高サ 三間五尺七寸
巾 三間三尺七寸

創立年月未詳

(114)
南大鳥居
石造



南大鳥居
石造

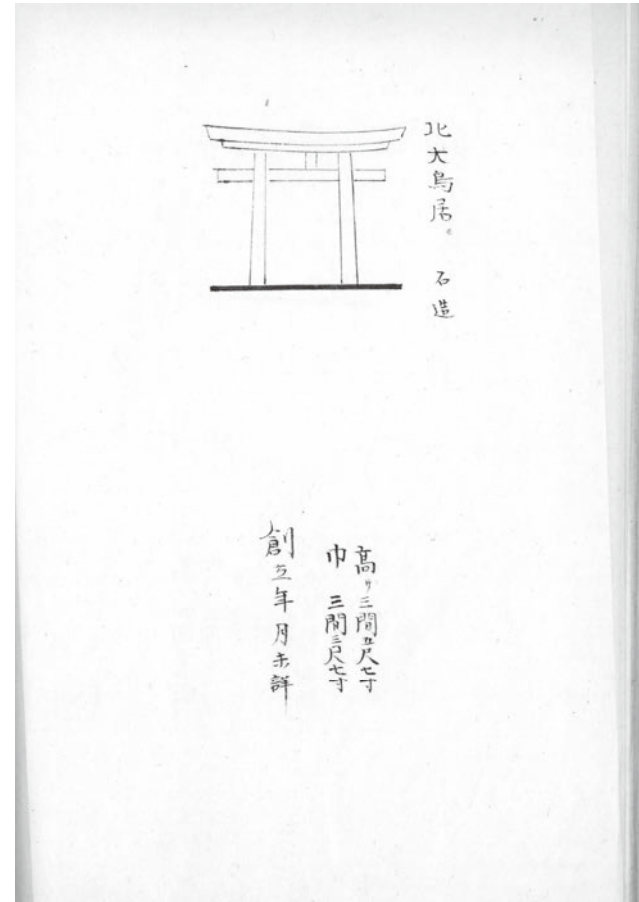
高サ 四間五尺七寸
巾 三間三尺七寸

創立年月未詳

高サ 四間五尺七寸
巾 三間三尺七寸
創立年月未詳

(115)

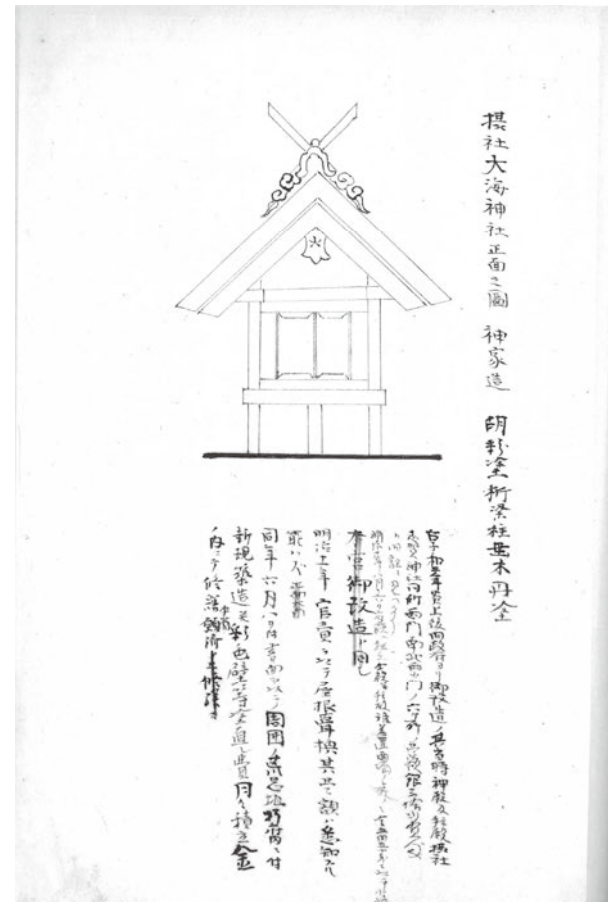
北大鳥居
石造



高サ 三間五尺七寸
巾 三間三尺七寸

創立年月未詳

撰社大海神社 正面之図
神家造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



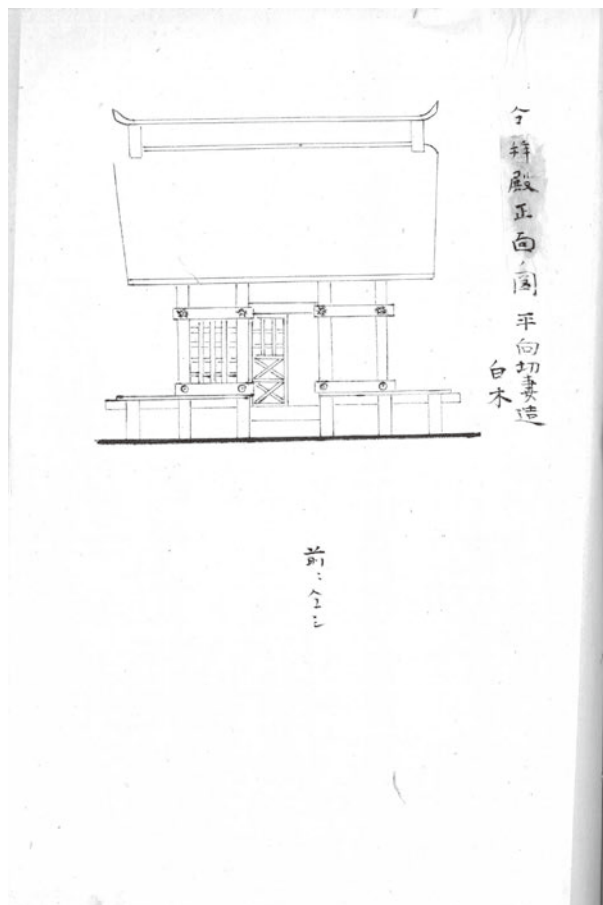
享和二年炎上後旧政府ヨリ御改造ノ其当時、神殿及拝殿、撰社
志賀神社、同所西門南北両小門ノ六ヶ所ノ費額銀三拾貳貫匁
ト旧記ニ見ヘタリ

明治十年八月十六日府庁へ願立、本殿并拝殿難差置雨漏ノヶ所ノミ金五円五十銭ヲ以テ小修繕
本宮御改造ノ間シ

明治十一年官費ヲ以テ屋根葺換、其費額ハ悉知スル
能ハズ、正面北門

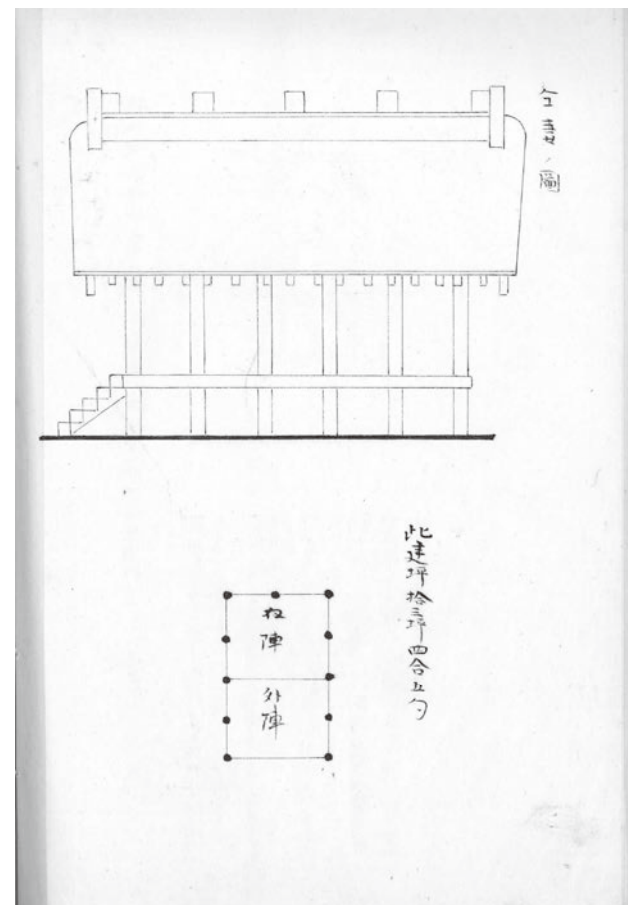
同年六月八日付書面ヲ以テ周囲ノ荒忌垣朽腐ニ付
新規築造并彩色壁等塗直シ費、月々積立金
ノ内ニテ修繕、本省願済ノ上修繕ナ

前ニ全シ



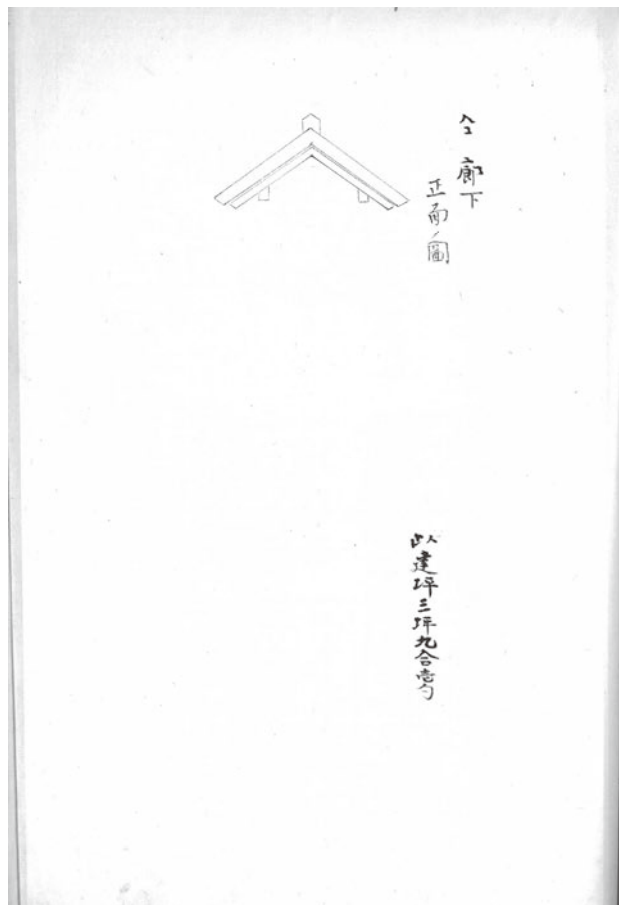
(118)
全拝殿 正面ノ図
平向切妻造、白木

此建坪 拾三坪四合五勺



(117)
全妻ノ図

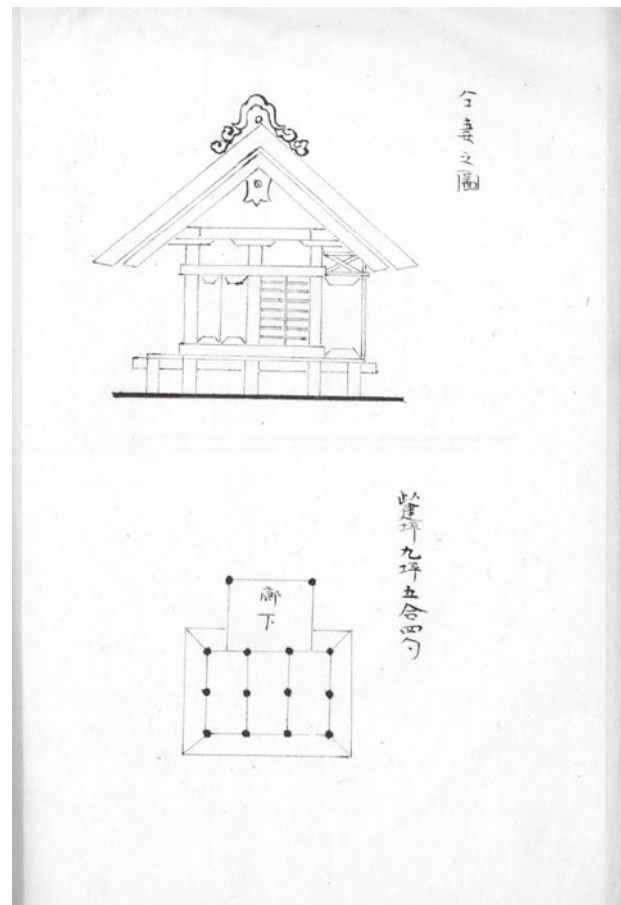
此建坪 三坪九合壹勺



(120)

全廊下 正面ノ図

此建坪 九坪五合四勺

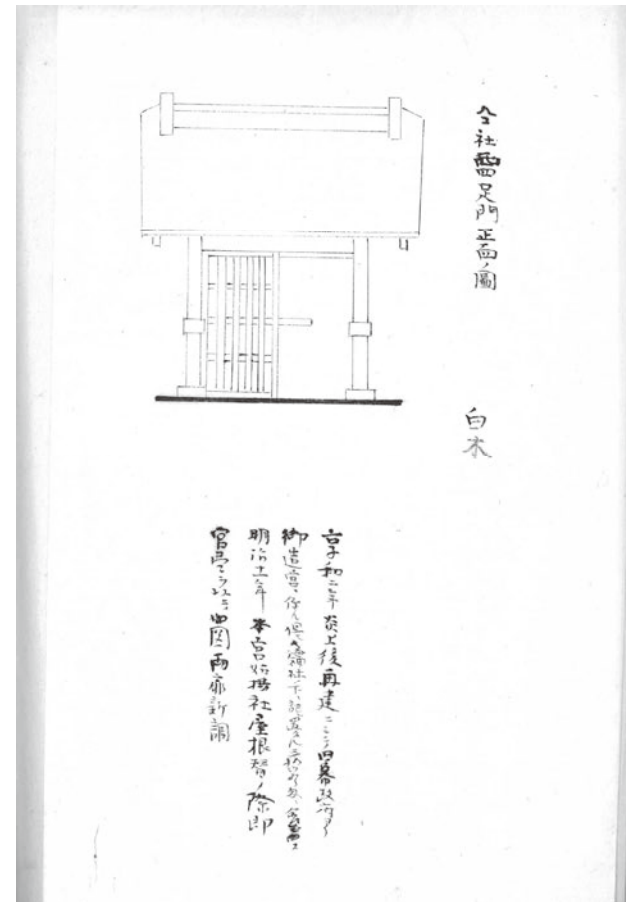


(119)

全妻之圖

(121)

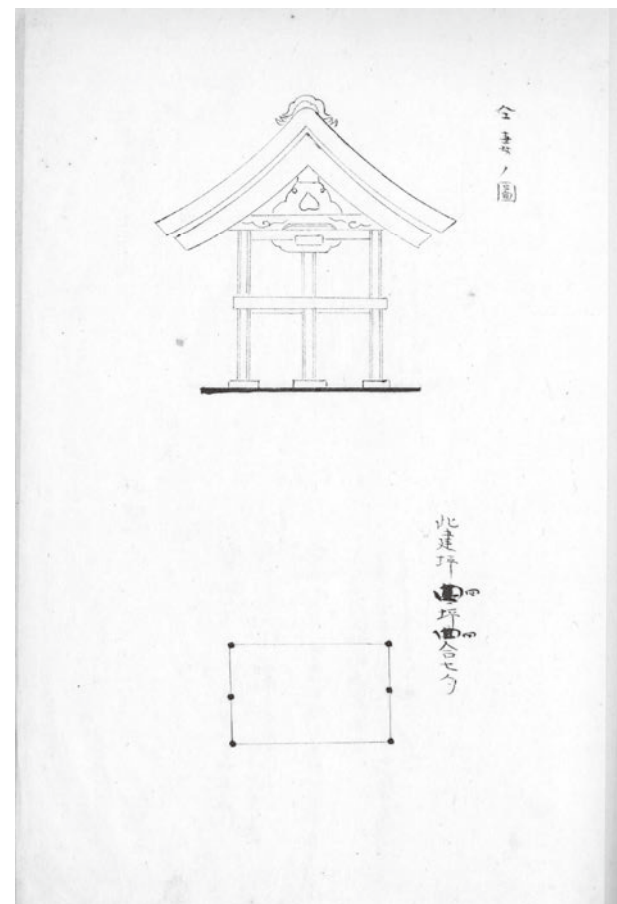
全社西四足門 正面ノ図
白木



享和二年炎上後再建ニシテ旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル、但シ大海神社ノ下ニ記シ置タル三十式貫匁ニ含蓄ス
明治十一年本宮始撰社屋根替ノ際即
官費ヲ以テ如図兩扉新調

(122)

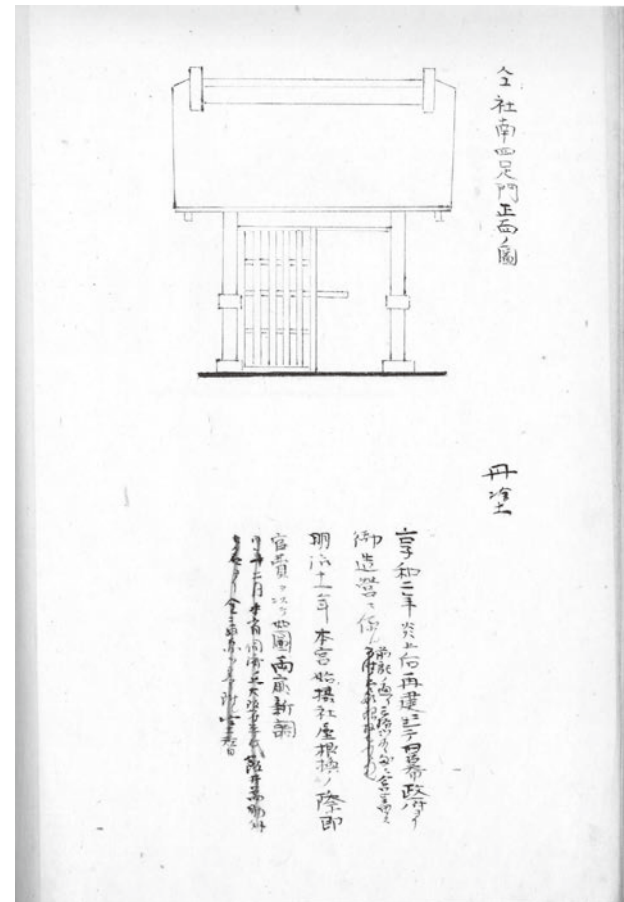
全妻ノ図



此建坪
四合七勺

(123)

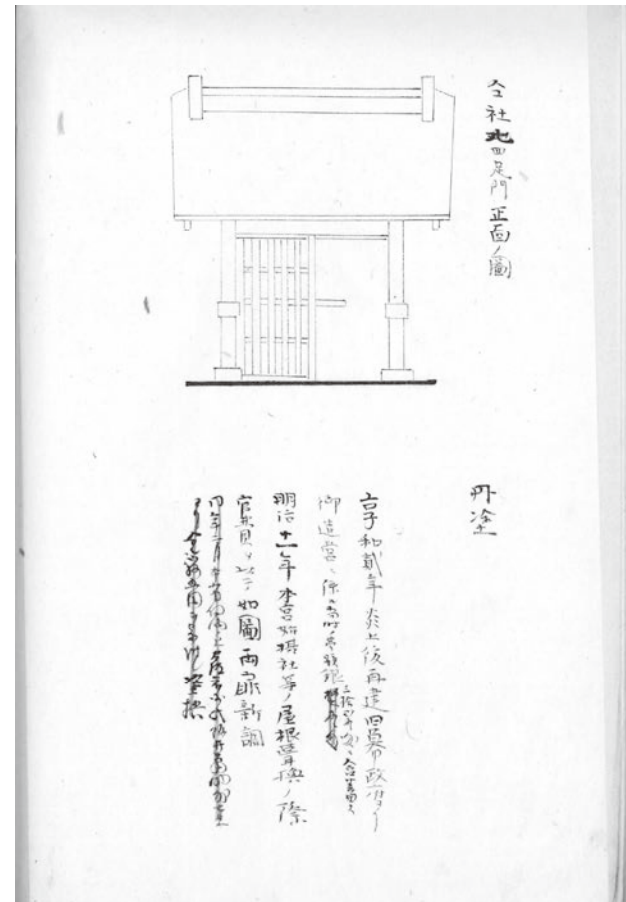
全社南四足門 正面ノ図
丹塗



享和二年炎上后再建ニシテ旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル、当時ノ費額銀拾七貫匁
明治十一年本宮始撰社屋根換ノ際即
官費ヲ以テ如図兩扉新調
南年工用本省願濟ノ下、大阪府平民飯井萬助外
七名ヨリ金三十拾田ヲ寄附シ塗替

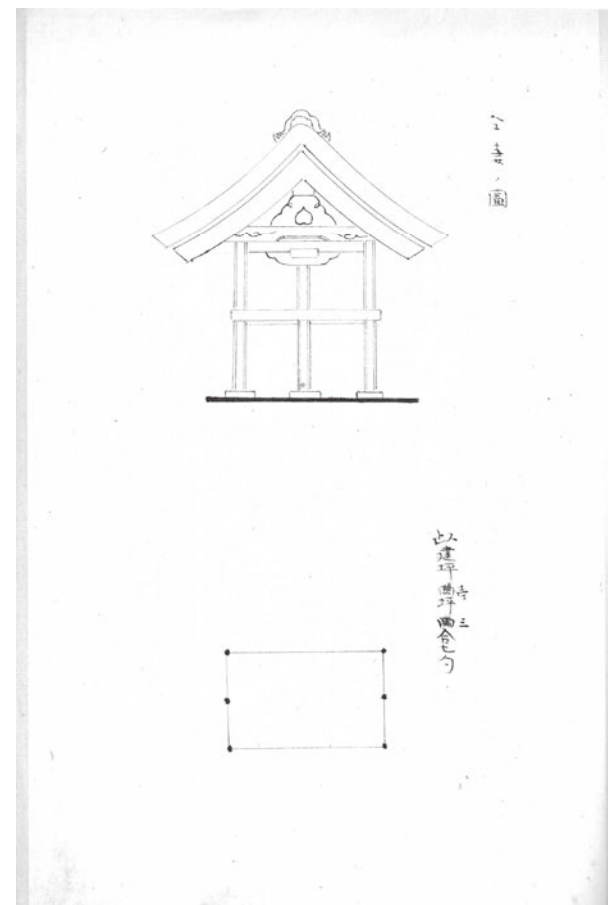
(125)

全社北四足門 正面ノ図
丹塗



享和貳年炎上後再建、旧幕政府ヨリ
御造営ニ係ル、当時ノ費額銀拾七貫匁
明治十一年本宮始撰社等ノ屋根葺換ノ際
官費ヲ以テ如図両扉新調
南年工用本省願濟ノ下、大阪府平民阪井萬助外七名
申引金貳拾五兩ヲ寄附シ塗換

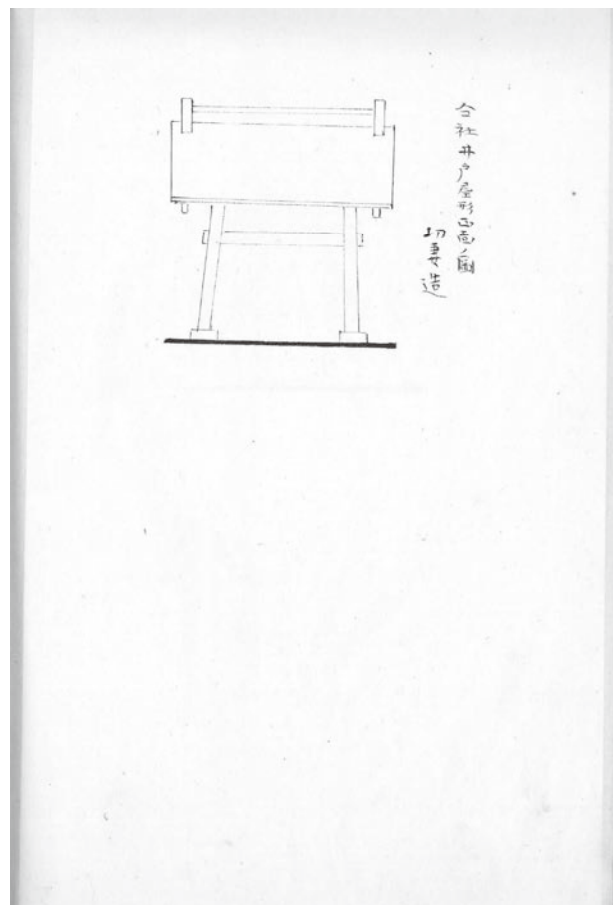
(126) 全妻ノ図



此建坪 四坪四合七勺

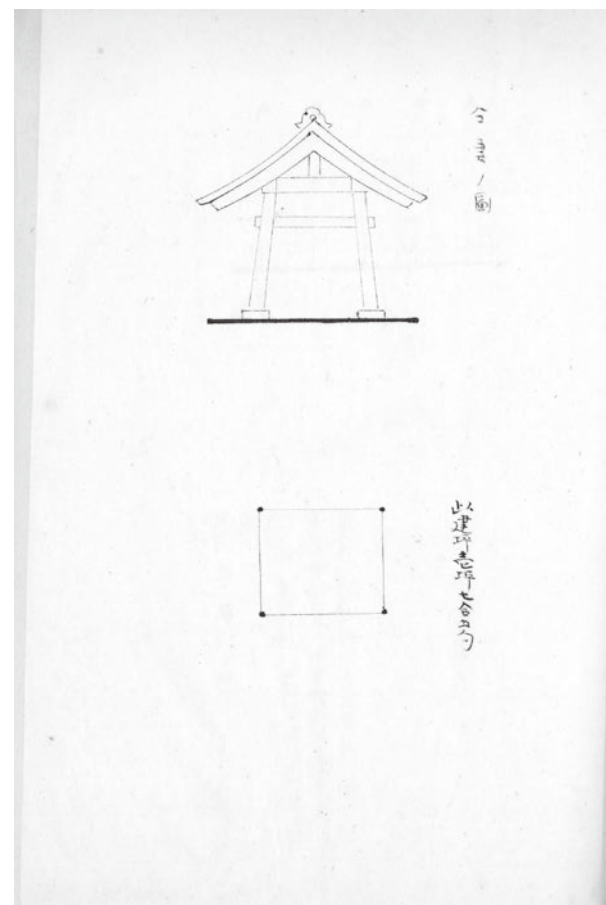
卷 三

(127) 全社井戸屋形 正面ノ図
切妻造

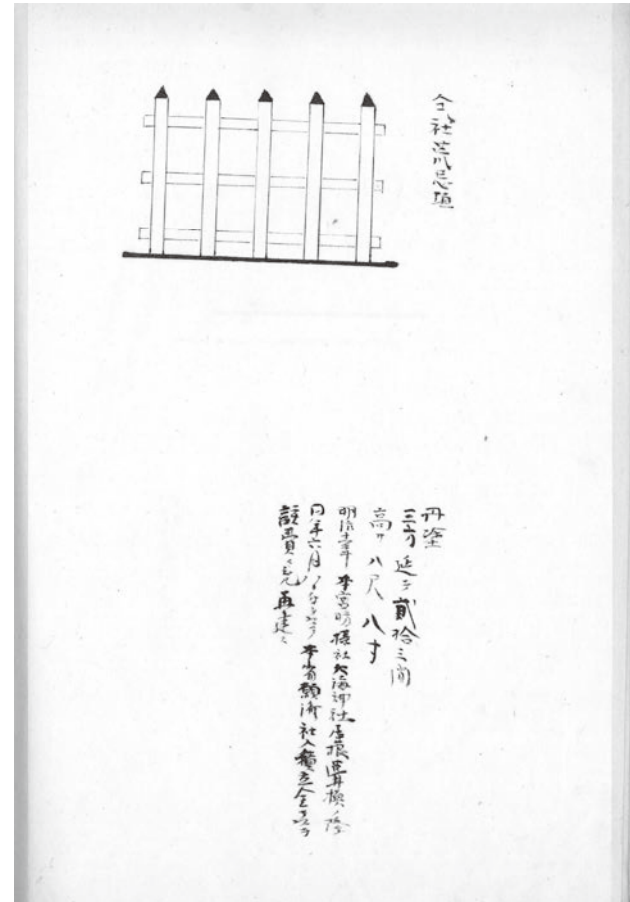


(128)

全妻ノ図



此建坪 老坪七合五勺



三方延テ貳拾三間

高サ 八尺八寸

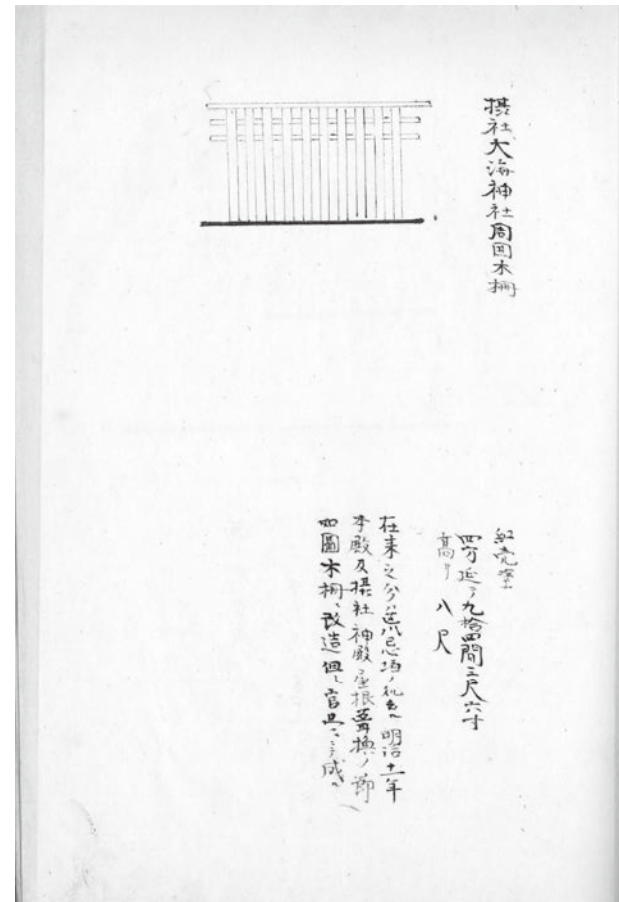
明治十一年本社宮助撰社大海神社屋根葺換ノ際

同年六月八日付ヲ以テ本省願濟、社入積立金ヲ以テ

該費ニ充再建ス

(130)

撰社大海神社周圍木柵
紅壳塗



四方延テ九拾四間三尺六寸
高サ 八尺

在来之分ハ荒忌垣ノ処、去ル明治十一年
才殿及撰社神殿屋根葺換ノ節
如図木柵ニ改造、但シ官費ニテ成ル

(131)

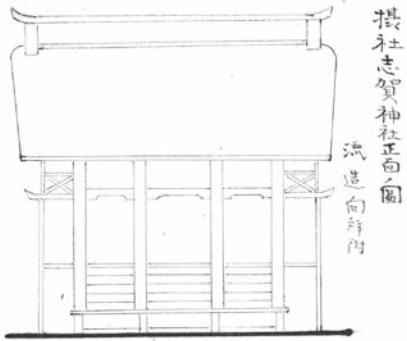
撰社大海神社鳥居
石造



高サ貳間二尺
巾壹間五尺五寸
創立年月未詳

(132)

撰社志賀神社 正面ノ図
流造向拝附、丹塗



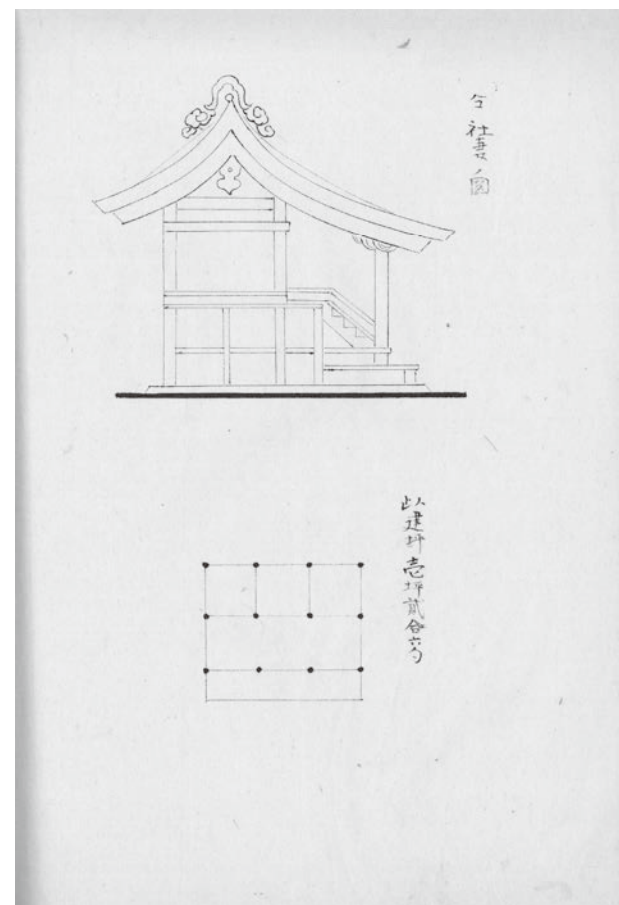
丹塗

享和貳年本宮御改造ト全シ
其費額ハ前書ノ通り銀三拾貳貫匁ノ内ニ
含蓄ス

享和貳年『炎上後』本宮御改造ト全シ
『其費額ハ前書ノ通り銀三拾貳貫匁ノ内ニ』
『含蓄ス』

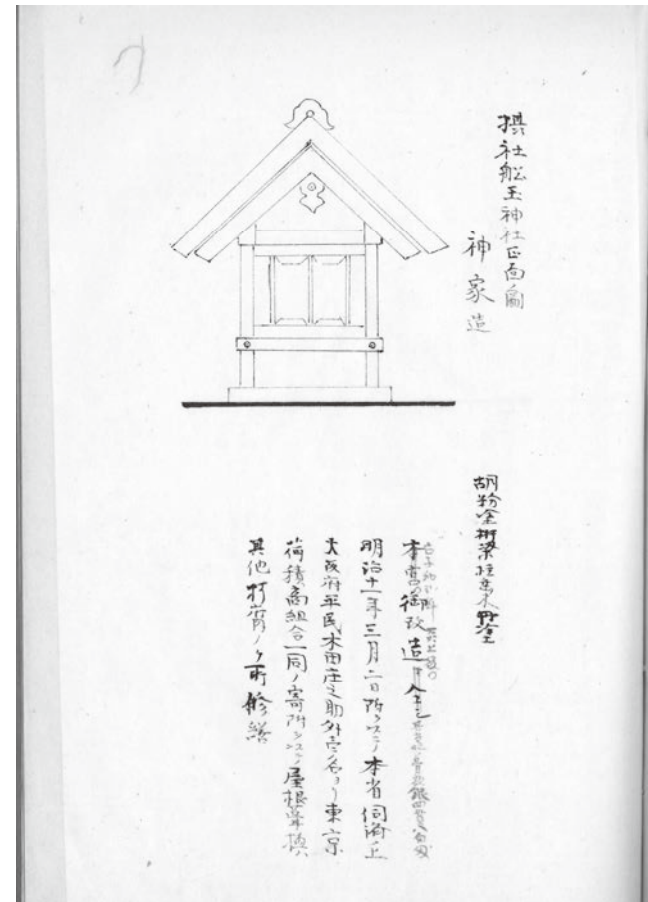
(133)

全社
妻ノ図



此建坪
志坪式合六勾

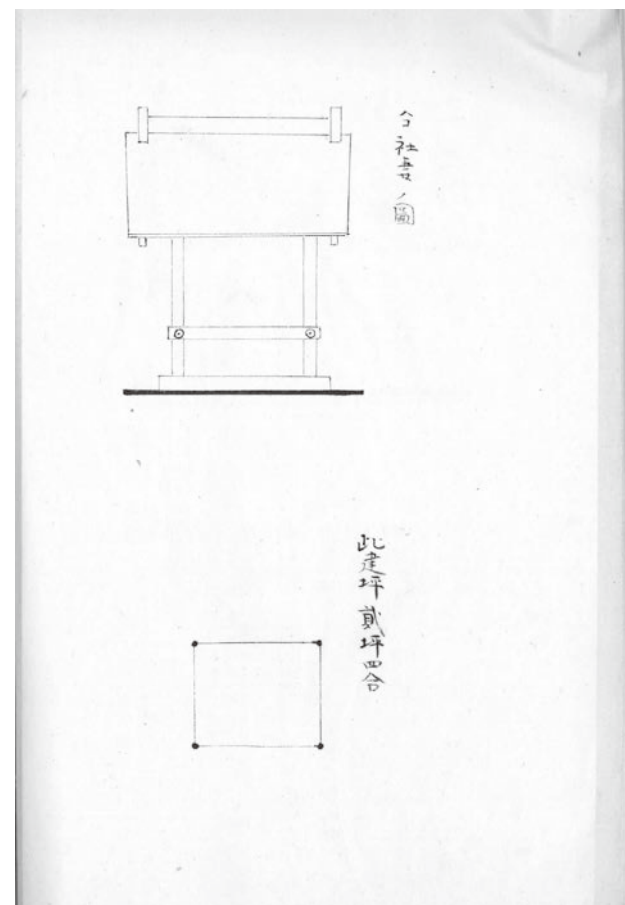
撰社船玉神社 正面ノ図
神家造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



本堂『享和貳年炎上後』御改造ト全シ、『其当時ノ費額銀四貫八百匁』
明治十一年三月二日附ヲ以テ本省伺済ノ上
大阪府平民木田庄之助外名ヨリ東京
荷積商組合一同ノ寄附ヲ以テ屋根葺換、
其他朽腐ノケ所修繕

(135)

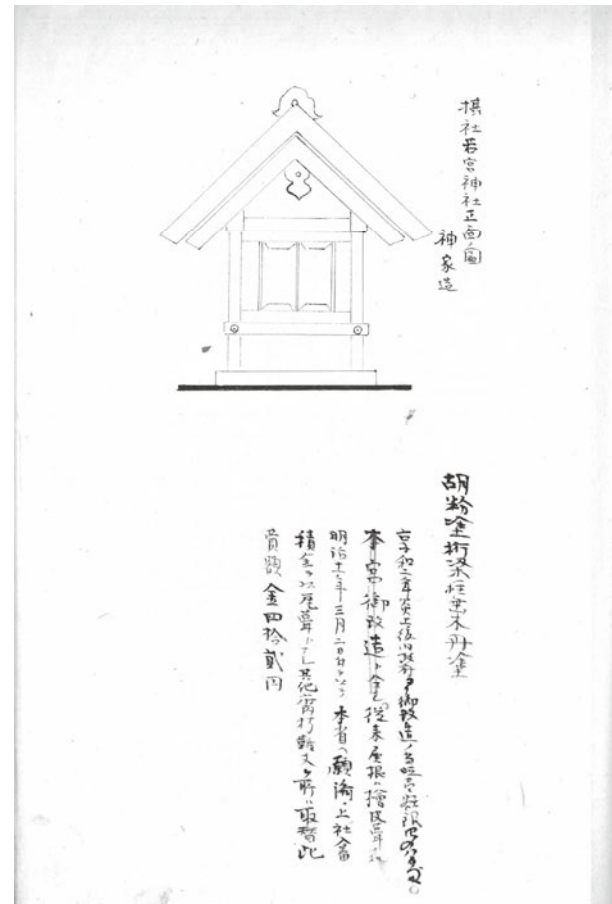
全社
妻ノ図



此建坪
貳坪四合

(136)

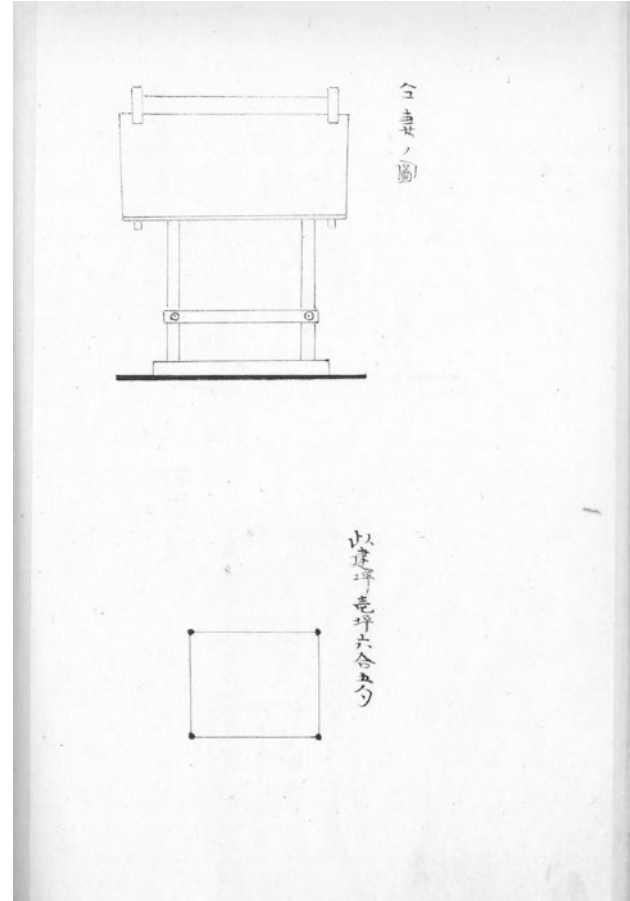
撰社若宮神社 正面ノ図
神家造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



享和二年炎上後旧政府ヨリ御改造ノ当時、費額銀四貫八百匁
本宮御改造ノ全、從來屋根ハ檜皮葺ノ処
明治十一年三月二日付ヲ以テ本省へ願済ノ上、社入蓄
積金ヲ以テ瓦葺トナシ、其他腐朽難支ケ所ハ取替、此
費額金四拾貳円

(137)

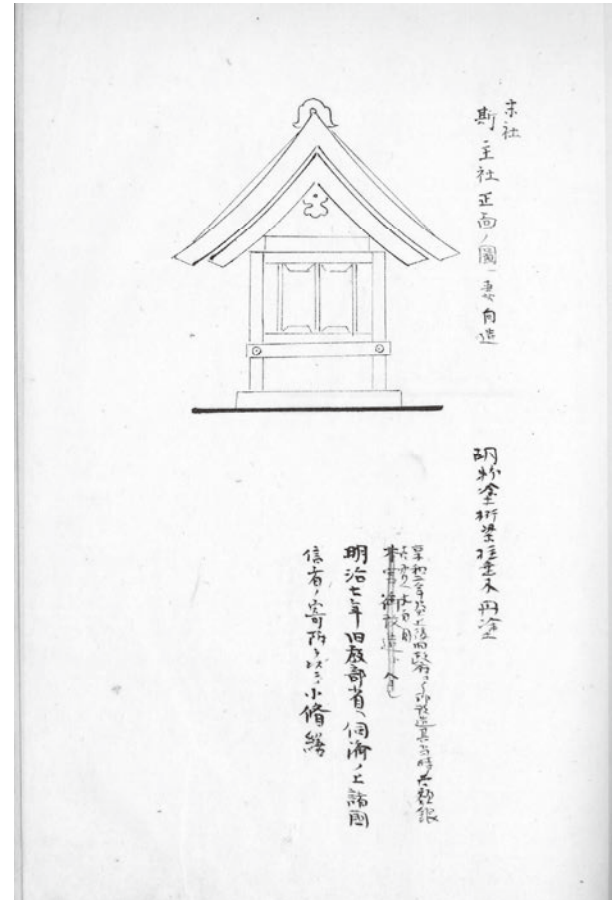
全妻ノ図



此建坪 老坪六合五勺

(138)

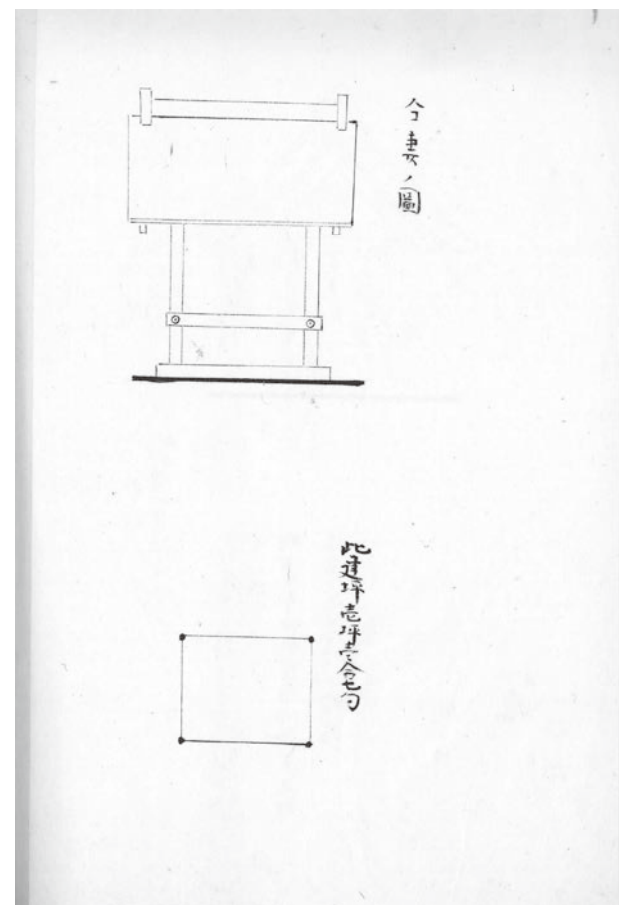
末社斯主社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



昭和二年炎上後旧政府ヨリ御改造、其当時ノ費額銀
老貫七百目
本費御改造ノ全
明治七年旧教部省へ伺済ノ上、諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(139)

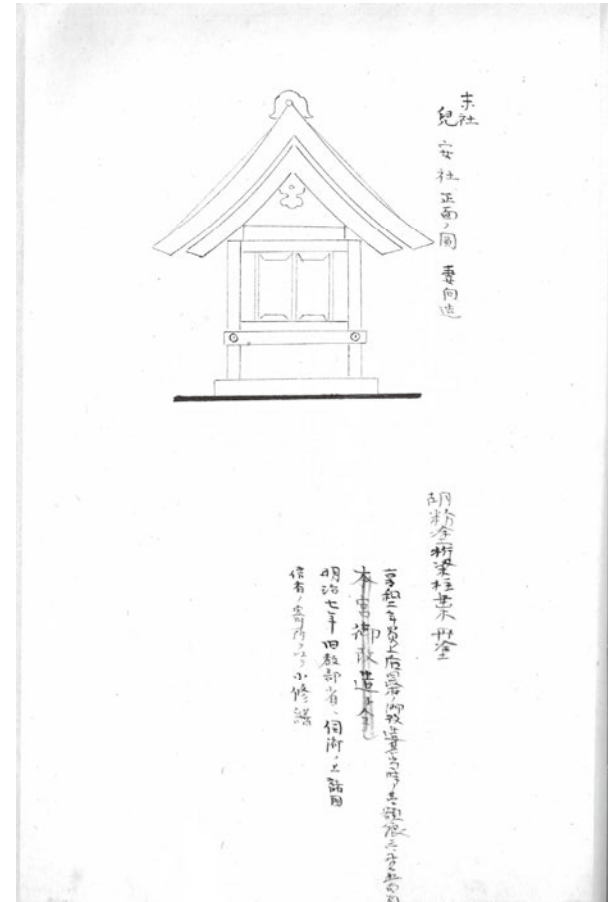
全妻ノ図



此建坪 老坪 壹合七勺

(140)

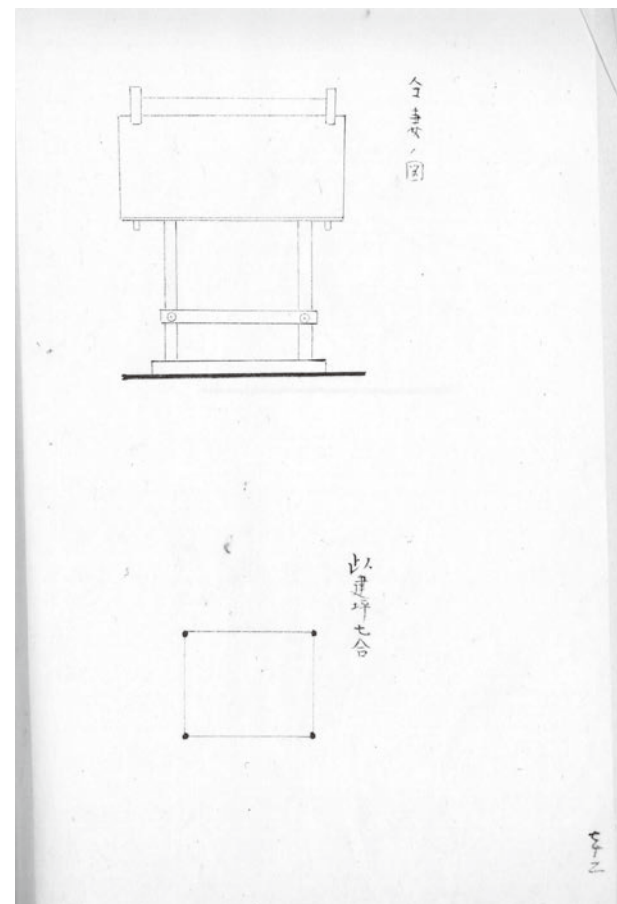
末社児安社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



享和二年炎上后旧政府ノ御改造、其当時ノ費額銀壹貫五百目
本宮御改造ノ全
明治七年旧教部省へ伺済ノ上、諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(141)

全
妻ノ
図

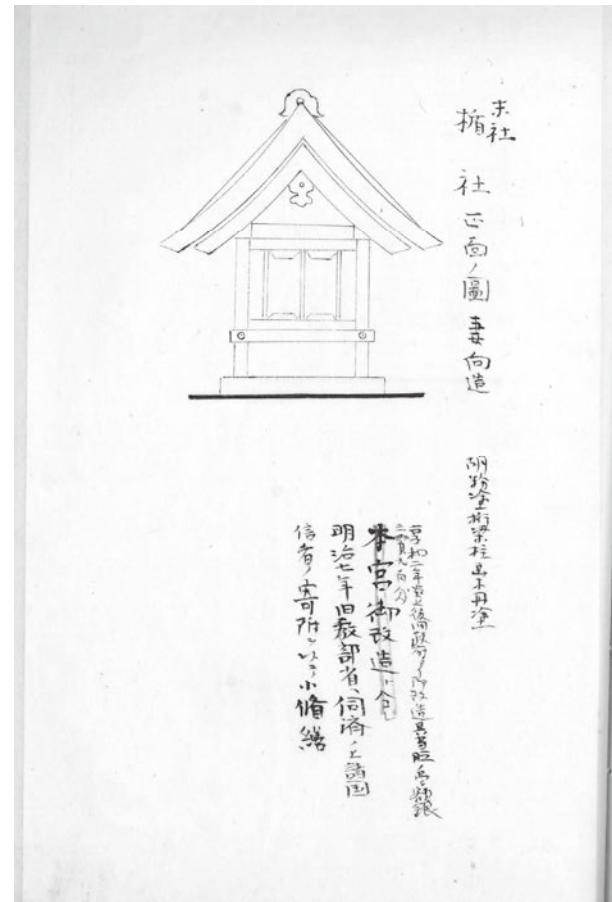


此建坪
七合

七十二

(142)

末社楯社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



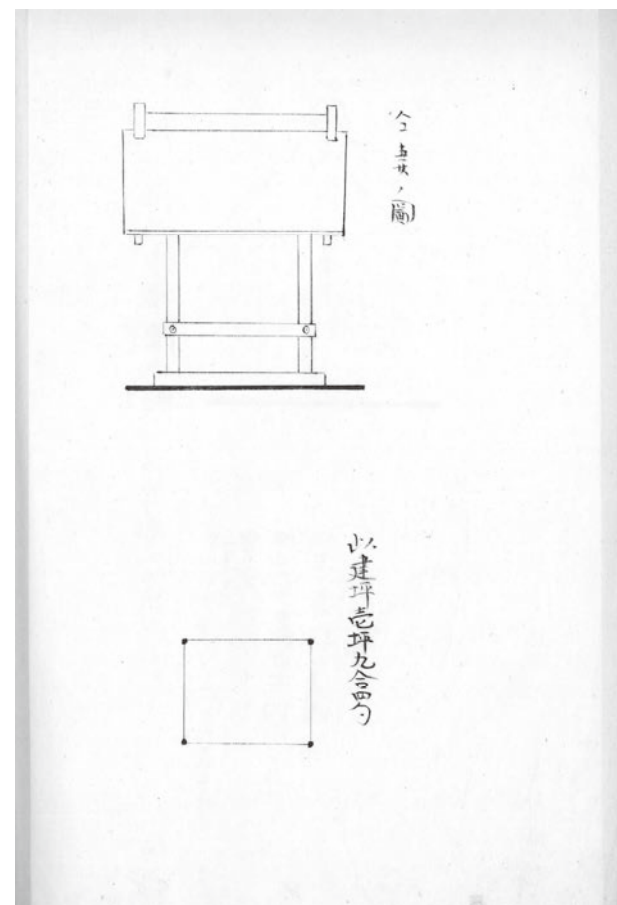
享和二年炎上後旧政府ヨリ御改造、其当時ノ費額銀
三貫九百匁

本宮御改造ノ全ノ

明治七年旧教部省へ伺済ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

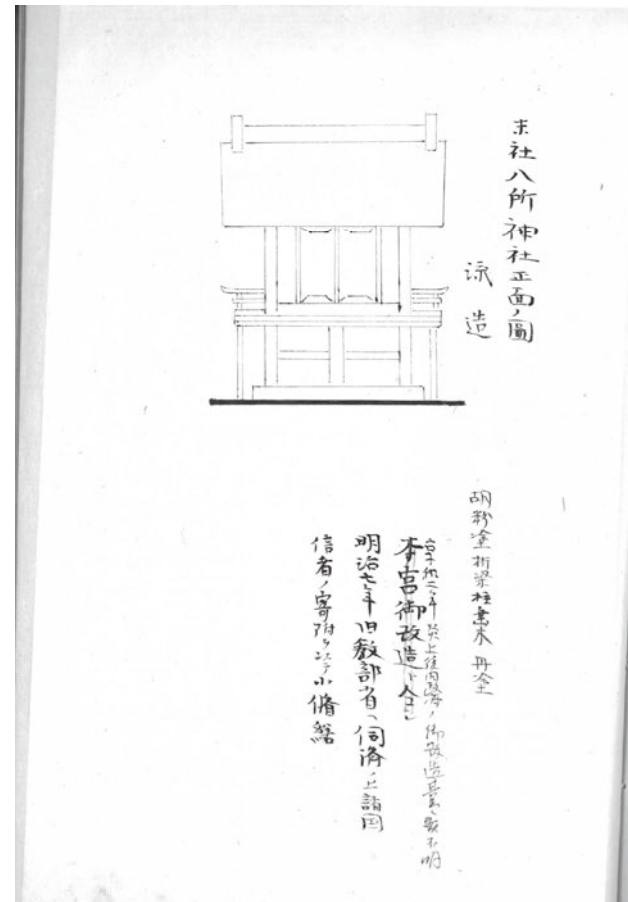
(143)

全妻ノ図



此建坪 老坪九合四勺

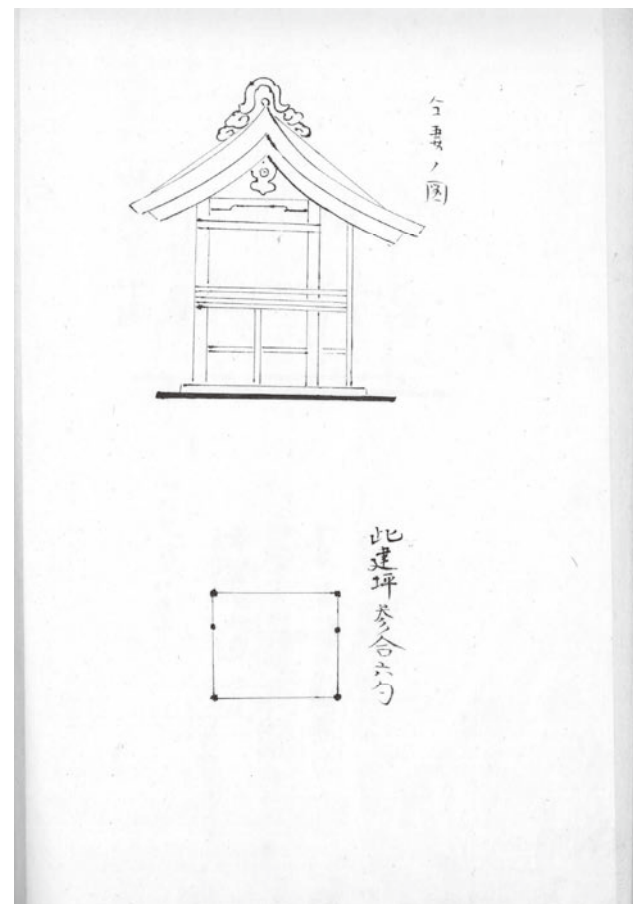
末社八所神社 正面ノ図
 流造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



享和二年炎上後旧政府ノ御改造、其費額不明
 本宮御改造ノ全
 明治七年旧教部省へ伺済ノ上諸国
 信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(145)

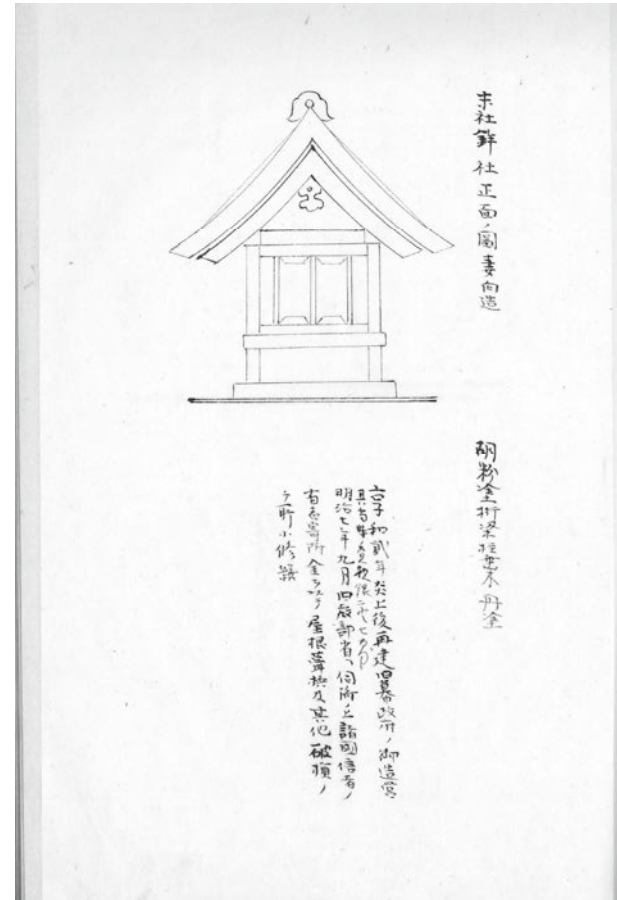
全妻ノ図



此建坪 参合六勾

(146)

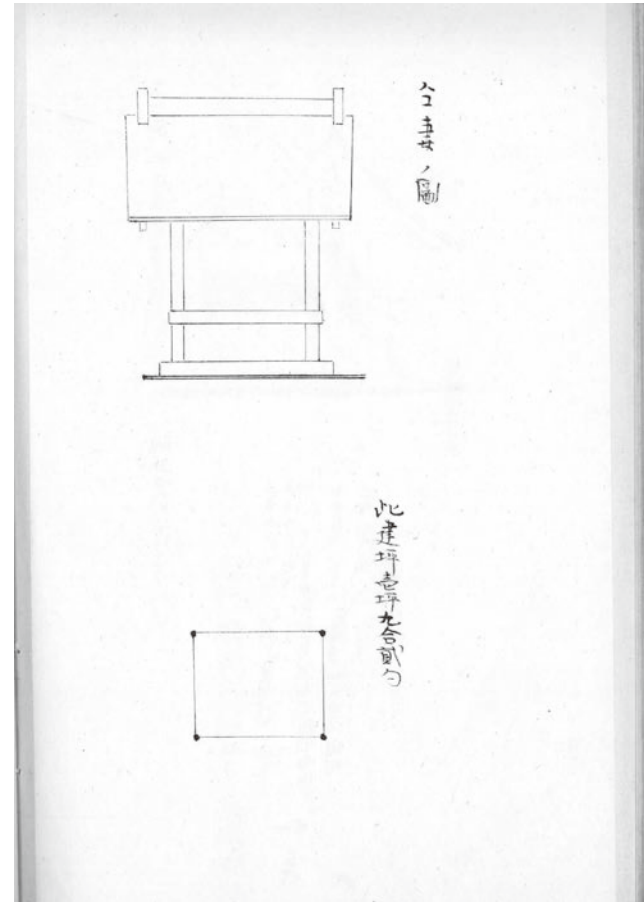
末社鉾社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



享和貳年炎上後再建、旧幕政府ノ御造営
其當時ノ費額銀二貫七百匁
明治七年九月旧教部省ヘ伺済ノ上、諸国信者ノ
有志寄附金ヲ以テ屋根葺換及其他破損ノ
ケ所小修繕

(147)

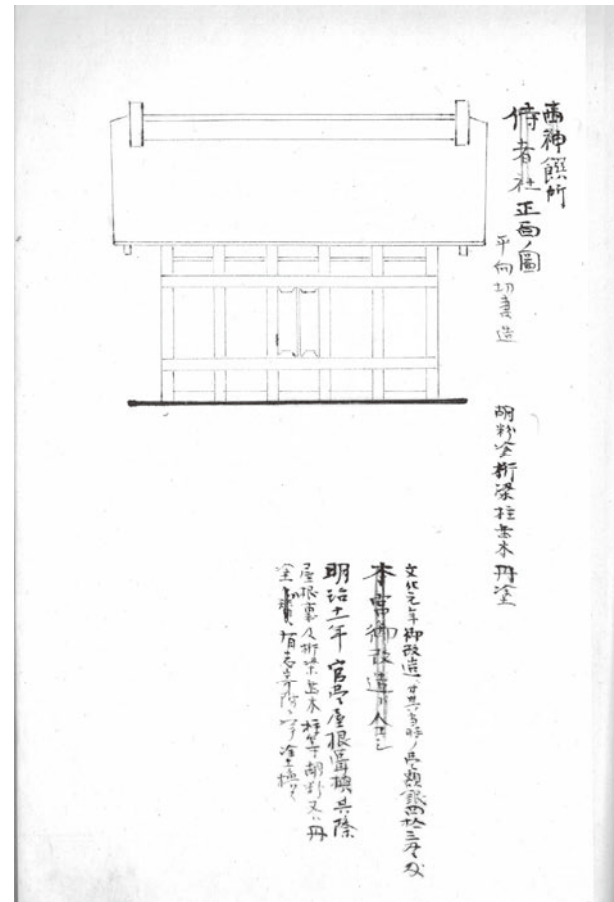
全妻ノ図



此建坪 壹坪九合貳勺

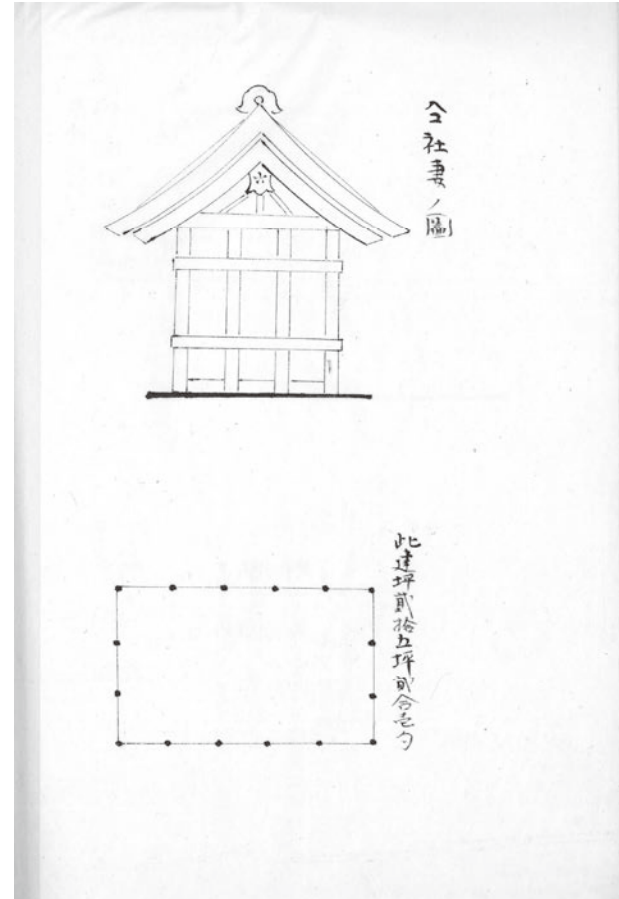
(148)

南神饌所 侍者社 正面ノ図
平向切妻造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



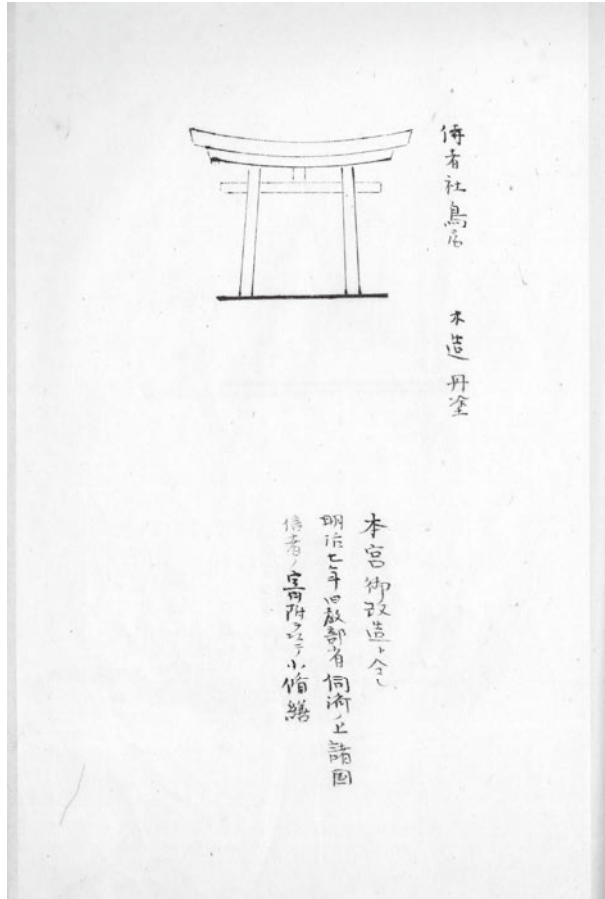
文化元年御改造ニ付其当時ノ費額銀四拾三貫匁
本宮御改造ノ人
明治十一年官費屋根葺換、其際
屋根裏及桁梁垂木柱等胡粉又ハ丹
塗々替ハ有志寄附ヲ以テ塗換ス

(149) 全社 妻ノ図



此建坪 貳拾五坪貳合壹勺

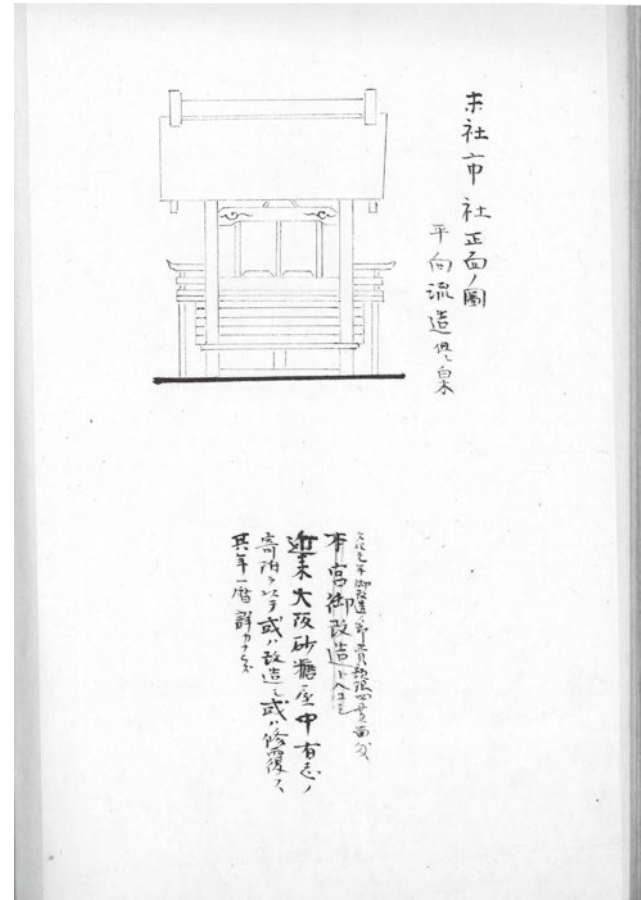
(150) 侍者社鳥居
木造、丹塗



本宮御改造ノ令シ
明治七年旧教部省伺済ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(151)

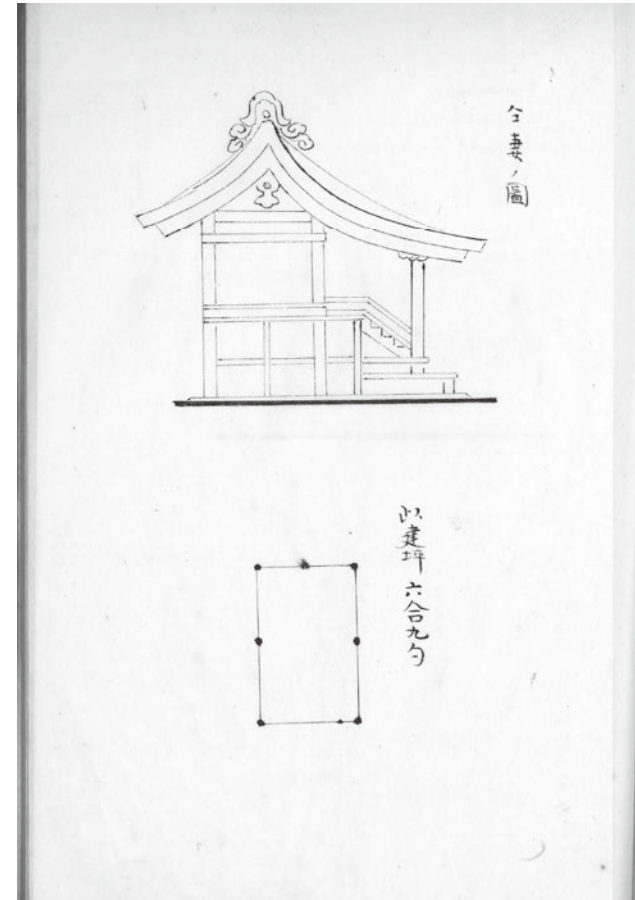
末社市社 正面ノ図
平向流造、但シ白木



文化元年御改造ノ節費額銀四貫百匁
本宮御改造ト全シ

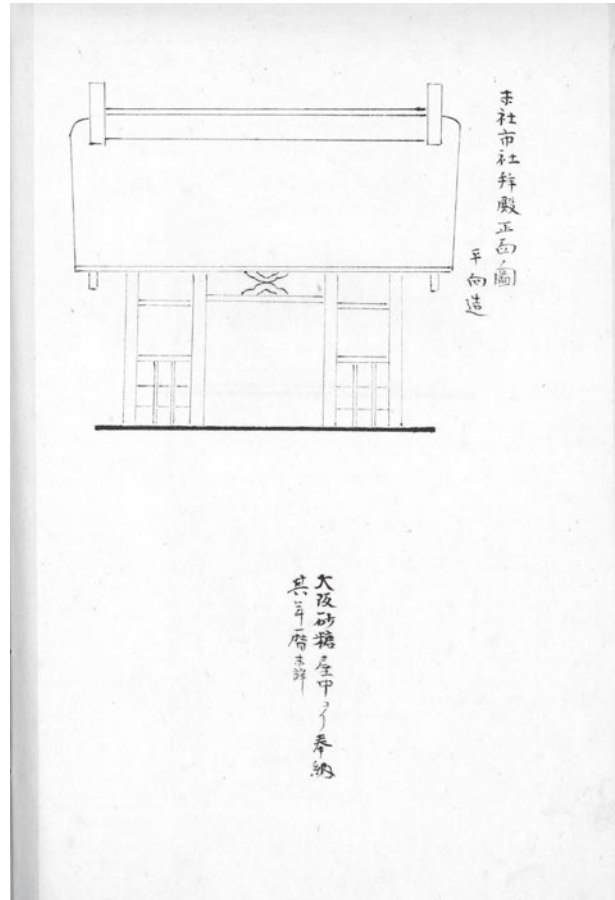
近來大阪砂糖屋中有志ノ
寄附ヲ以テ或ハ改造シ或ハ修覆ス
其年曆詳カナラズ

(152) 全妻ノ図



此建坪 六合九寸

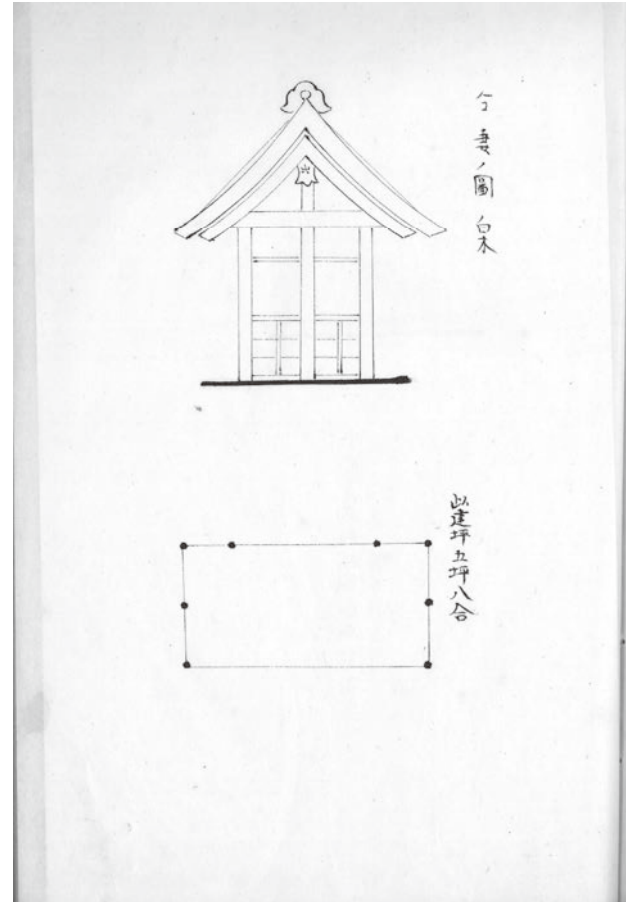
(153) 末社市社拝殿 正面ノ図
平向造



大阪砂糖屋中ヨリ奉納
其年曆未詳

(154)

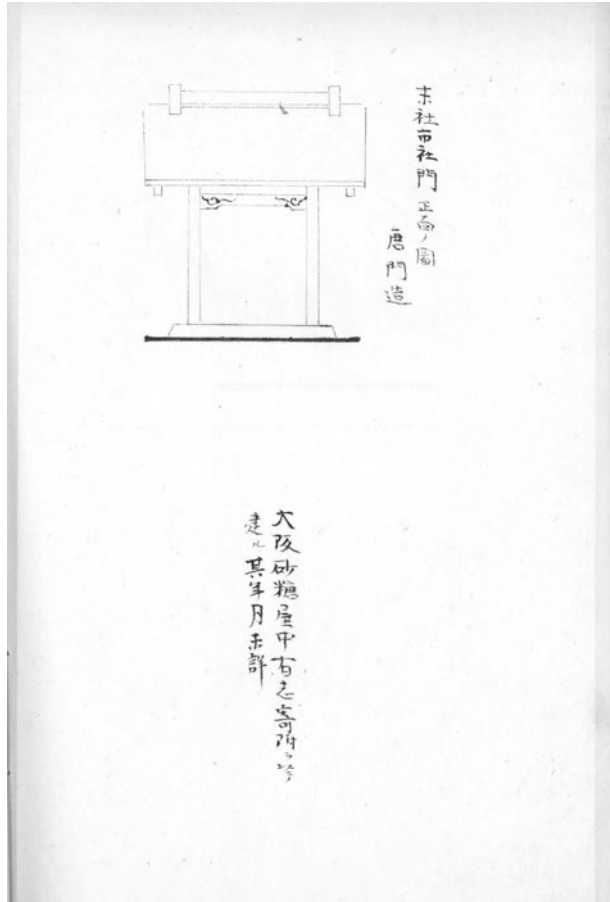
全妻ノ図
白木



此建坪 五坪八合

(155)

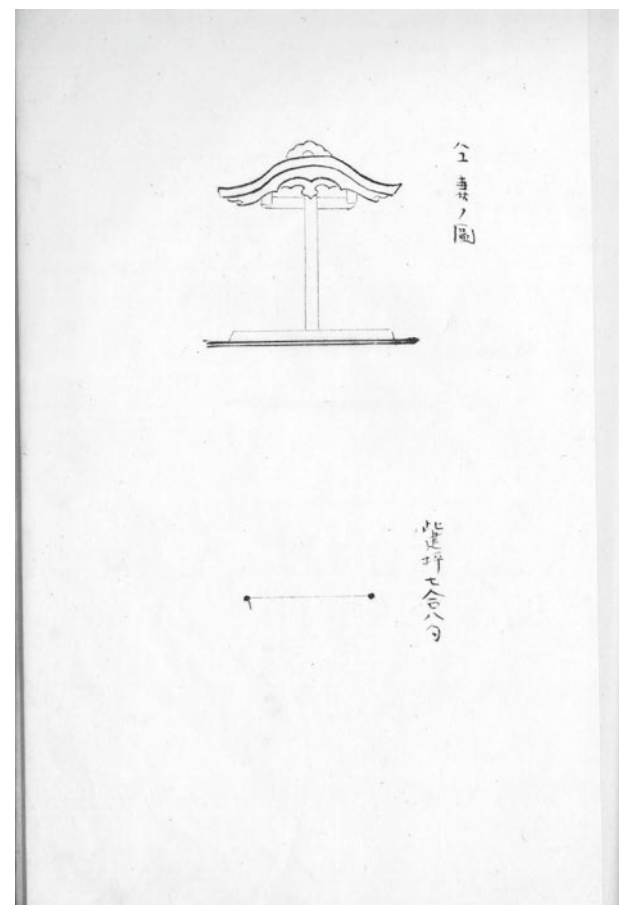
末社市社門 正面ノ図
唐門造



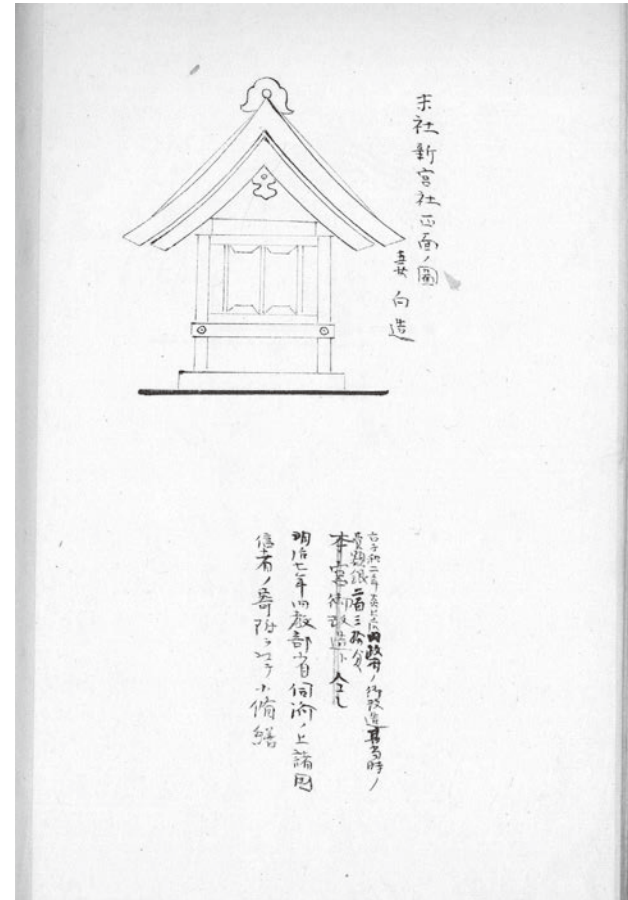
大阪砂糖屋中有志寄附ヲ以テ
建ル、其年月未詳

(156)

全妻ノ図



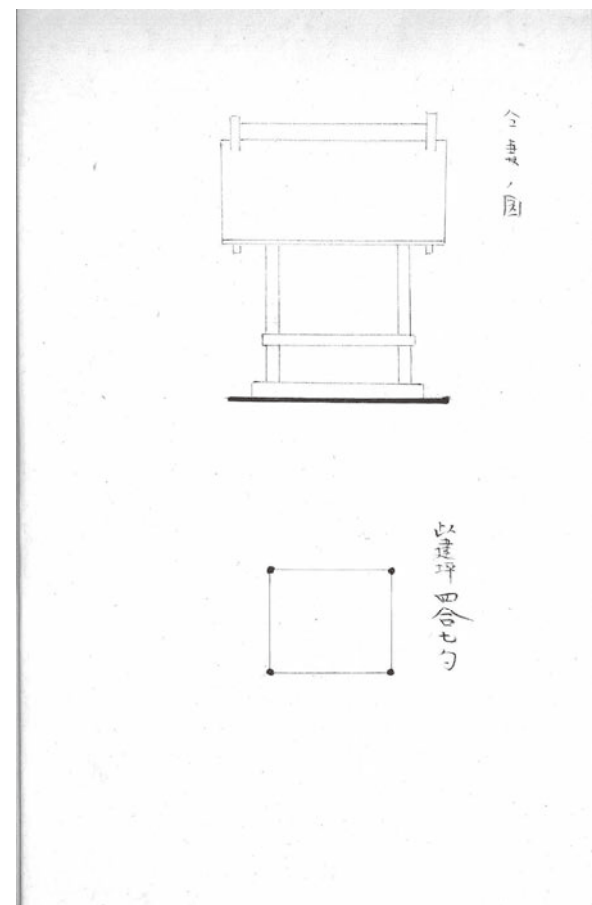
此建坪 七合八勺



享和二年炎上后旧政府ノ御改造、其当時ノ
費額銀二百三拾匁
本宮御改造ノ全
明治七年旧教部省伺濟ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(158)

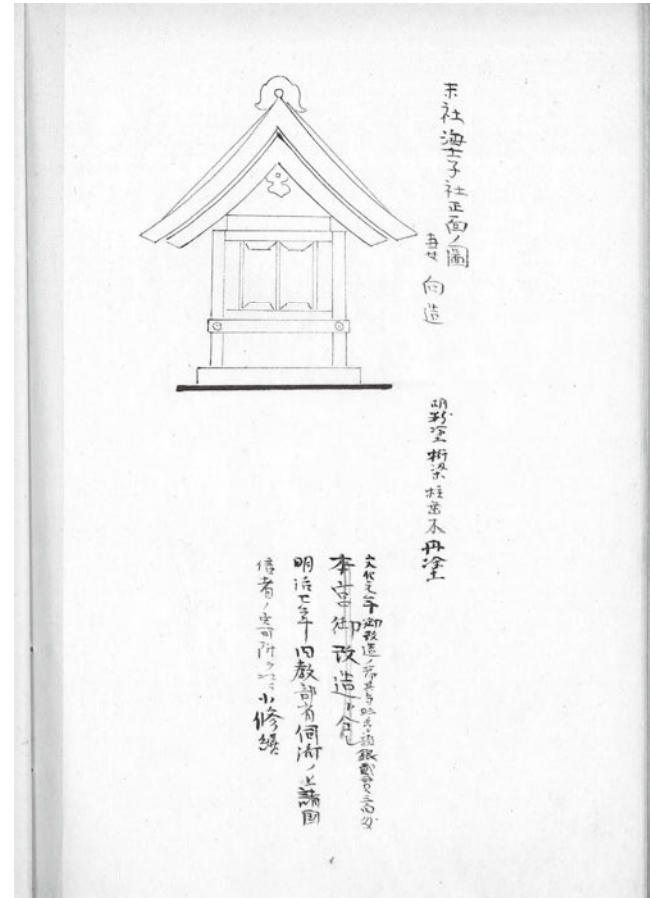
全妻ノ図



此建坪 四合七勺

(159)

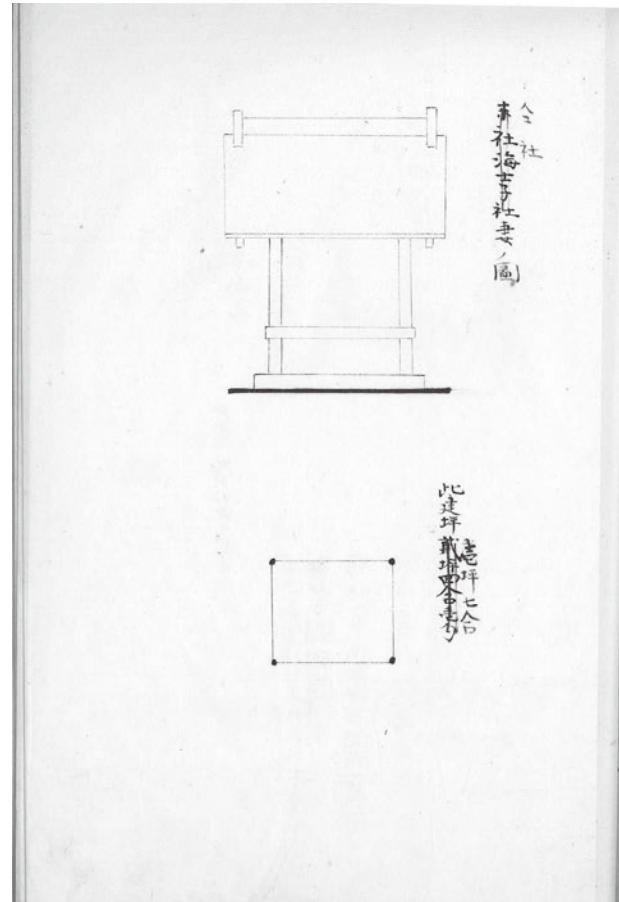
末社海士子社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



文化元年御改造ノ節、其当時費額銀貳貫三百匁
本宮御改造ノ全
明治七年旧教部省伺済ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(160)

全社
末社海士子社 妻ノ図

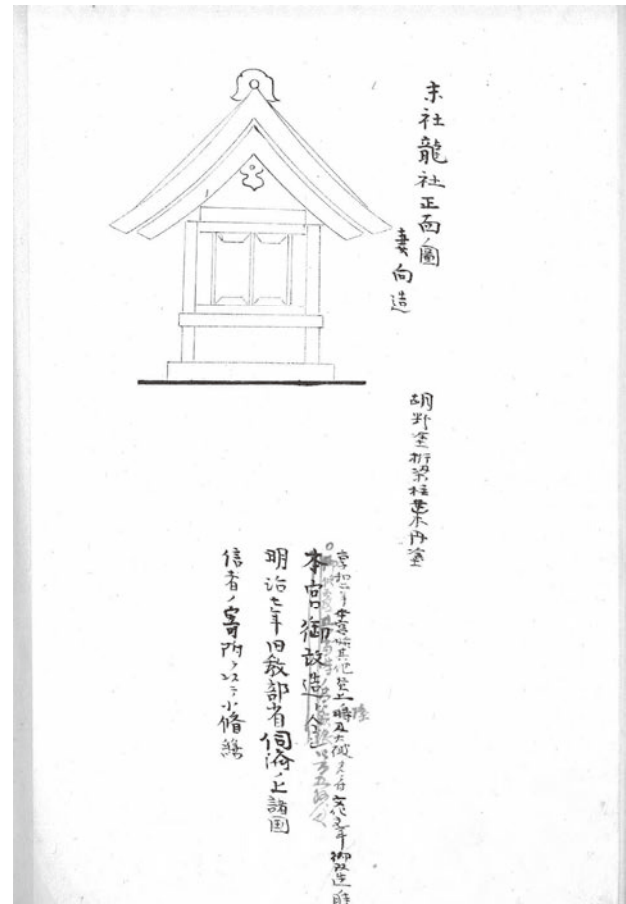


此建坪
載坪四合七合

(161)

末社龍社 正面ノ図

妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



『際』

享和二年本宮始其他炎上ノ畔及大破タルニ付、文化元年御改造ノ時

『御修覆、其当時ノ費額銀四百五拾匁』

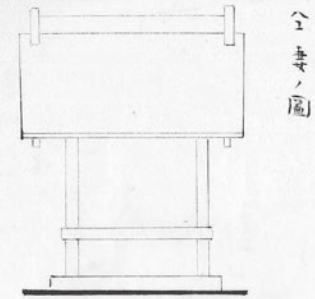
本宮御改造ノ全ノ

明治七年旧教部省伺済ノ上諸国

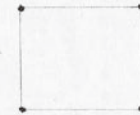
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(162)

全妻ノ図



此建坪戴坪四合ノ



此建坪 式坪四合老勺

(163)

末社今主社 正面ノ図

妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



末社今主社 正面ノ図
妻向造

胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗

本宮御改造ト同シ
明治七年旧教部省伺済ニ諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

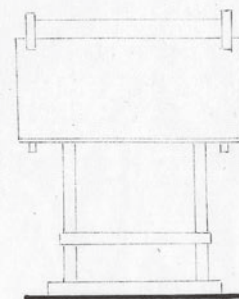
本宮御改造ト同シ

明治七年旧教部省伺済ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

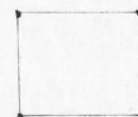
(164)

全社 妻ノ図

全社 妻ノ図



此建坪 八合老ノ



此建坪 老坪八合老ノ

(165)

末社后土社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗

末社后土社 正面ノ図
妻向造



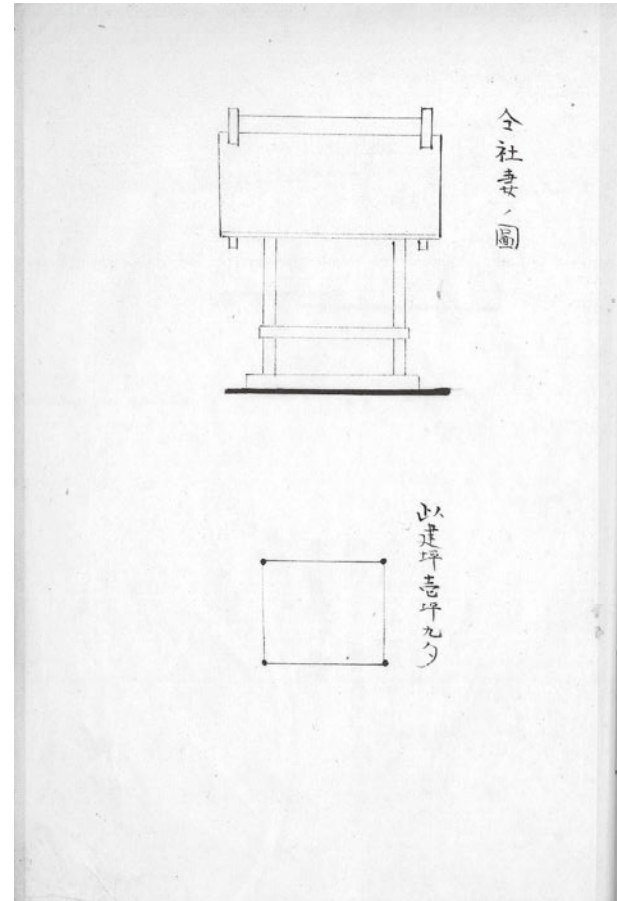
胡粉塗 桁梁柱垂木丹塗

本宮御改造ト全シ
明治七年旧教部省伺濟ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

本宮御改造ト全シ

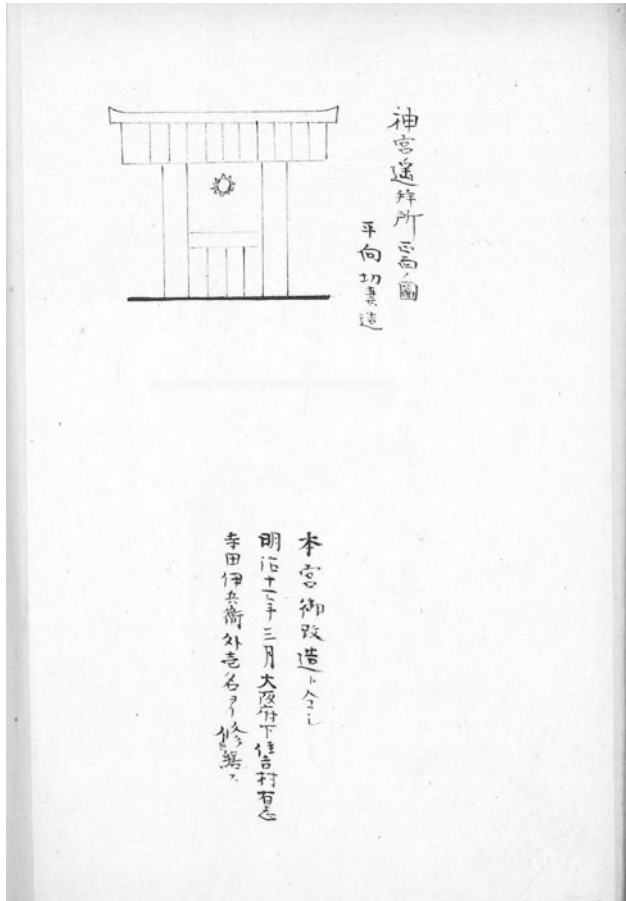
明治七年旧教部省伺濟ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(166)
全社妻ノ図



此建坪 壹坪九勺

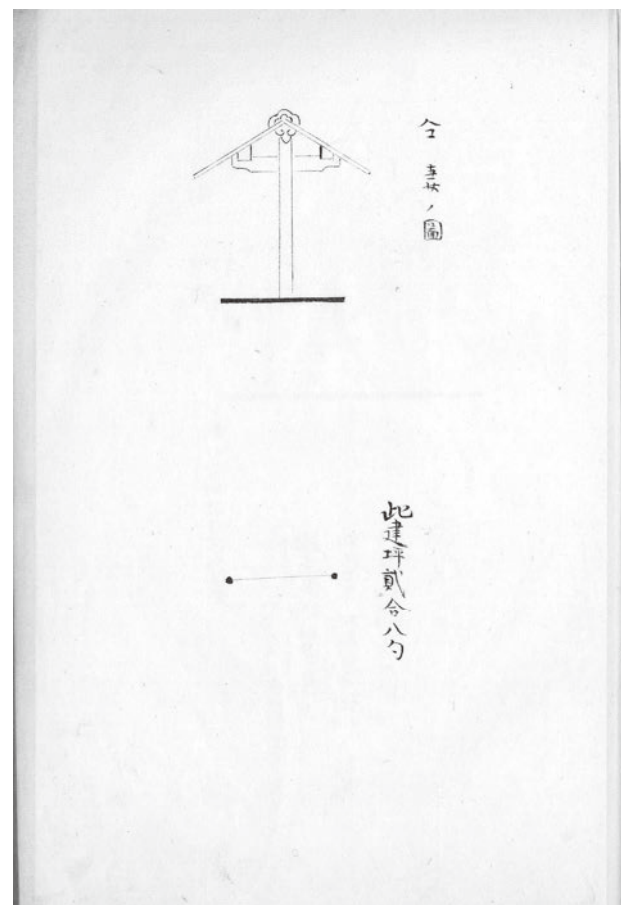
(167)
神宮遙拝所 正面ノ図
平向切妻造



本宮御改造ト合シ
明治十二年三月大阪府下住吉村有志
寺田伊兵衛外老名ヨリ修繕ス

(168)

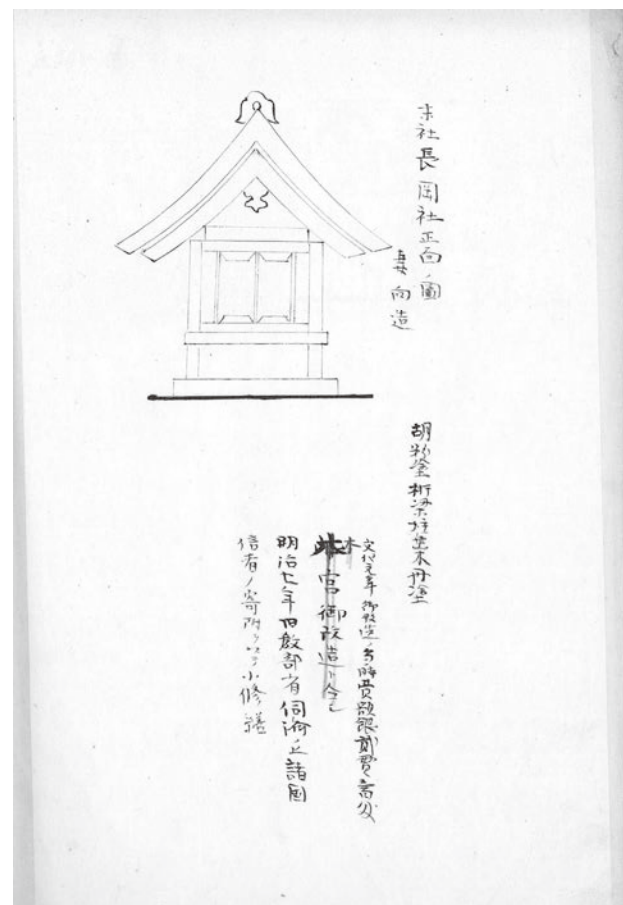
全妻ノ図



此建坪 貳合八勺

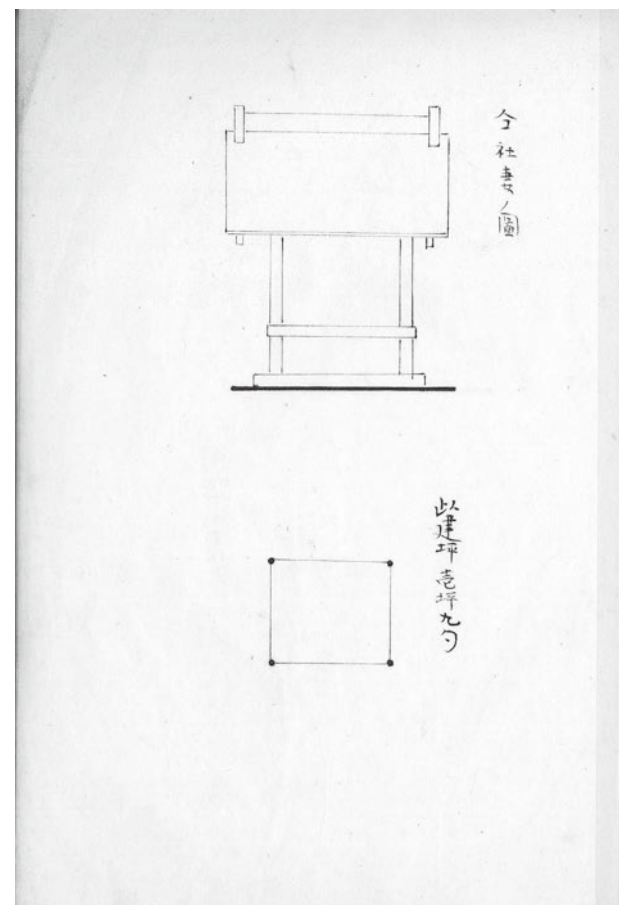
169

末社長岡社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



(170)

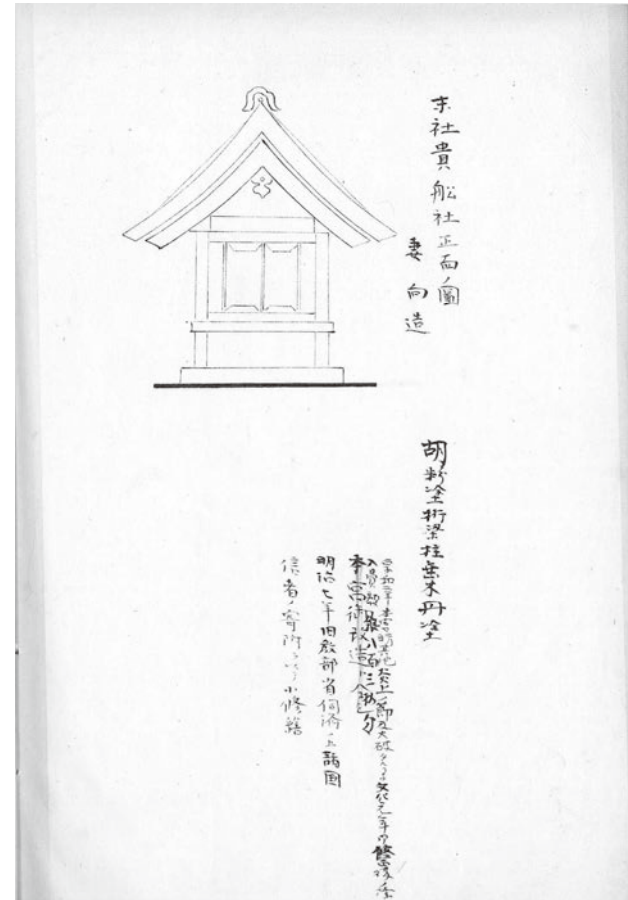
全社
妻ノ図



此建坪
壹坪九勺

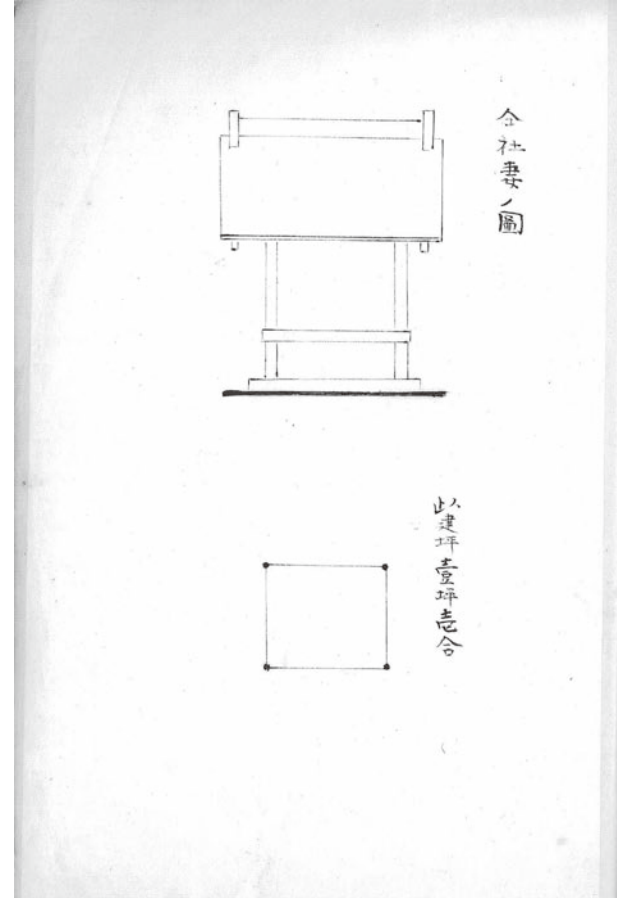
(171)

末社貴船社 正面ノ図
妻向造、胡粉塗、桁梁柱垂木丹塗



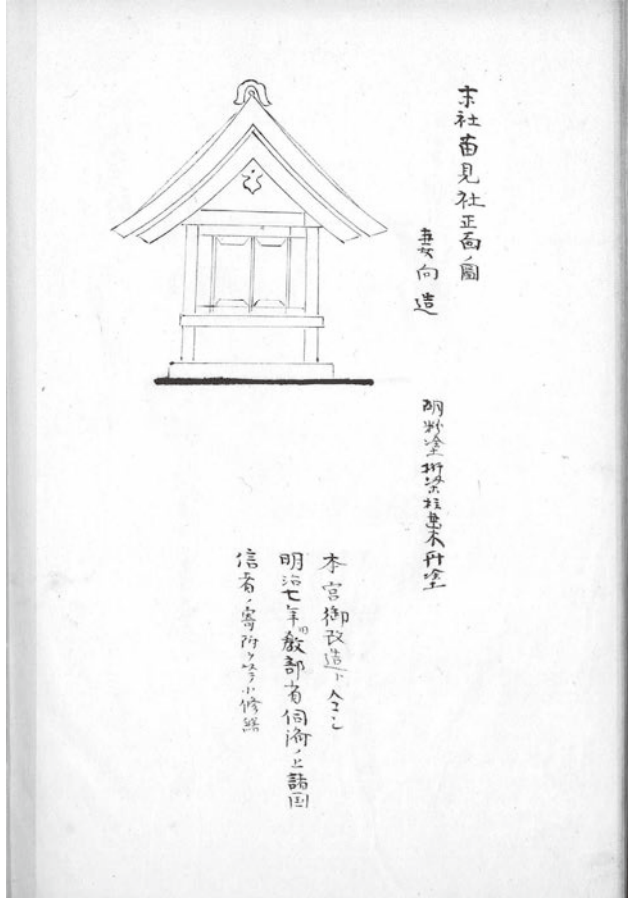
享和二年本宮昉其他炎上ノ節及大破タルニ付、文化元年御修覆ノ際
入費額銀八百三拾匁
本宮御改造小全シ
明治七年旧教部省伺濟ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(172) 全社 妻ノ図



此建坪 壹坪 志合

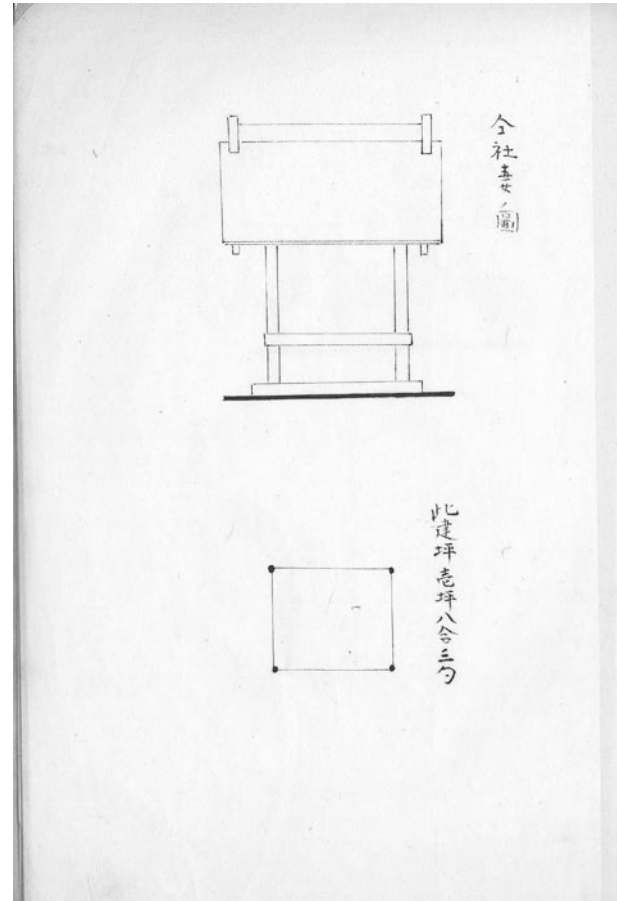
(173) 末社 苗見社 正面ノ図



本宮御改造ト全シ
明治七年敎部省伺済ノ上諸国
信者ノ寄附ヲ以テ小修繕

(174)

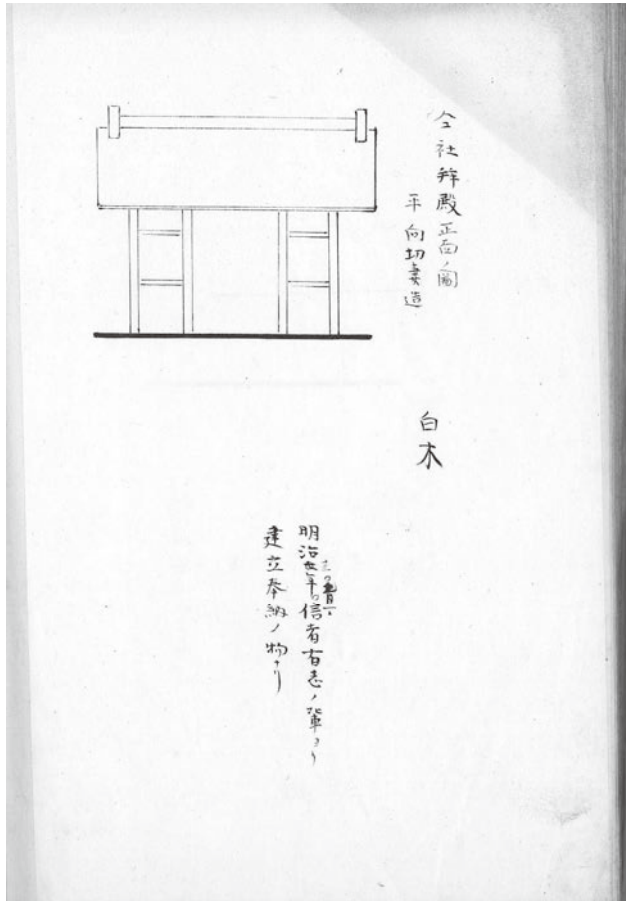
全社 妻ノ図



此建坪 老坪八合三勺

(175)

全社拝殿 正面ノ図
平向切妻造、白木



全社拝殿 正面ノ図
平向切妻造

白木

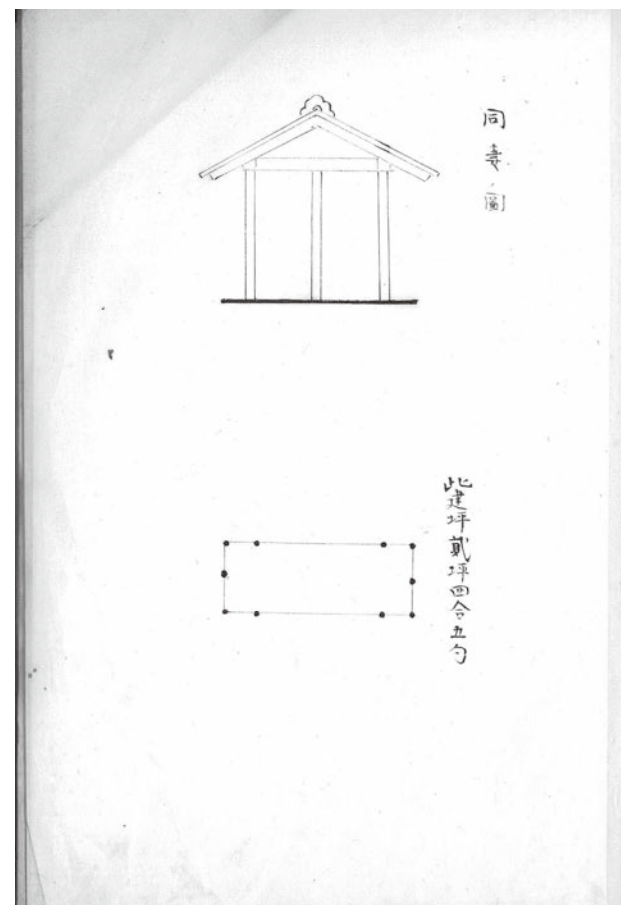
明治七年十一月一日信者有志ノ輩ヨリ
建立奉納ノ物ナリ

十三

明治七年十一月一日信者有志ノ輩ヨリ
建立奉納ノ物ナリ

(176)

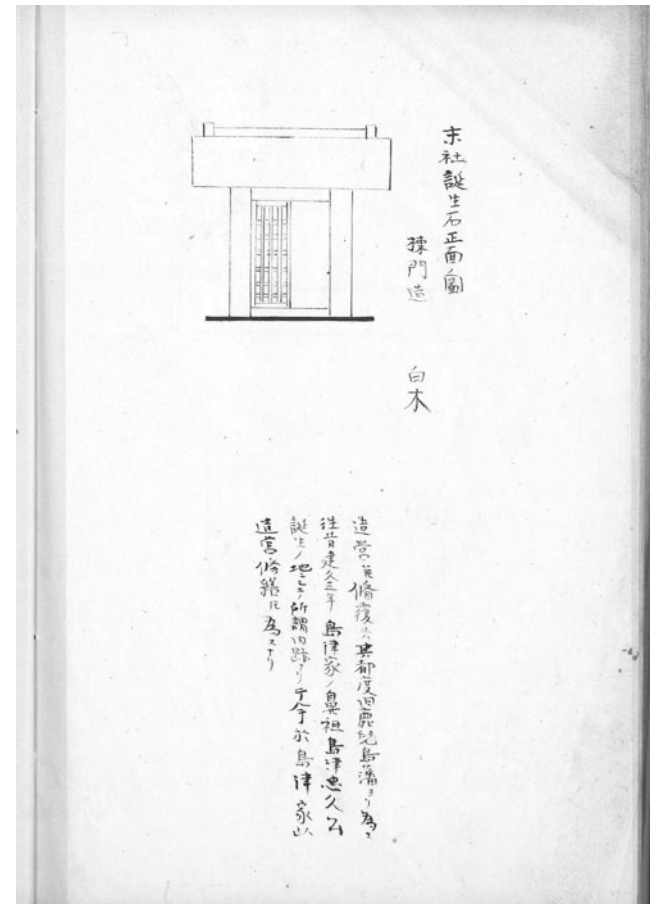
同妻ノ図



此建坪 式坪四合五勺

(177)

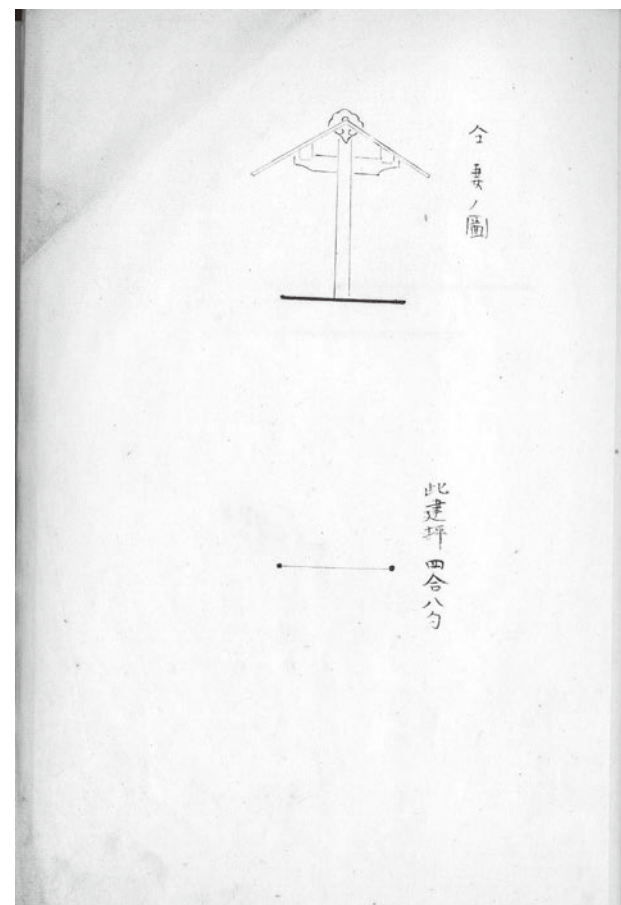
末社誕生石 正面ノ図
棟門造、白木



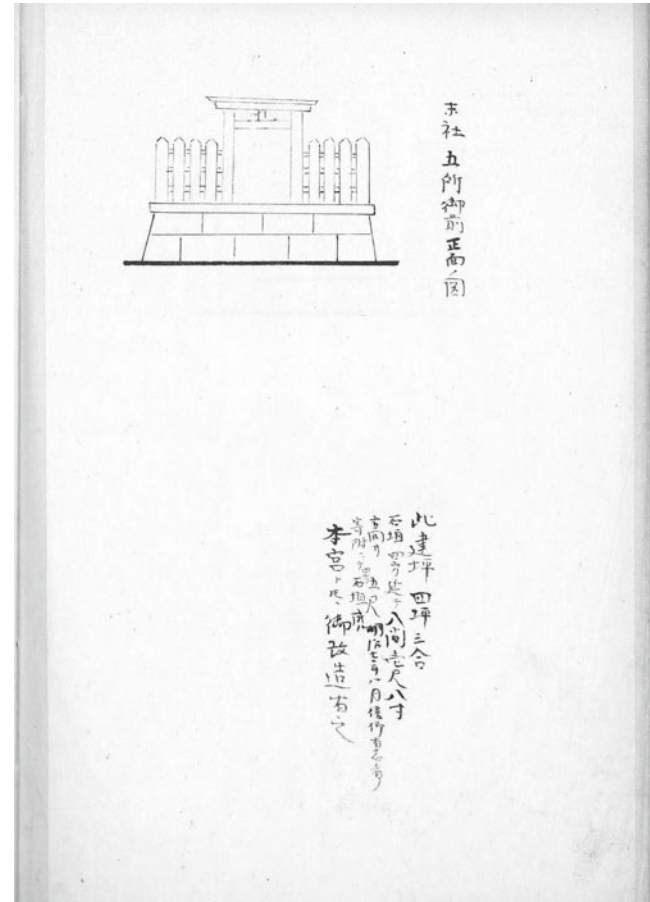
造営并修繕共其都度旧鹿兒島藩ヨリ為ス
往昔建久三年島津家ノ鼻祖島津忠久公
誕生ノ地ニシテ所謂旧跡ナリ、于今於島津家以
造営修繕トモ為スナリ

(178)

全妻ノ図

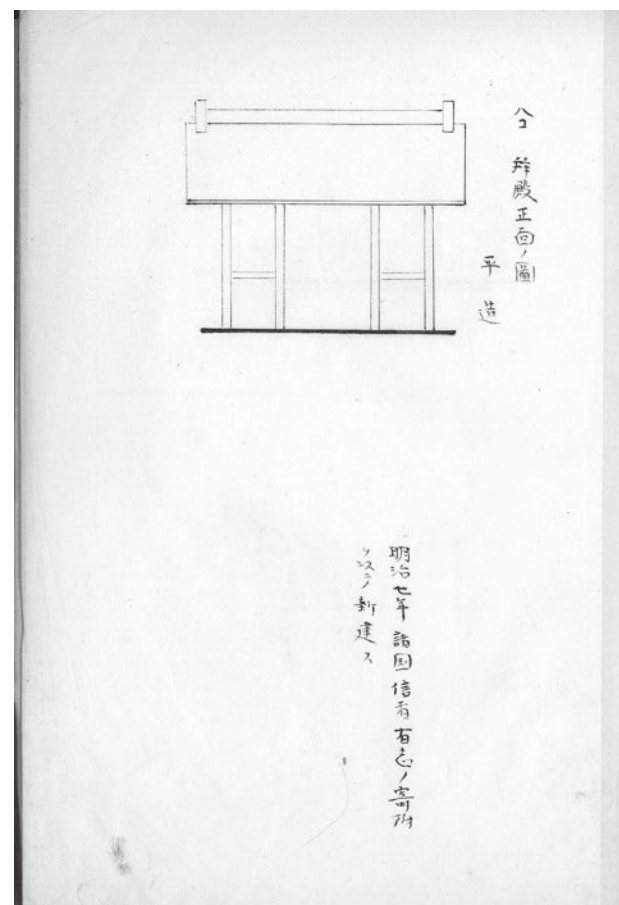


此建坪 四合八勺



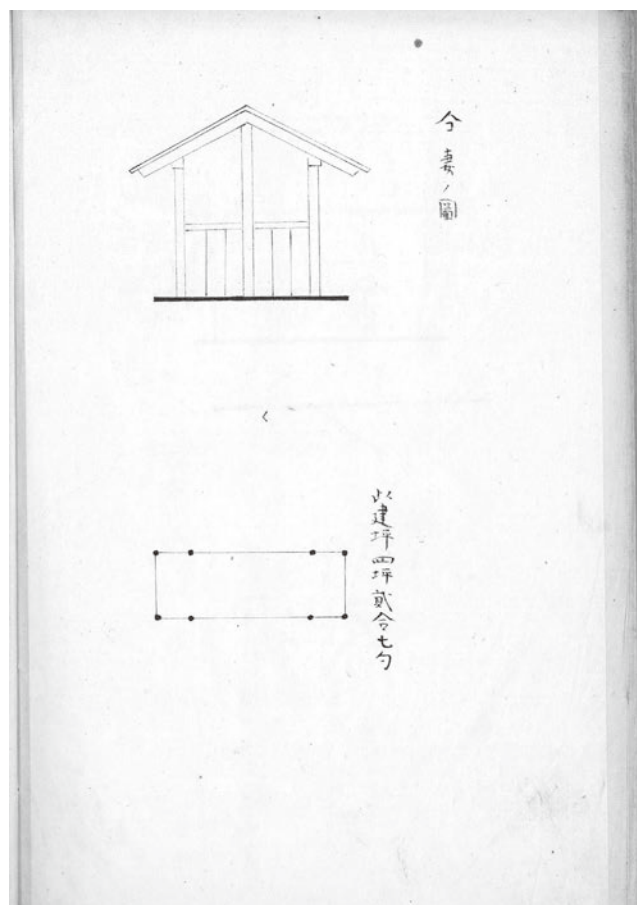
此建坪 四坪三合
石垣四方延テ八間老尺八寸
高サ 五尺 明治七年八月信仰有志者ノ
寄附ニテ四方石垣成ル
本宮卜トモニ御改造有之

(180) 全拝殿 正面ノ図
平造



明治七年諸国信者有志ノ寄附
ヲ以テ新建ス

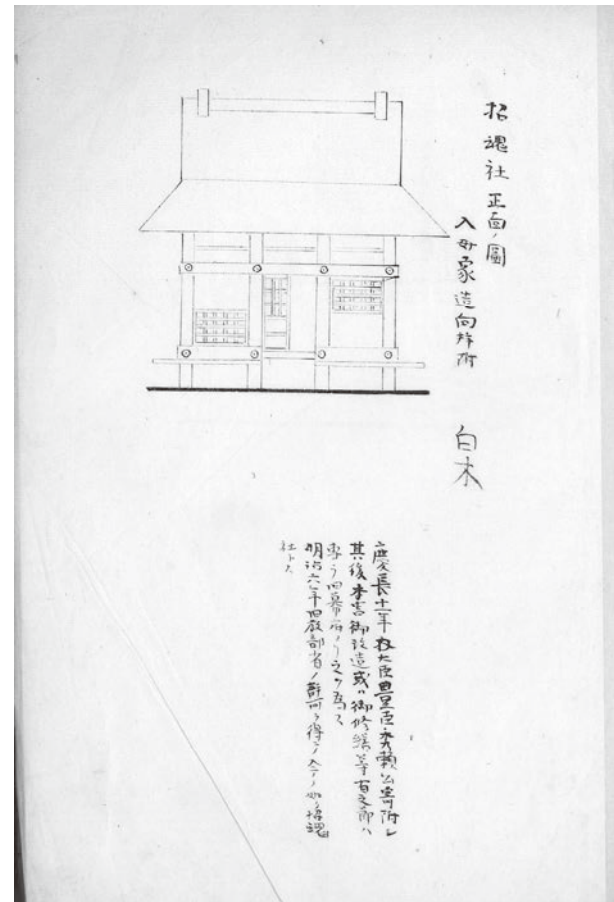
(181) 全妻ノ図



此建坪 四坪貳合七勺

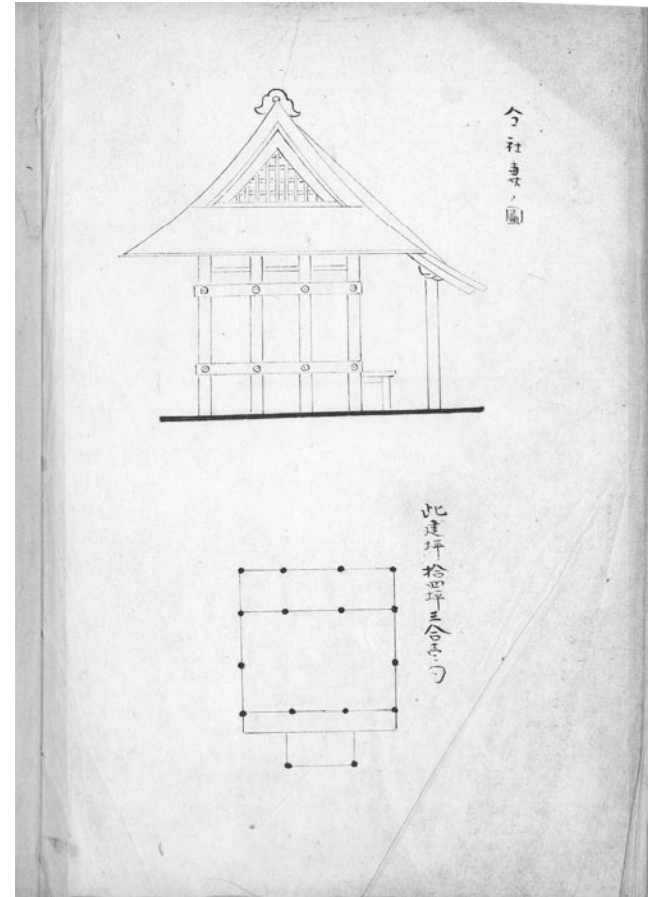
(182)

招魂社 正面ノ図
入母家造、向拝附、白木



慶長十一年内大臣豊臣秀頼公寄附シ
其後本宮御改造或ハ御修繕等有之節ハ
専ラ旧幕府ヨリ之ヲ為ス
明治六年旧教部省ノ許可ヲ得テ今ノ如ク招魂
社トス

(183) 全社 妻ノ図

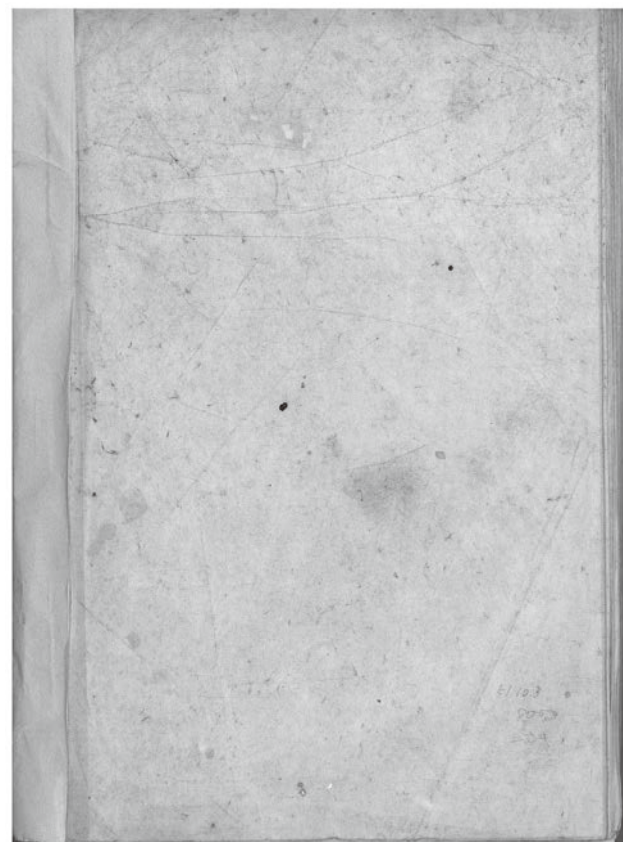


此建坪 拾四坪三合壹勺

(184) 招魂社鳥居 石造



高サ 五間三尺五寸
巾 壹間貳尺五寸



(185)

(裏表紙)

本報告書は、平成二十八年度関西大学創立一三〇周年記念特別研究費（なにわ大阪研究）「住吉・堺の歴史景観の復元」の研究成果の一部として公開するものです。

研究代表者 黒田 一充 関西大学文学部教授

研究分担者 乾 善彦 関西大学文学部教授

岡 絵理子 関西大学環境都市工学部教授

橋寺 知子 関西大学環境都市工学部准教授

井浦 崇 関西大学総合情報学部准教授

櫻木 潤 高野山大学文学部助教

翻 刻 中田 佳子

編集協力 森 花絵 関西大学文学部四年生

明治貳拾八年十一月十五日

現今建物官営社営略図及明細書

発行日 二〇一七年三月十三日

発行所 関西大学なにわ大阪研究センター

編集 橋寺 知子

〒五六四―八六八〇

大阪府吹田市山手町三―三―三五

